

(仮称) 錦帯橋資料館等整備基本計画 (案)

令和5年1月

岩 国 市



目 次

第 1 章 計画の背景と目的	1
第 2 章 計画の構成と策定フロー	2
第 3 章 上位計画の整理	4
第 4 章 地区住民アンケート	11
第 5 章 ヒアリング	
1. 自治会長ヒアリング	38
2. 岩国城下町団体ヒアリング	45
3. 観光事業者ヒアリング	48
第 6 章 住民ワークショップ	52
第 7 章 （仮称）錦帯橋資料館等のコンセプト	
1. （仮称）錦帯橋資料館等のコンセプト	75
2. 岩国市博物館との役割分担	76
3. 周辺施設とのネットワークの形成	76

第8章 施設計画

1. 敷地条件の検討	77
2. 法的条件の整理	78
3. 機能の検討と機能連関.....	79
4. 必要諸室の検討	80
5. 施設規模の検討	82
6. 施設計画	83

第9章 展示計画

1. 展示の基本的考え方	85
2. 各階展示イメージ	85

第10章 管理運営の検討

1. 管理運営の基本的考え方	92
2. 開館形態	92
3. 管理運営方式	93

第11章 今後のスケジュール等

1. 今後のスケジュール	94
2. 概算工事費	94

参考資料 検討の経過	95
------------------	----

第1章 計画の背景と目的

岩国城下町は、旧山陽道と瀬戸内海に挟まれ、錦川の上中流域とも交流しやすい位置に開かれました。

慶長5年（1600）、初代岩国藩主となった吉川広家は、錦川が山裾を取り巻く城山に居城を構え、右岸の横山地区と左岸の岩国地区に城下町を建設し、この兩岸を結ぶため、長年の努力の末、延宝元年（1673）に約200mの川幅を渡る5連の美しい錦帯橋を架けました。以来この地に「物見の賑わい」が生まれ、現代にいたるまで発展と活力の源となっています。

年間60万人以上の観光客が訪れる錦帯橋ですが、多くの来訪者の観光行動は河川敷の駐車場に駐車したのち、錦帯橋を渡り横山地区に入り、岩国地区に立ち寄ることなく次の目的地に移動しているのが現状です。

また、岩国地区をはじめ岩国城下町では高齢化が著しく、コミュニティの活力も低下しつつあります。

そのような中、平成26年（2014）策定の「錦帯橋みらい計画」において、次代を担う子どもたちを含め、錦帯橋の構造を常時学ぶことができ、それに加えて地域の伝統文化も学習・体験できる地域密着型の常設展示資料館が必要とされました。

また、平成28年3月策定の「岩国地区にぎわい創出施設の在り方検討」において、城下町地区の課題解決に向けて「城下町地区のフィールドミュージアム化」をめざし、錦帯橋を中心とした「ストーリー性のあるまちの回遊」を実現する「錦帯橋と岩国城下」遊学を基本的なまちづくりの考え方とし、歴史文化情報発信や城下町地区の回遊性の創出の機能を持つ賑わい創出施設がその拠点施設として位置づけられました。

本基本計画は、当施設を（仮称）錦帯橋資料館等として具体化することを目的としています。

具体化にあたっては、地域住民や岩国城下町の関係団体等の意見を反映するために、地区住民アンケート、自治会長や関係団体等へのヒアリングを実施し、それらを元に住民ワークショップにおいて検討を重ねました。

これらの取組を通して、住民自ら岩国城下町の将来像について考え共有しつつ、その実現のために必要な（仮称）錦帯橋資料館等の役割や機能の検討を進めました。



第2章 計画の構成と策定フロー

本基本計画の構成と策定フローは以下の通りです。

第1章 計画の背景と目的



第2章 計画の構成と策定フロー



第3章 上位計画の整理

- ・第2次岩国市総合計画（2019）
- ・岩国市都市計画マスタープラン【改訂版】（2017）
- ・岩国市景観ビジョン（2010）
- ・岩国市景観計画（2012）
- ・岩国市観光ビジョン（2015）
- ・錦帯橋を中心とした錦川両岸地域のまちづくり将来ビジョン（2014）
- ・錦帯橋みらい計画（基本計画）（2014）
- ・岩国地区にぎわい創出施設の在り方検討（2016）
- ・城下町ランドデザイン（2019）
- ・文化的景観保存活用計画（2021）
- ・名勝錦帯橋保存活用計画（2021）

上位計画における岩国城下町のまちづくりの方向や課題を整理することにより、「資料館等」の位置づけや基本的考え方を確認します。



第4章 地区住民アンケート

第5章 ヒアリング

1. 自治会長ヒアリング
2. 岩国城下町団体ヒアリング
3. 観光事業者ヒアリング

第6章 住民ワークショップ

岩国城下町のめざすべき将来像を考え、その実現に向けた「資料館等」や基本的考え方（施設コンセプト）、必要な機能を明らかにするため、地区の住民や岩国城下町の関係団体へのアンケートを行い、その結果をもとに、地区住民によるワークショップを実施した結果について記します。



第7章 （仮称）錦帯橋資料館等の コンセプト

「岩国城下町回遊の拠点（ビクターセンター）」
—行ってみたくなる岩国城下町の魅力の紹介—

第1章から第6章を踏まえ、「資料館等」のコンセプトを策定します。



第8章 施設計画

1. 敷地条件の検討
2. 法的条件の整理
3. 機能の検討と機能連関
4. 必要諸室の検討
5. 施設規模の検討
6. 施設計画
 - (1) 土地利用計画
 - (2) 施設配置計画
 - (3) 平面構成計画

「資料館等」のコンセプトを実現するため、ワークショップで検討した機能を展開し、必要諸室の抽出、規模設定を行い、平面構成案を作成します。また、施設コンセプトに対応した展示のあり方を検討し、それぞれの展示イメージを検討します。

第9章 展示計画



第10章 管理運営の検討

「資料館等」のコンセプトに適合する管理運営のあり方（運営主体としての組織体のあり方）や、運営についての課題を整理します。

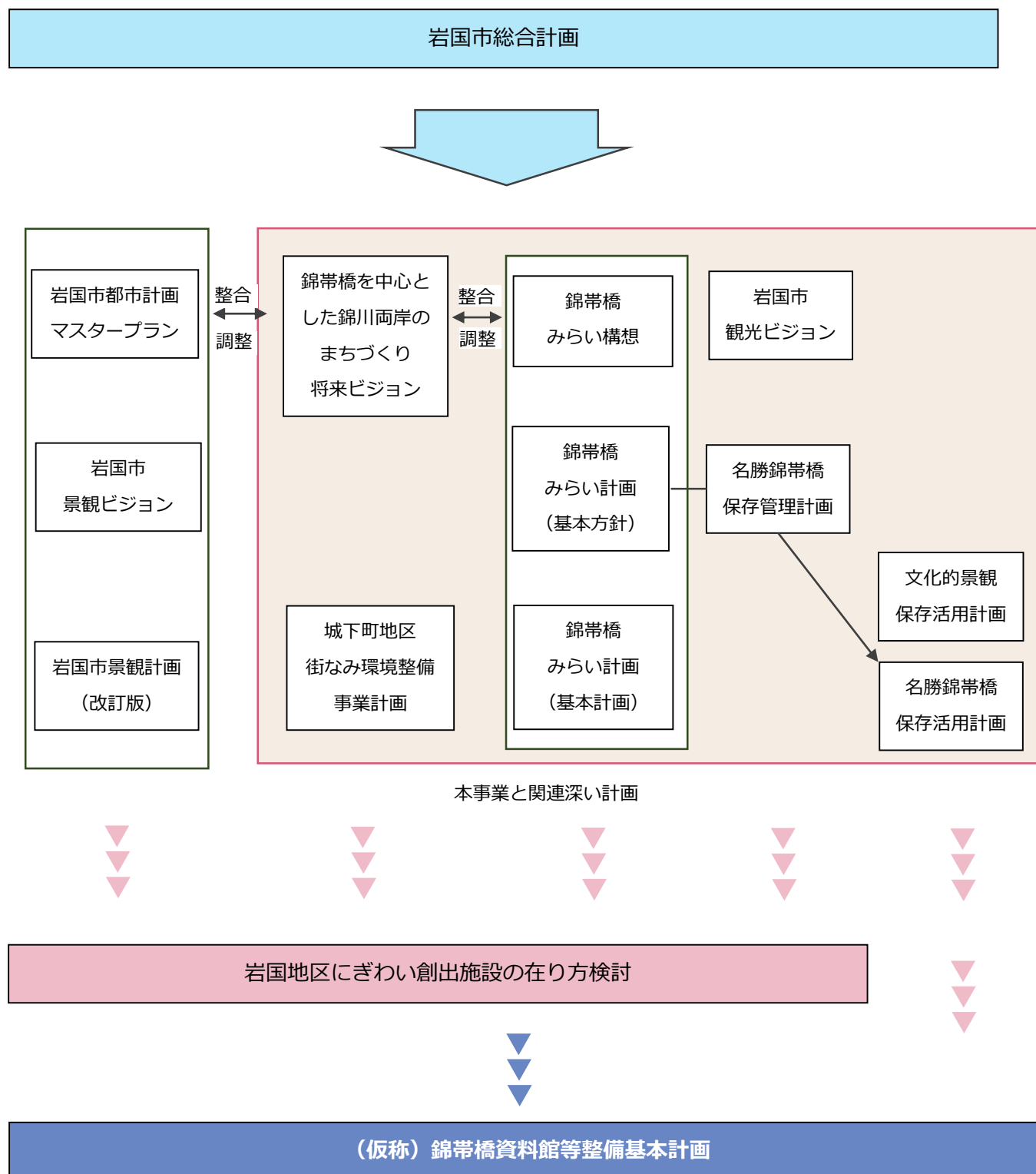


第11章 今後のスケジュール等

今後のスケジュールと概算工事費を整理します。

第3章 上位計画の整理

(仮称) 錦帯橋資料館に関連する上位計画は以下の通りです。



●第2次岩国市総合計画後期基本計画（2019年3月）

「岩国市総合計画後期基本計画（計画期間 2019～2022）」は、2019年3月に策定されました。市政運営の基本的指針である「岩国市総合計画」においては、目標とする将来像を「豊かな自然と歴史に包まれ、笑顔と活力あふれる交流のまち岩国 ～人・まちをつなぐ明日への架け橋～」を掲げています。さらに「人と人をつなぐ」「地域と地域をつなぐ」「都市と都市をつなぐ」の3つを基本理念とし、その実現に向けて、以下の6つの基本目標と、その基本目標に基づいて様々な施策目標を設定しています。

① 6つの基本目標

- 1 子育てといきいきとした暮らしを応援するまち
- 2 空港を軸とした活力ある産業と観光のまち
- 3 豊かな自然と充実した社会基盤により快適に暮らせるまち
- 4 誰もが安心・安全に暮らせるまち
- 5 心の豊かさと生き抜く力を育む教育文化のまち
- 6 支えあいと協働でつくる絆のあるまち
未来につながる健全な行政経営に取り組むまち

総合計画の中で、（仮称）錦帯橋資料館等に関連する箇所は以下の通りです。

<基本目標2 空港を軸とした活力ある産業と観光のまち>

施策目標2-1 市内各地がつながり多くの観光客でにぎわっている

■現状と課題（抜粋）

○本市は、寂地山・羅漢山・瀬戸内海・錦川といった豊かな自然に恵まれるとともに、日本三名橋の一つとして名高い錦帯橋をはじめ、岩国城・寂地峡・とことこトレイン・地底王国美川ムーバレー・弥栄湖等の自然と調和する美しい観光資源が点在しています。また、「錦帯橋のう飼」をはじめ、地域の歴史を物語る有形・無形の伝統・文化財が存在しています。特に錦帯橋は、毎年約65万人の入橋者がある県内有数の観光名所となっています。

■基本方針

○多くの人が訪れ、滞在し、交流する観光都市を目指し、錦帯橋をはじめとした市内各地に点在する魅力ある観光資源や周辺地域の観光地と連携した取組を進めます。

○全国、海外から観光客に訪れてもらえるよう、岩国錦帯橋空港のPRや多様な手段を活用した観光情報の発信を行うとともに、おもてなしの心あふれる受入体制づくりを進めます。

■施策の体系

施策 2-1-1 観光交流の推進

施策細目 (1) 観光交流人口の拡大

(2) 観光情報の発信

(3) 体験型観光の推進

主な取組・・・効果的な情報発信の充実

施策 2-1-2 観光交流基盤の整備・充実

施策細目 (1) 観光・交流設備の充実

主な取組・・・観光アプリケーションの充実、観光施設の整備

<基本目標 5 心の豊かさと生き抜く力を育む教育文化のまち>

施策目標 5-2 良質な文化、芸術、文化財を身近に感じることができている。

■現状と課題（抜粋）

○博物館・資料館については、展示機能の充実や史料の保存を考慮した施設整備に加え、本市の偉人・著名人の業績を広く市民に伝える取組など、市民が歴史や文化について広く学ぶことのできる環境づくりを行うことが必要です。

■基本方針

○市民が質の高い文化・芸術に触れることができ、豊かな心を養えるよう、「文化芸術創造都市宣言」に基づき、「いわくにらしさ」を大切に、新たな文化・芸術を創造するまちづくりを進めます。

○地域の多彩な文化財を次世代に確実に継承していくため、有形・無形の文化遺産の保存・活用を進めるとともに、文化財に親しむための環境整備を図ります。

○市民が地域の歴史や文化を身近に感じることができるとともに、郷土に誇りを持つことができるよう、博物館や資料館の充実を図ります。

■施策の体系

施策 5-2-1 文化・芸術活動の推進

施策細目 (1) 文化・芸術に接する機会の充実

(2) 文化・芸術活動の支援

施策 5-2-2 文化財の保護・活用と伝統文化の継承

施策細目 (1) 文化財の保護・保存及び活用

(2) 博物館・資料館の充実

主な取組・・・博物館・資料館の再整備

●岩国市都市計画マスタープラン[改訂版]（2017 年 3 月）

■基準年次・目標年次

基準年次：平成 17 年 目標年次：平成 37 年

■西岩国地域の将来像

錦川と山の緑に包まれた歴史と文化がかほる交流のまち

■西岩国地域の地域づくりの目標

- 歴史と自然が調和した魅力ある城下町の保全・整備
- 国内外から多くの人を訪れる観光拠点の形成
- 広域交通のアクセスを活かした交流の促進

■地域づくりの方針

- 岩国城下町地区（岩国・横山地区）では、歴史・文化的な資源と錦川や城山からなる美しい自然環境に調和した市街地環境の保全・整備を進め、既存の住環境に配慮しながら多くの人を訪れる観光拠点の形成を図ります。
- 岩国地区では、地域の身近な商業地かつ多くの人を訪れる観光地として、適正な商業・業務機能や交流機能の配置により、住宅と商業・業務施設が共存したにぎわいの創出を図ります。

●岩国市景観ビジョン（2010 年 3 月）

■景観づくりの基本理念

自然と歴史を未来へつなごう 美しい景観のまち岩国

■景観づくりの基本目標

- 岩国らしい景観づくり
- 人や心を育てる景観づくり
- 人が交わる景観づくり
- 市民協働による景観づくり

■景観づくりの基本方針

- 方針 1 豊かな自然を守り活かす
- 方針 2 歴史文化を未来へつなぐ
- 方針 3 「人」を育てる
- 方針 4 「心」を育てる
- 方針 5 交流と連携の輪を広げる
- 方針 6 まちづくりにつなげる
- 方針 7 市民が主役になる
- 方針 8 活動の場をつくる

●岩国市景観計画（2012 年策定 2013 年運用開始）

「景観計画」は、本市の優れた景観を守り、育て、創り、後世へと継承していくため、景観法（平成 16 年 6 月 18 日法律第 110 号）に基づく景観計画を定めることを目的に、平成 24 年 11 月 1 日に策定（「横山地区」を「重点地区」に指定）し、平成 25 年 4 月 1 日運用を開始した。

さらに、平成 27 年 4 月 1 日に、本市を代表する歴史的・文化的な景観を形成している「岩国地区」を「景観計画重点地区」に指定。市全域を景観計画区域とし、景観まちづくりの基本理念のもとに、景観形成と景観推進の観点から景観まちづくりを進める。

■基本理念

自然と歴史を未来へつなごう 美しい景観のまち岩国

■基本目標と基本方針

＜景観形成の基本目標＞

多様な魅力があふれる、
岩国らしい景観まちづくり

＜景観形成の基本方針＞

方針 1 豊かな自然を守り・活かす
方針 2 歴史文化を未来へつなぐ
方針 3 快適なまちを守り・創る

＜景観推進の基本目標＞

多様な主体がともに育む
市民協働の景観まちづくり

＜景観推進の基本方針＞

方針 4 まちづくりにつなげる
方針 5 「人」や「心」を育てる
方針 6 一人ひとりが主役となる

●岩国市観光ビジョン（2015 年 2 月）

錦帯橋の入橋者数は年間約 70 万人であり、全国から観光客が訪れています。…（中略）…
また、錦帯橋周辺地域におけるソフト事業として体験メニューの充実や祭り・イベントの実施、岩国城の魅力向上に関する検討を進めます。錦帯橋周辺の魅力を高めることで、観光客の滞在時間の延長、宿泊客の増加をめざします。

●錦帯橋を中心とした錦川両岸地域のまちづくり将来ビジョン（2014 年 4 月）

■まちづくりの目標

住んでよし、訪れてよしのまち

■まちづくりのテーマ

テーマ 1 / 風景と文化 城下町として育まれてきた風景と文化を守ります
テーマ 2 / 暮らしやすさ 歴史性を大切にしたい暮らしやすい住環境をつくります
テーマ 3 / おもてなし 何度も訪れたいと感じてもらえるおもてなしの環境を整えます

【整備活用方針】※抜粋

○歩きたくなる歩行環境
○駐車場の集約化と回遊性の向上
○地域主導の着地型観光に効果的な情報発信空間（ビジターセンター）

●錦帯橋みらい計画（基本計画）－錦帯橋を未来につなげるために－（2014年3月）

錦帯橋を見学するだけでは、その歴史や構造を理解することは難しい。…（中略）…次代を担う子どもたちを含め、錦帯橋の構造を常時学ぶことができ、それに加えて地域の伝統文化も学習・体験できる地域密着型の常設展示資料館が必要と考える。また、錦帯橋の架橋技術や技能の伝承・研究・指導の核となる施設も必要である。したがって、これらの機能を兼ね備えた施設、錦帯橋資料館(仮称)の建設が、問題解決の有効策と考える。

●岩国地区にぎわい創出施設の在り方検討（2016年）

■城下町地区の課題

- ①城下町地区の一体感が薄く、施設分布、来訪者数などにバランスが取れていない。
- ②駐車場が地区内に一極集中していることから、行楽シーズンには駐車待ちの交通渋滞とともに路上駐車も多くなり、来訪者・歩行者の安全性はもとより、居住空間としての快適性も損なわれている。
- ③城下町地区に集積する歴史的建造物・景観（歴史文化）が急速に喪失するとともに、活用化に活用できていない。
- ④人口減少と高齢化に伴う城下町地区を支えていたコミュニティの変質。
- ⑤これらの課題が複合的に絡まり負のスパイラルに入っている。

■課題解決に向けた基本方針

城下町地区の一体感醸成による 地区全体のベストバランスの創出

■基本的な考え方

「錦帯橋と岩国城下」遊学。

城下町地区の課題解決に向けて、町割とそこに点在する歴史文化資源を一体的に捉える「城下町地区のフィールドミュージアム化」をめざす。

錦帯橋を中心に、岩国・横山地区の歴史文化的なつながりを再生させることによって地区住民が暮らし続け、歴史と文化の情報を共有・発信し、ストーリー性あるまちの回遊を実現する。

■施設機能から導く必要諸室の設定

<基本的な考え方>

○歴史文化情報発信（錦帯橋に関する専門博物館として）

主な施設 常設展示室、企画展示室、収蔵庫、調査研究室 他

○情報発信の担い手育成（岩国城下の生活文化体験施設として）

主な施設 講演会や各種体験講座の開催スペース

参加体験型の企画展示やイベントスペース

軽微な飲食・休憩スペース 他

○城下町地区の回遊性の創出

主な施設 歴史・文化・まち歩き情報のレファレンススペース 他

●城下町ランドデザイン（2019 年 10 月）

■まちづくりの目標

住んでよし、訪れてよしのまち

■将来像

<将来像 1>

将来にわたり安全・快適に住み続けられる環境が整い、歴史・文化を育まれるまち

<将来像 2>

安全・円滑な観光モビリティが確保され、楽しく回遊できる地域の魅力あふれるまち

●「錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観」保存活用計画（2021 年 1 月）

第 6 章 文化的景観の整備活用に関する事項

3. 城下町由来のまちなみと文化の継承に向けて

- ・ 椎尾八幡宮の大祭をはじめとした祭りや、南条踊りや小糠踊り等の伝統芸能の継承につながる仕組みや環境の整備を図る。

5. 住民と行政の協働及び文化的景観を支える人材の育成に向けて

- ・ 文化的景観は、地域固有の魅力であり、その魅力の特徴を分かりやすく伝えるものが重要な構成要素である。こうした文化的景観に関する情報について住民等と共有し、その価値の継承に向けた取組につながるよう、ホームページやパンフレット等、多様な媒体を活用した普及・啓発に取り組む。
- ・ 住民以外の市民・来訪者に向けても、本文化的景観に関する学習の機会を設ける。

●名勝錦帯橋保存活用計画（2021 年 3 月）

第 8 章 整備

1. 整備の方向性

(2)整備の方向性

整備の基本方針

- 名勝錦帯橋の本質的価値を構成する要素の維持・改善に必要な整備を実施する。
- 名勝錦帯橋の本質的価値の理解に必要な施設を、周辺地域と連携して整備する。

<活用整備・公益上必要な施設に係る整備>

- ・ 名勝指定地内の老朽化した施設の改修を行うとともに、指定地隣接地や周辺地域との連携により、名勝錦帯橋の本質的価値の理解に必要な情報提供、史資料の公開・活用を促進するための施設等の整備を実施する。

4. 名勝指定地周辺で実施する整備

(2)名勝錦帯橋の活用に係る整備

名勝指定地内での整備が困難な施設については、周辺地域と連携して、名勝錦帯橋の本質的価値の理解に必要な情報提供、史資料の公開・活用を促進するための施設等を指定地周辺に整備する。

- ・ 名勝錦帯橋の鑑賞の場となる視点場の整備
- ・ 錦帯橋及び周辺地域に関する情報拠点となる施設の整備
- ・ 錦帯橋及び周辺地域をめぐる見学コースの設定と案内サイン等の整備

1. 地区住民アンケート

(1) アンケート調査の目的

(仮称) 錦帯橋資料館等の建設に伴い、周辺住民にとっての課題や今後検討すべき機能を把握するために、アンケート調査を実施しました。

(2) アンケート調査の実施概要

アンケート調査は以下の要領で実施しました。

○配布時期：令和3年7月

○配布地区及び配布回収数：

配布地区	配布数	回収数	回収率
横山地区	433 通	212 通	49.0%
岩国地区	665 通	267 通	40.2%
合 計	1,098 通	479 通	43.6%

○設問項目：

1) 回答者の属性

①性別 ②年齢 ③居住年数 ④職業 ⑤居住地区

2) まちづくりに活用すべき良いところはどんなところか（複数回答）

3) まちづくりの目標である「住んでよし、訪れてよしのまち」の具体的イメージ（複数回答）

4) まちづくりの目標実現のために、大切と思うことは何か？（複数回答）

①まちの賑わい

②まちの魅力と情報発信

③まちの暮らし

5) (仮称) 錦帯橋資料館等に期待すること（複数回答）

①資料館の考え方

②情報発信・展示

③活動拠点

④住民の暮らしと観光の共存

(3) アンケート調査の結果

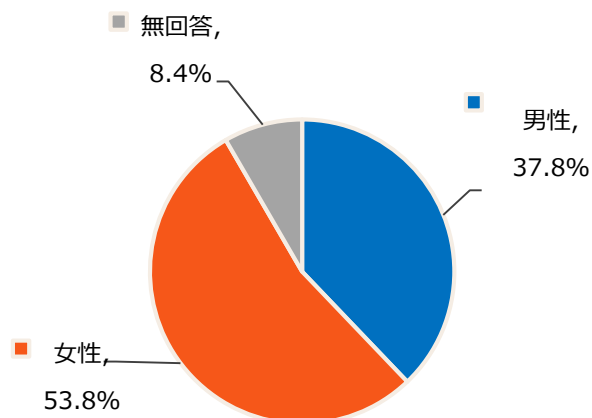
1) 回答者の属性

①性別

回答者の性別は、女性の方がやや多くなっています。横山地区、岩国地区でも同じような傾向にあります。

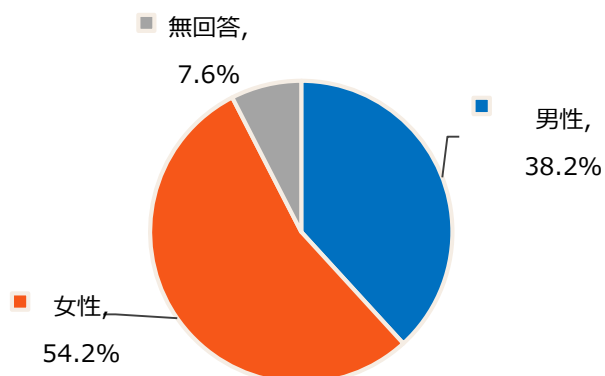
・全体

性別（全体）	実数	比率(%)
男性	181	37.8%
女性	258	53.8%
無回答	40	8.4%
合計	479	100.0%



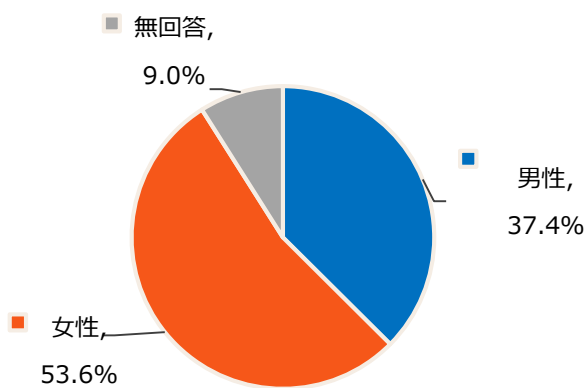
・横山地区

性別（横山）	実数	比率(%)
男性	81	38.2%
女性	115	54.2%
無回答	16	7.6%
合計	212	100.0%



・岩国地区

性別（岩国）	実数	比率(%)
男性	100	37.4%
女性	143	53.6%
無回答	24	9.0%
合計	267	100.0%



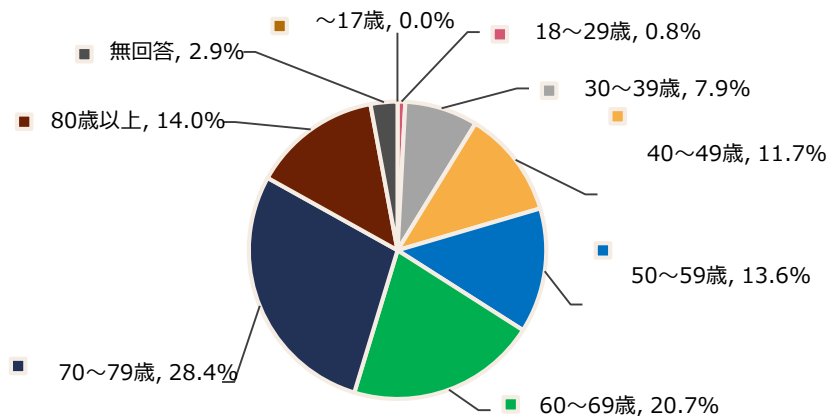
②年齢

回答者の年齢は、70歳～79歳が最も多く28.4%、次いで、60歳～69歳が20.6%となっています。

地区別でも同じ傾向ですが、横山地区の方が70歳以上の割合が岩国地区よりやや多くなっています。

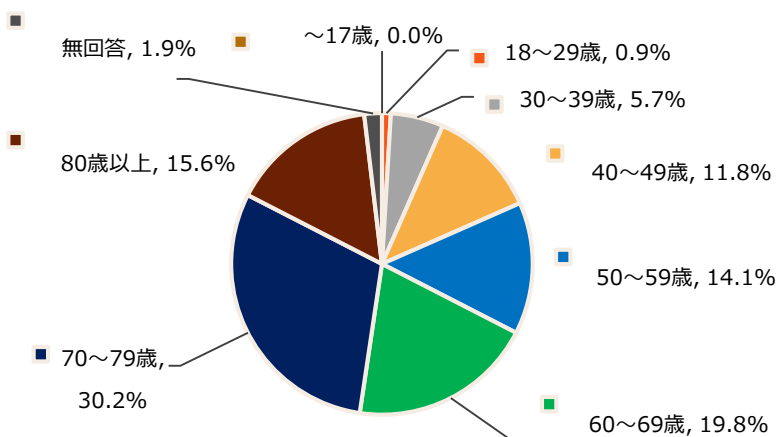
・全体

年齢(全体)	実数	比率(%)
～17歳	0	0.0%
18～29歳	4	0.8%
30～39歳	38	7.9%
40～49歳	56	11.7%
50～59歳	65	13.6%
60～69歳	99	20.7%
70～79歳	136	28.4%
80歳以上	67	14.0%
無回答	14	2.9%
合計	479	100.0%



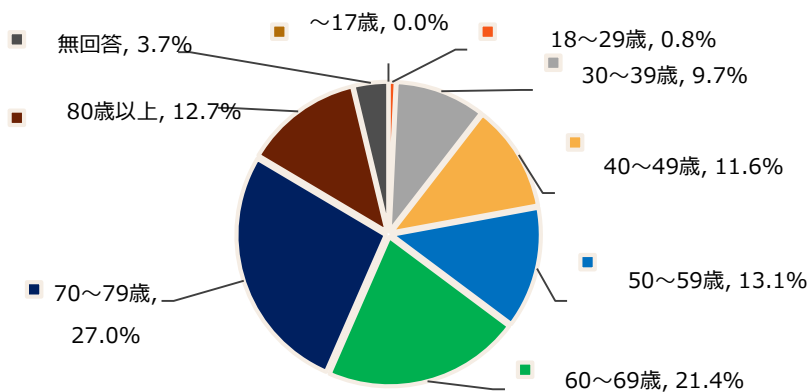
・横山地区

年齢(横山)	実数	比率(%)
～17歳	0	0.0%
18～29歳	2	0.9%
30～39歳	12	5.7%
40～49歳	25	11.8%
50～59歳	30	14.1%
60～69歳	42	19.8%
70～79歳	64	30.2%
80歳以上	33	15.6%
無回答	4	1.9%
合計	212	100.0%



・岩国地区

年齢(岩国)	実数	比率(%)
～17歳	0	0.0%
18～29歳	2	0.8%
30～39歳	26	9.7%
40～49歳	31	11.6%
50～59歳	35	13.1%
60～69歳	57	21.4%
70～79歳	72	27.0%
80歳以上	34	12.7%
無回答	10	3.7%
合計	267	100.0%



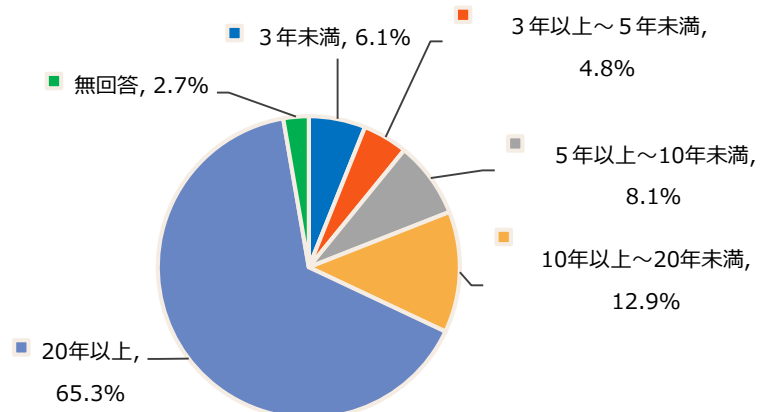
③居住年数

居住年数は、「20年以上」の方が最も多く、65.4%となっています。

地区別でも同じ傾向ですが、岩国地区で「3年以上5年未満」～「5年以上～10年未満」の合計が14.9%で、横山地区の10.4%よりやや多くなっており、一方、横山地区では「3年未満」が8.0%と、岩国地区の4.5%よりやや多くなっていきます。

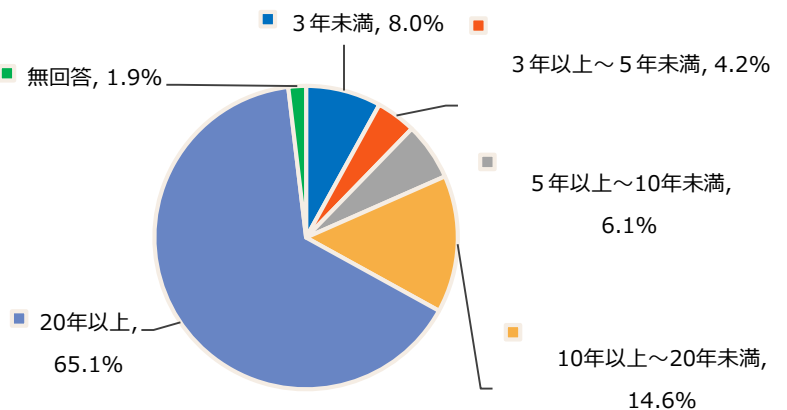
・全体

居住年数 (全体)	実数	比率(%)
3年未満	29	6.1%
3年以上～5年未満	23	4.8%
5年以上～10年未満	39	8.1%
10年以上～20年未満	62	12.9%
20年以上	313	65.4%
無回答	13	2.7%
合計	479	100.0%



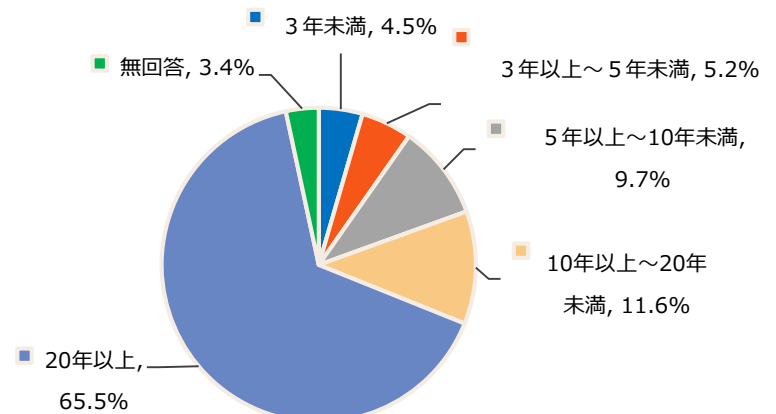
・横山地区

居住年数 (横山)	実数	比率(%)
3年未満	17	8.0%
3年以上～5年未満	9	4.3%
5年以上～10年未満	13	6.1%
10年以上～20年未満	31	14.6%
20年以上	138	65.1%
無回答	4	1.9%
合計	212	100.0%



・岩国地区

居住年数 (岩国)	実数	比率(%)
3年未満	12	4.5%
3年以上～5年未満	14	5.2%
5年以上～10年未満	26	9.7%
10年以上～20年未満	31	11.6%
20年以上	175	65.6%
無回答	9	3.4%
合計	267	100.0%

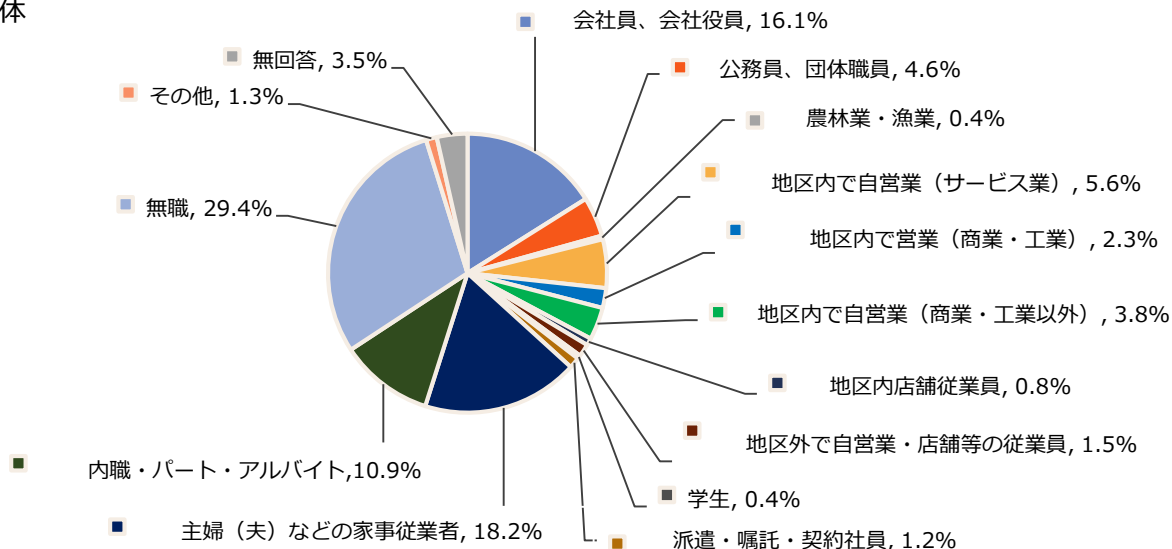


④職業

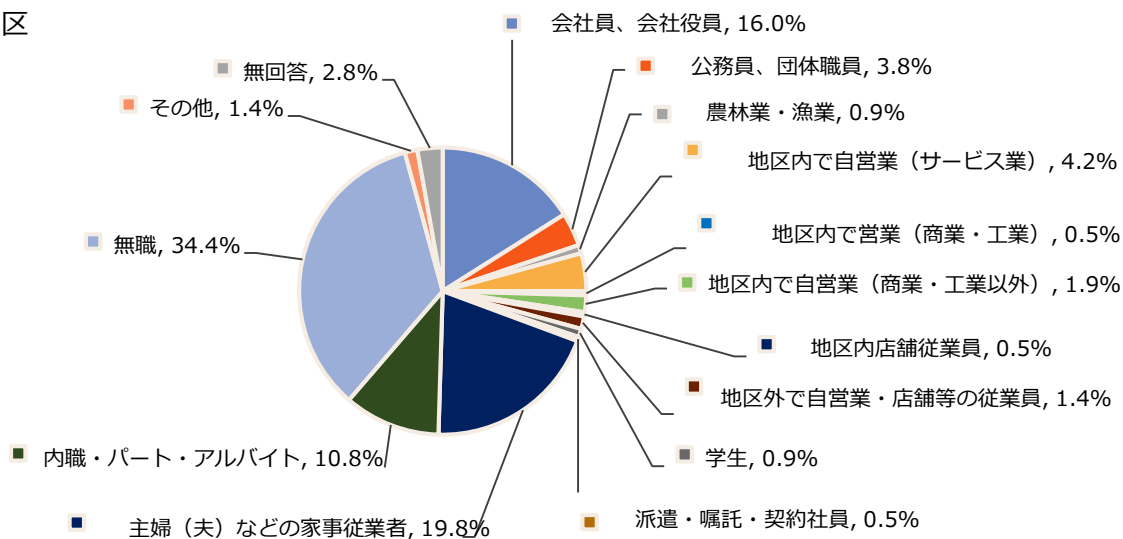
職業で最も多いのは、「無職」で 29.4%となっています。次いで「主婦（夫）などの家事従事者」が 18.2%、「会社員」16.1%となっています。

地区別では、横山地区の「無職」の割合がやや高いものの、概ね同じ傾向にあります。

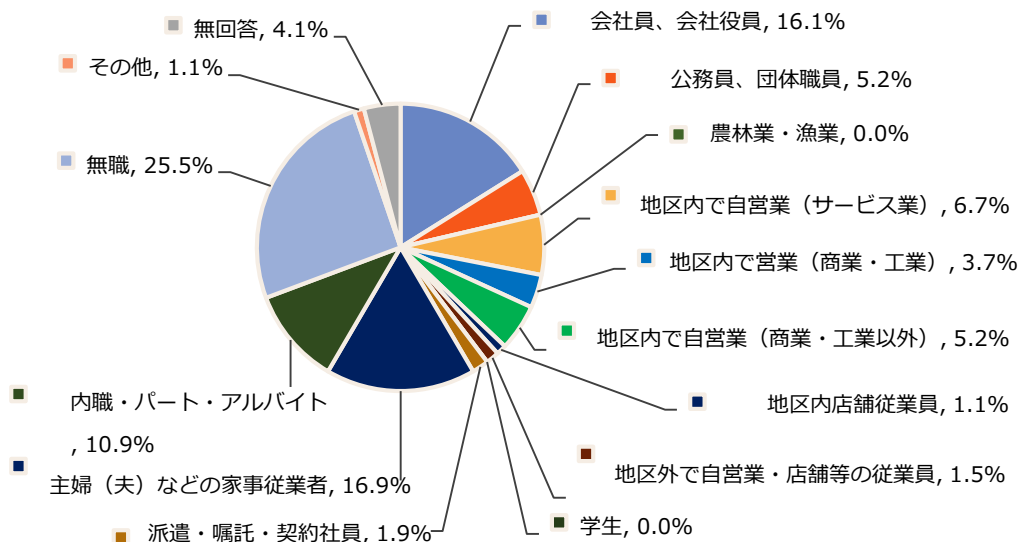
・全体



・横山地区



・岩国地区



2) まちづくりに活用すべき良いところはどんなところか

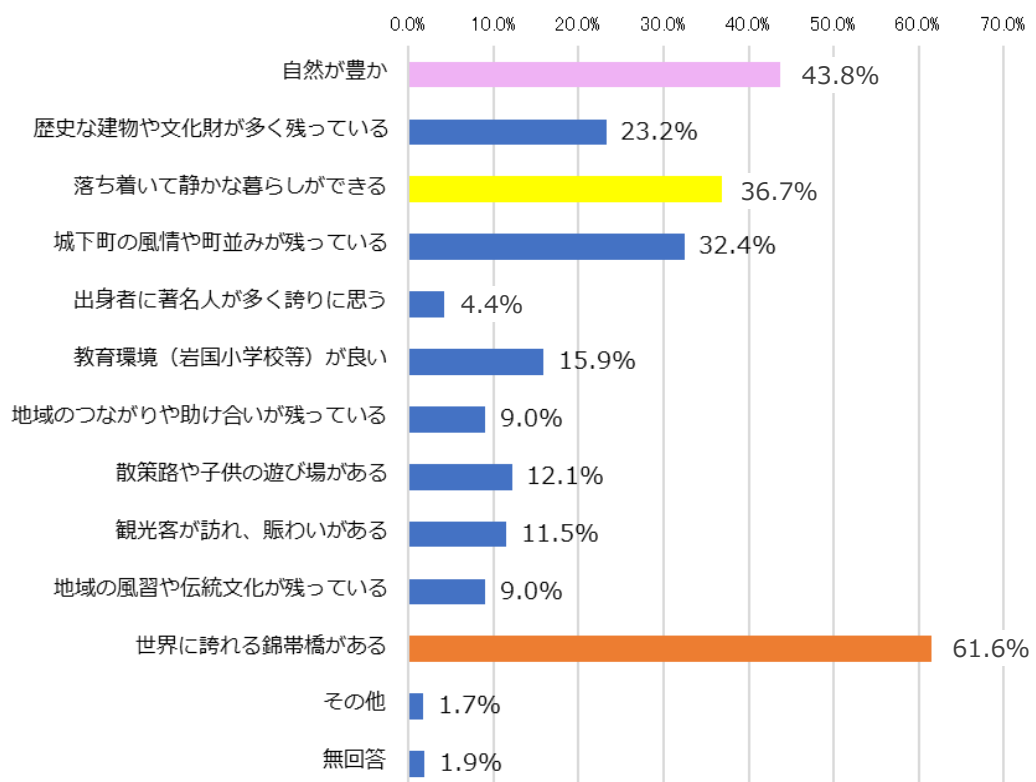
「世界に誇れる錦帯橋がある」が横山地区、岩国地区とも1位となっており、6割を超えています。

横山地区では、2位が「自然が豊か」となっており、5割を超えています。

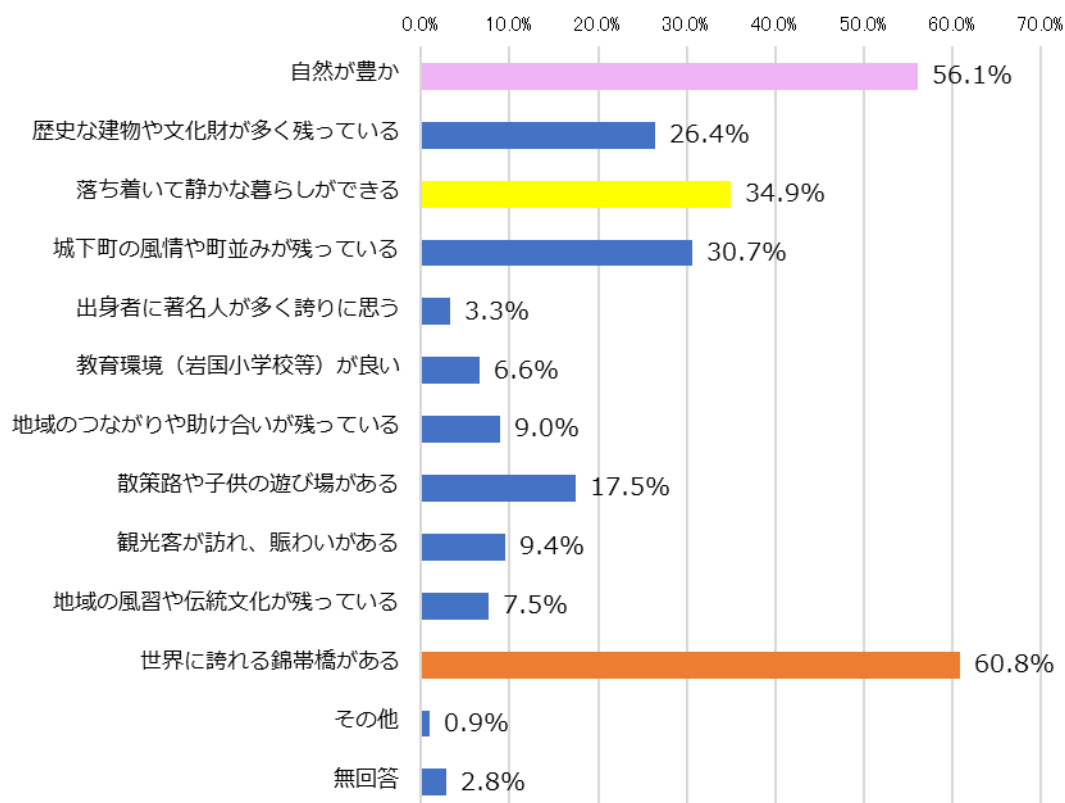
岩国地区では、2位が「落ち着いて静かな暮らしができる」となっています。

・全体

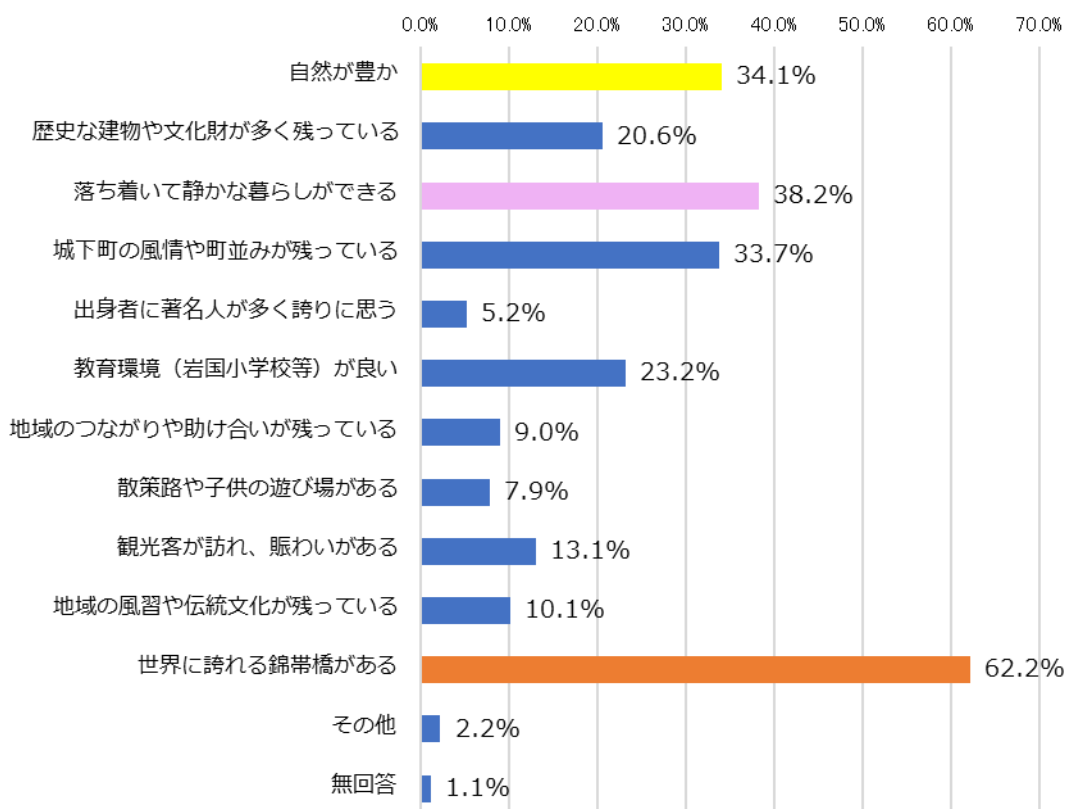
まちづくりに活用すべき良いところ（全体）	実数	比率(%)
自然が豊か	210	43.8%
歴史的な建物や文化財が多く残っている	111	23.2%
落ち着いて静かな暮らしができる	176	36.7%
城下町の風情や町並みが残っている	155	32.4%
出身者に著名人が多く誇りに思う	21	4.4%
教育環境（岩国小学校等）が良い	76	15.9%
地域のつながりや助け合いが残っている	43	9.0%
散策路や子供の遊び場がある	58	12.1%
観光客が訪れ、賑わいがある	55	11.5%
地域の風習や伝統文化が残っている	43	9.0%
世界に誇れる錦帯橋がある	295	61.6%
その他	8	1.7%
無回答	9	1.9%



・横山地区



・岩国地区



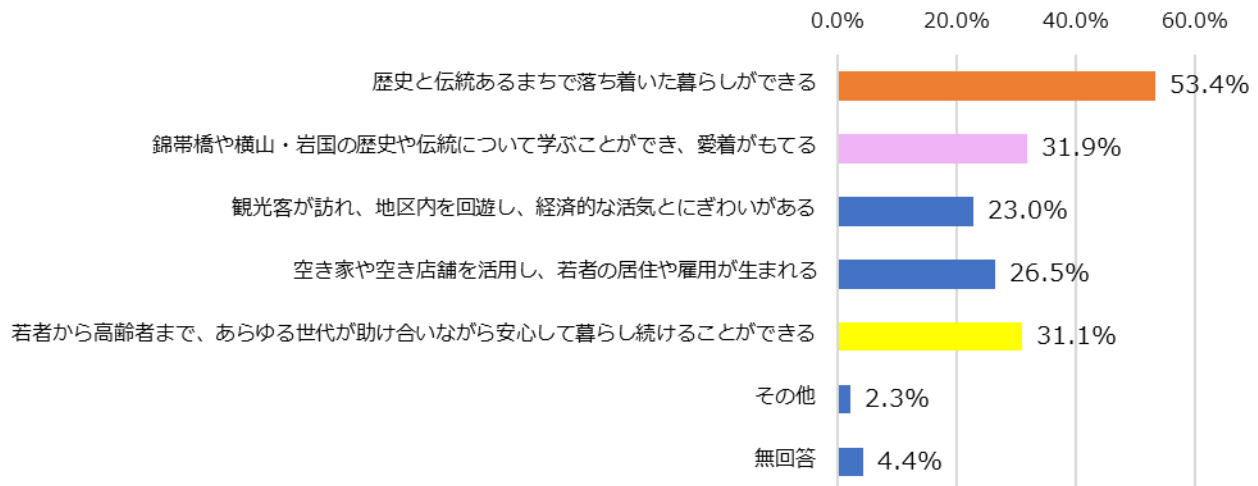
3) まちづくりの目標である「住んでよし、訪れてよしのまち」の具体的イメージ

「歴史と伝統あるまちで落ち着いた暮らしができる」が最も多くなっています。地区別では、横山地区での割合が6割近くとやや高くなっています。

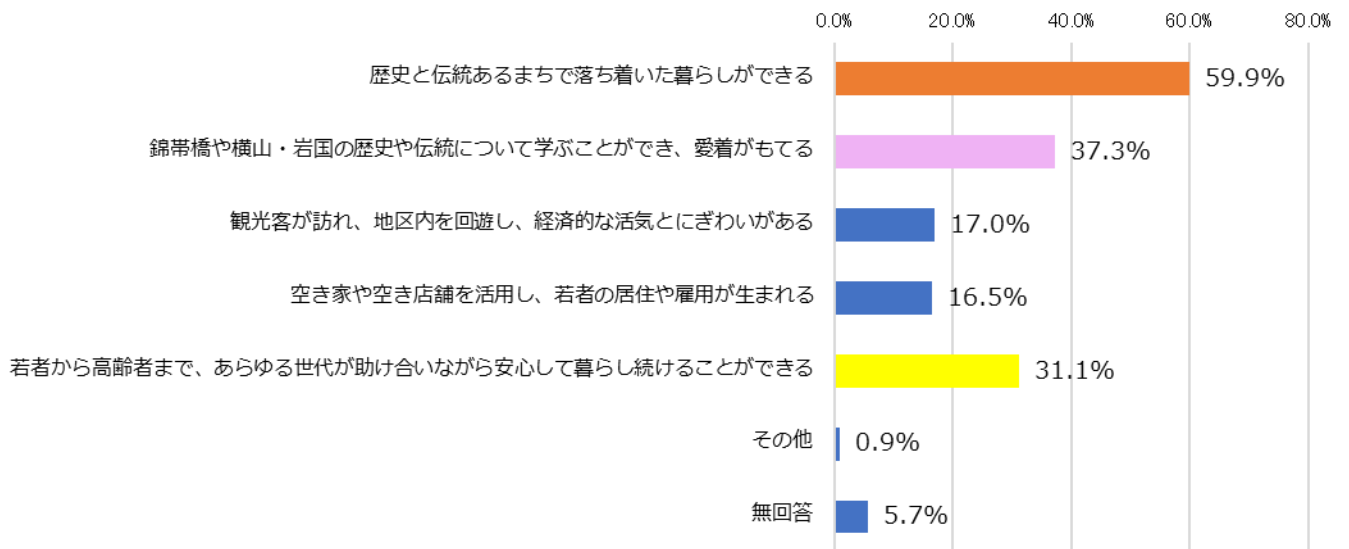
また、横山地区では2番目に多いのが「錦帯橋や横山・岩国の歴史や伝統について学ぶことができ、愛着が持てる」となっていますが、岩国地区では「空き家や空き店舗を活用し、若者の居住や雇用が生まれる」が34.5%で2位となっています。

・全体

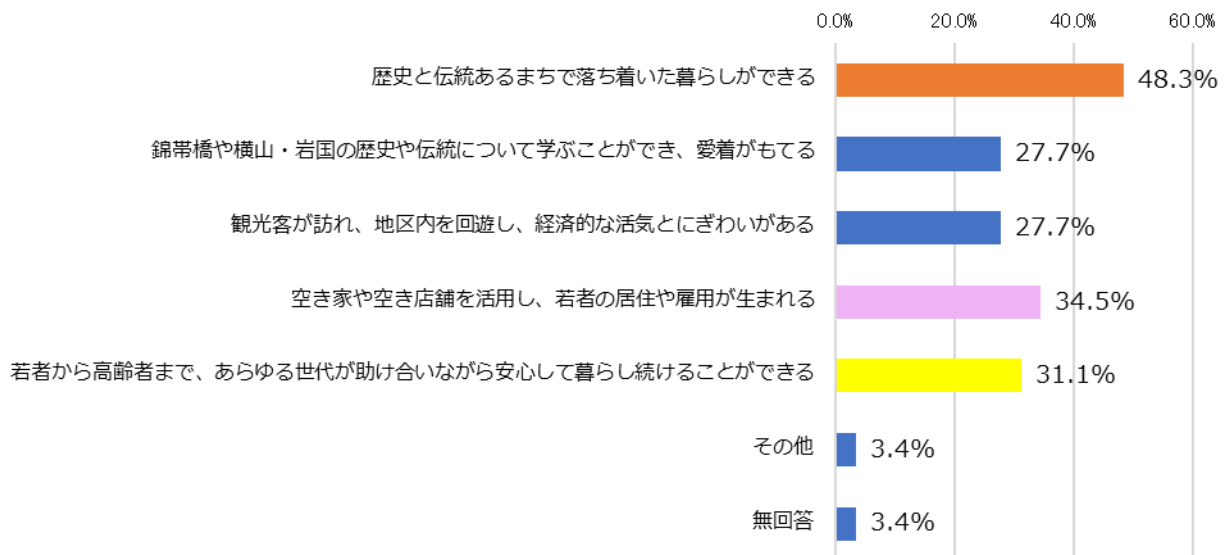
まちづくりの目標である「住んでよし、訪れてよし」の具体的イメージ（全体）	実数	比率(%)
歴史と伝統あるまちで落ち着いた暮らしができる	256	53.4%
錦帯橋や横山・岩国の歴史や伝統について学ぶことができ、愛着がもてる	153	31.9%
観光客が訪れ、地区内を回遊し、経済的な活気とにぎわいがある	110	23.0%
空き家や空き店舗を活用し、若者の居住や雇用が生まれる	127	26.5%
若者から高齢者まで、あらゆる世代が助け合いながら安心して暮らし続けることができる	149	31.1%
その他	11	2.3%
無回答	21	4.4%



・横山地区



・岩国地区



4) まちづくりの目標実現のために、大切なことは何か？

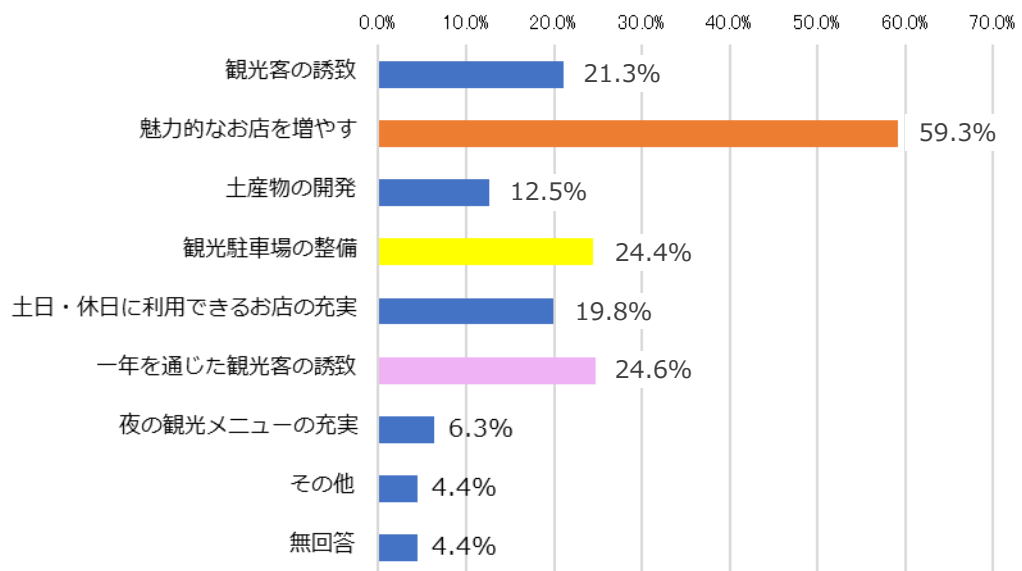
①まちの賑わい

「魅力的なお店を増やす」が最も多く 59.3%となっています。

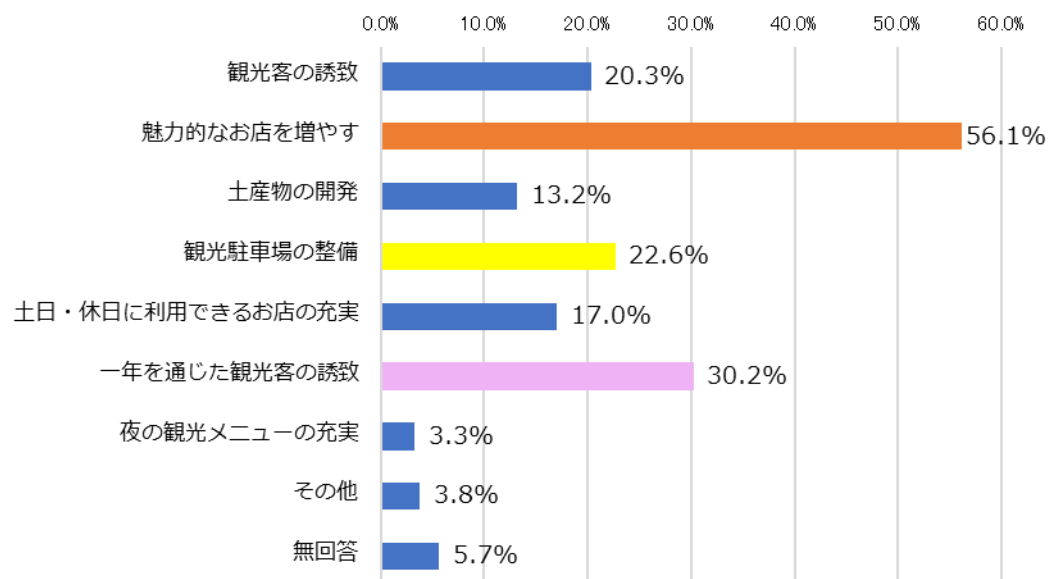
地区別でも同じような傾向ですが、横山地区で「一年を通じた観光客の誘致」が 30.2%とやや高くなっています。

・全体

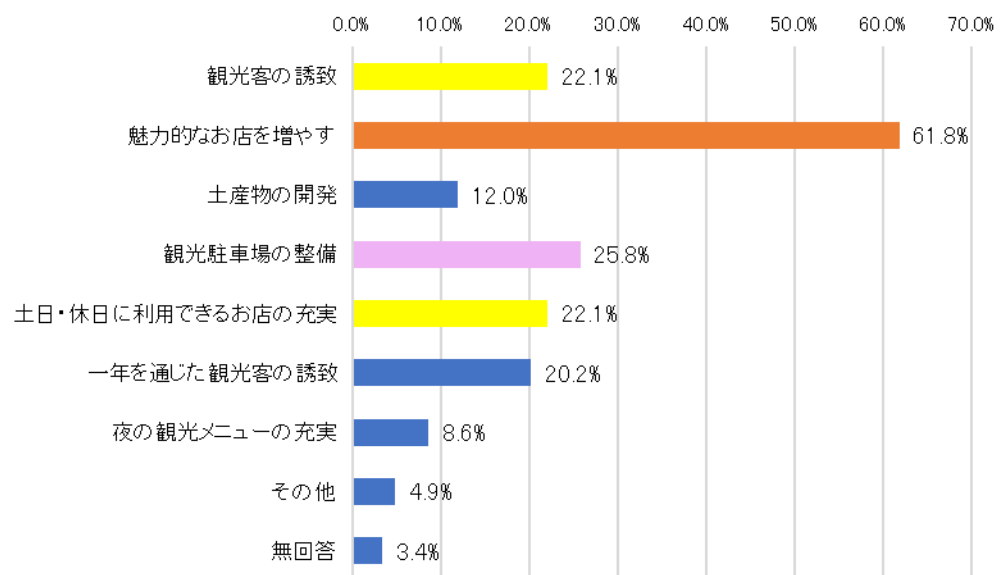
町の賑わい（全体）	実数	比率(%)
観光客の誘致	102	21.3%
魅力的なお店を増やす	284	59.3%
土産物の開発	60	12.5%
観光駐車場の整備	117	24.4%
土日・休日に利用できるお店の充実	95	19.8%
一年を通じた観光客の誘致	118	24.6%
夜の観光メニューの充実	30	6.3%
その他	21	4.4%
無回答	21	4.4%



・横山地区



・岩国地区



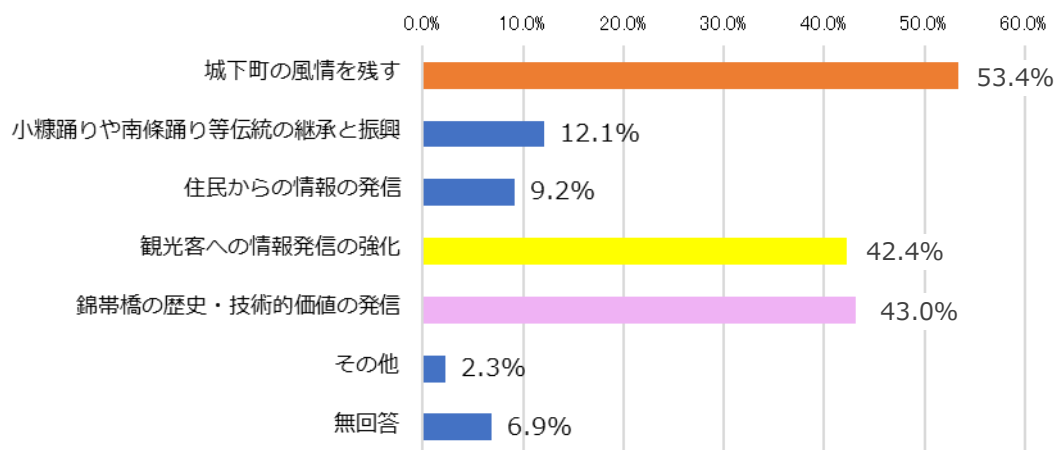
②まちの魅力と情報発信

「城下町の風情を残す」が最も高く、53.4%となっています。

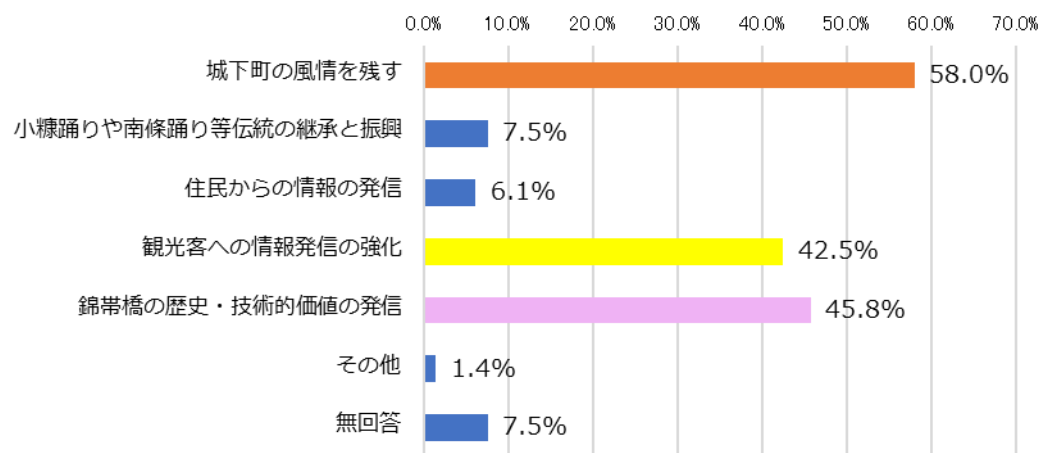
地区別にみると、横山地区では「錦帯橋の歴史・技術価値の発信」が2番目に多く、45.8%となっています。岩国地区では、「観光客への情報発信の強化」が2番目に多く、42.3%となっています。

・全体

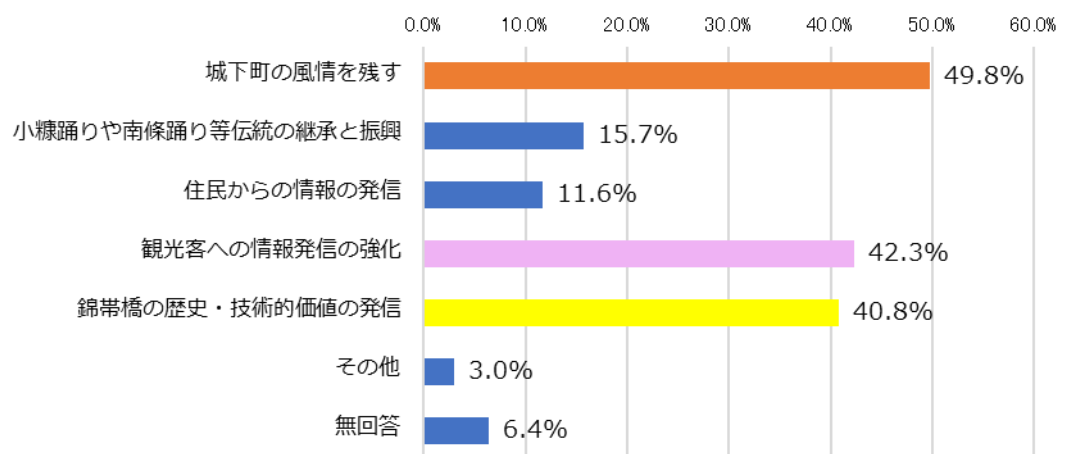
まちの魅力と情報発信（全体）	実数	比率(%)
城下町の風情を残す	256	53.4%
小糠踊りや南條踊り等伝統の継承と振興	58	12.1%
住民からの情報の発信	44	9.2%
観光客への情報発信の強化	203	42.4%
錦帯橋の歴史・技術的価値の発信	206	43.0%
その他	11	2.3%
無回答	33	6.9%



・横山地区



・岩国地区



③まちの暮らし

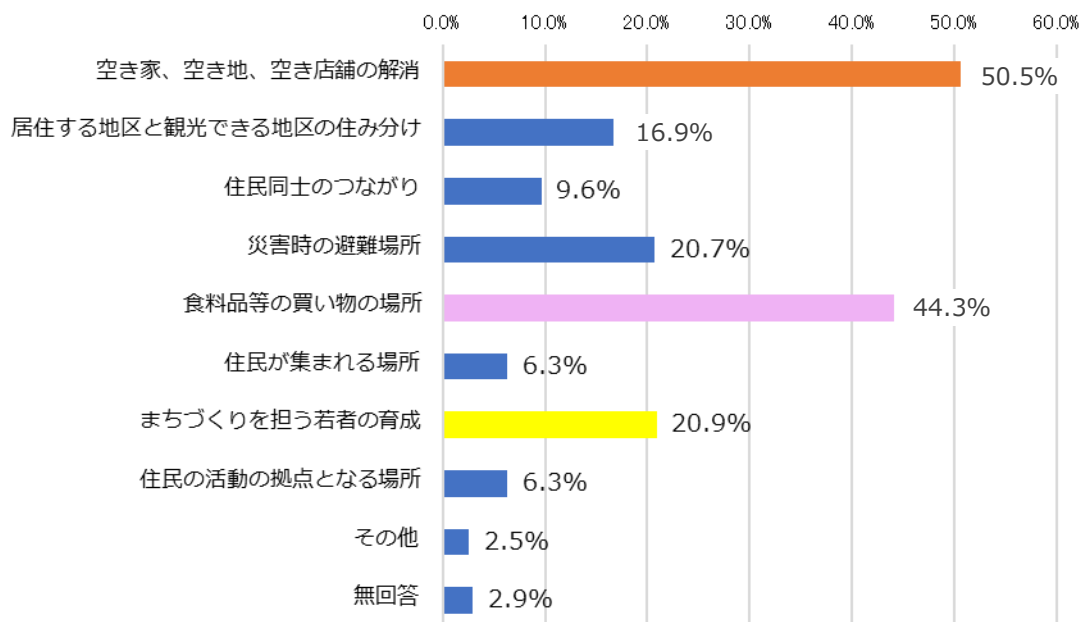
全体では「空き家、空き地、空き店舗の解消」が最も多く 50.5%となっています。

地区別では、岩国地区でこの選択肢を選んだ方が 61.4%で、横山地区の 36.8%より多くなっています。

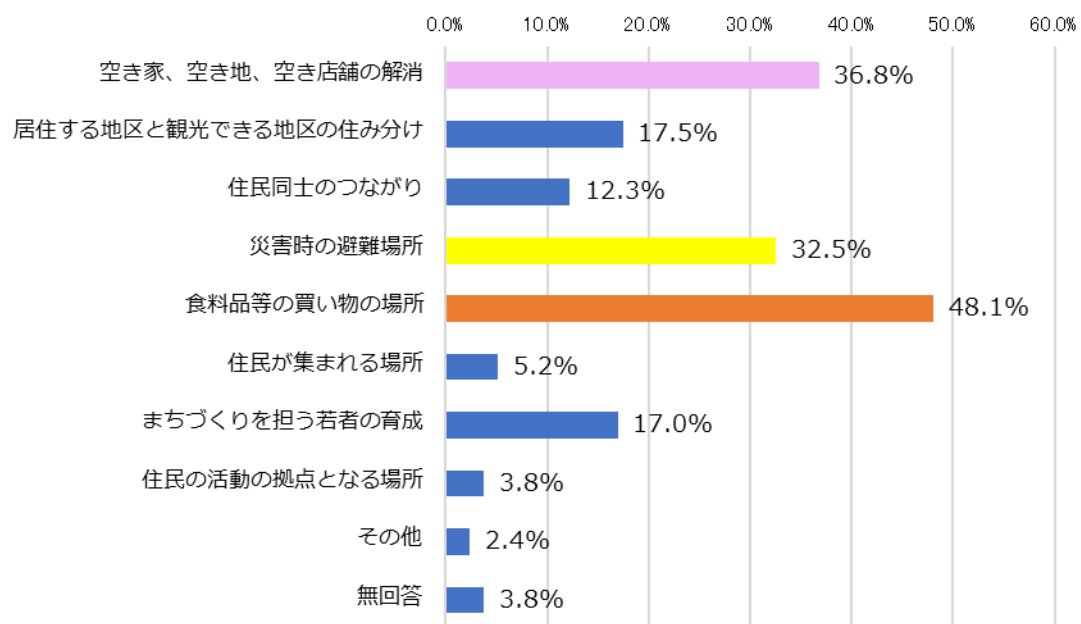
横山地区では「食糧品等の買い物の場所」が最も多く、48.1%となっています。

・全体

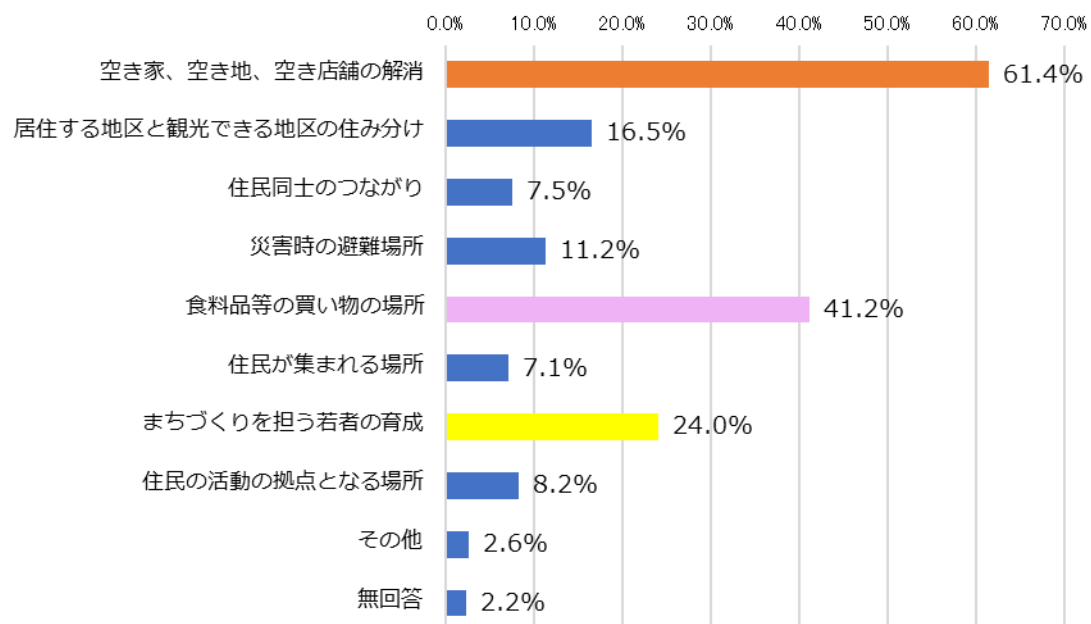
まちの暮らし（全体）	実数	比率(%)
空き家、空き地、空き店舗の解消	242	50.5%
居住する地区と観光できる地区の住み分け	81	16.9%
住民同士のつながり	46	9.6%
災害時の避難場所	99	20.7%
食料品等の買い物の場所	212	44.3%
住民が集まれる場所	30	6.3%
まちづくりを担う若者の育成	100	20.9%
住民の活動の拠点となる場所	30	6.3%
その他	12	2.5%
無回答	14	2.9%



・横山地区



・岩国地区



5) 地区のまちづくりのために（仮称）錦帯橋資料館等に期待することは何か？

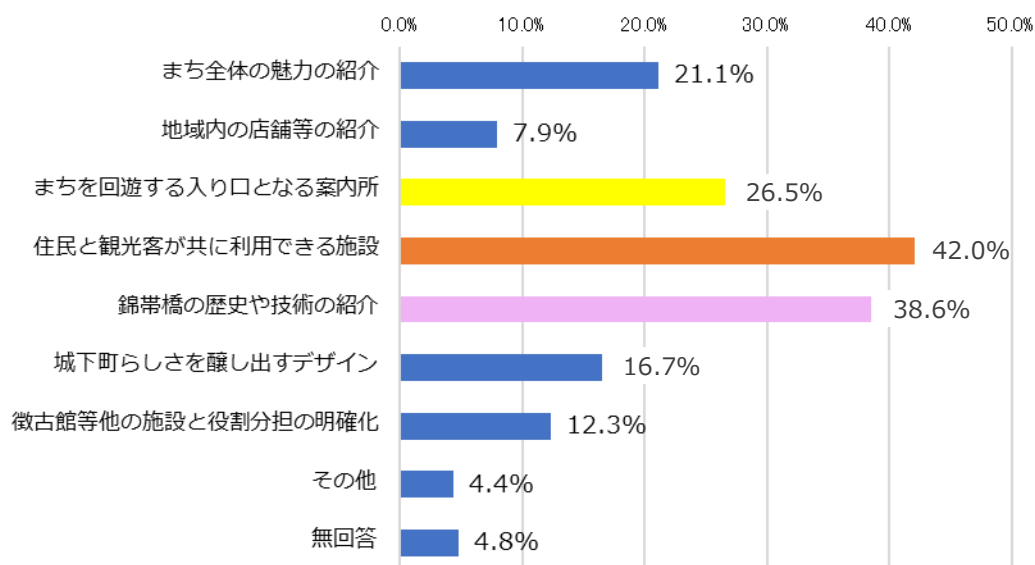
①資料館の考え方

「住民と観光客が共に利用できる施設」が最も多く、42.0%となっています。

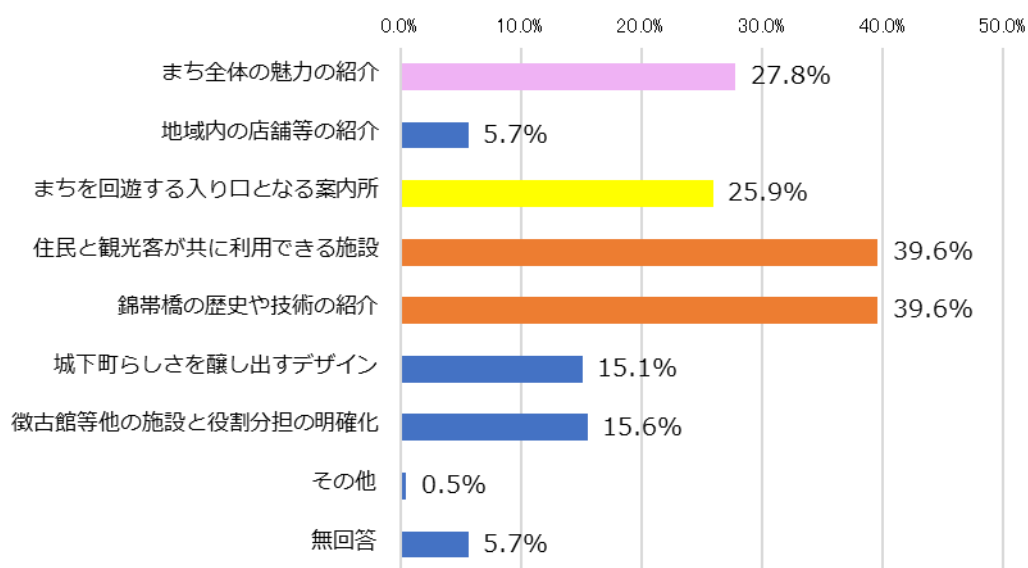
地区別でも同じ傾向にありますが、横山地区では「まち全体の魅力の紹介」を選んだ人がやや多く 27.8%となっています。

・全体

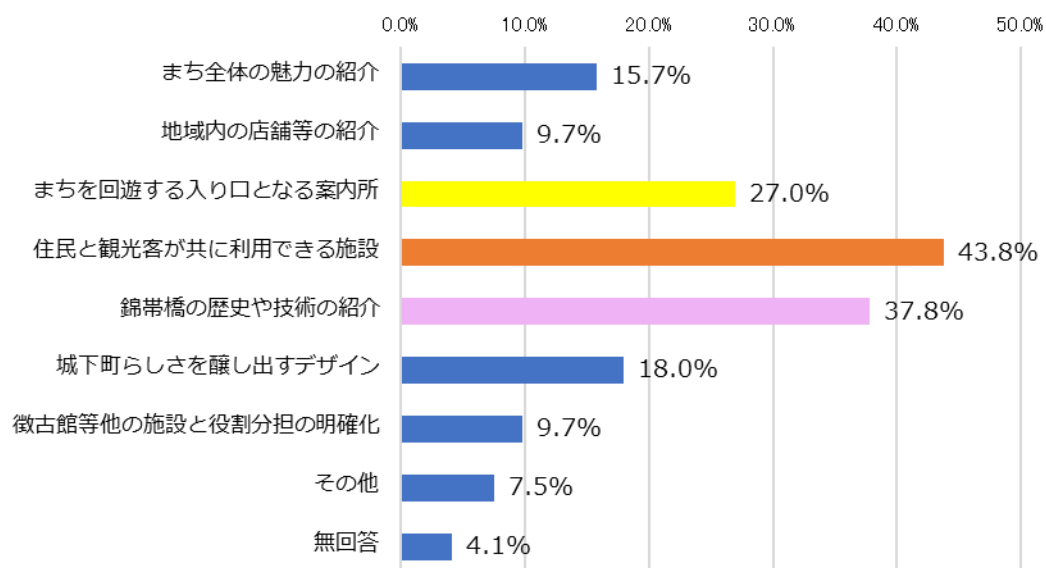
資料館の考え方（全体）	実数	比率(%)
まち全体の魅力の紹介	101	21.1%
地域内の店舗等の紹介	38	7.9%
まちを回遊する入り口となる案内所	127	26.5%
住民と観光客が共に利用できる施設	201	42.0%
錦帯橋の歴史や技術の紹介	185	38.6%
城下町らしさを醸し出すデザイン	80	16.7%
徴古館等他の施設と役割分担の明確化	59	12.3%
その他	21	4.4%
無回答	23	4.8%



・横山地区



・岩国地区



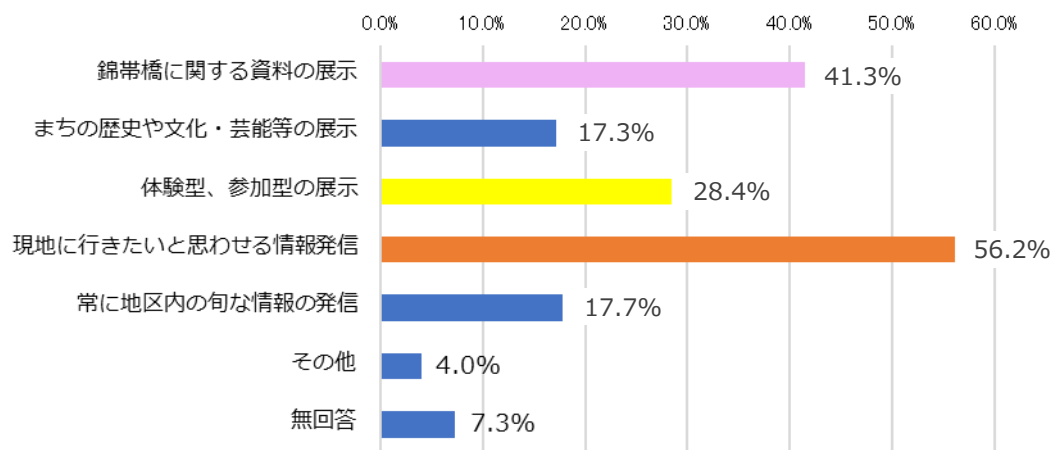
②情報発信・展示

「現地に行きたいと思わせる情報発信」と答えた人が最も多く、56.2%で、次いで「錦帯橋に関する資料の展示」が41.3%となっています。

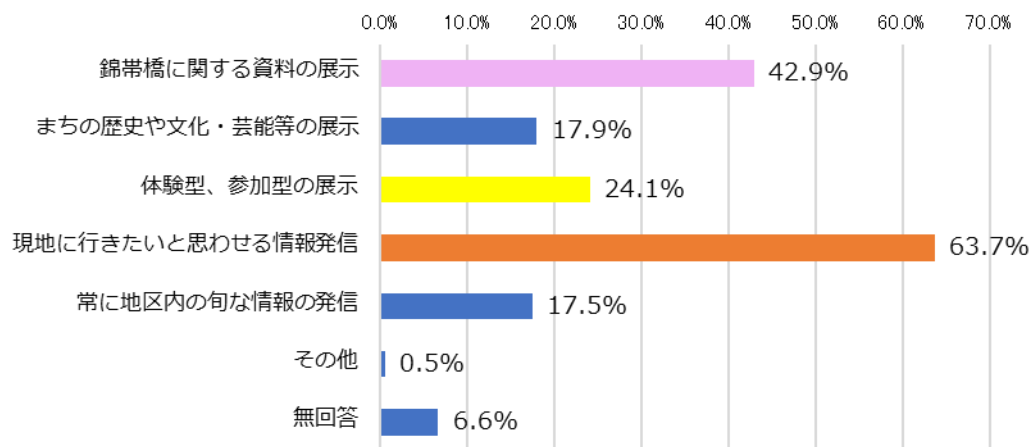
地区別でも概ね傾向は同じですが、岩国地区で「体験型、参加型の展示」がやや多くなっています。

・全体

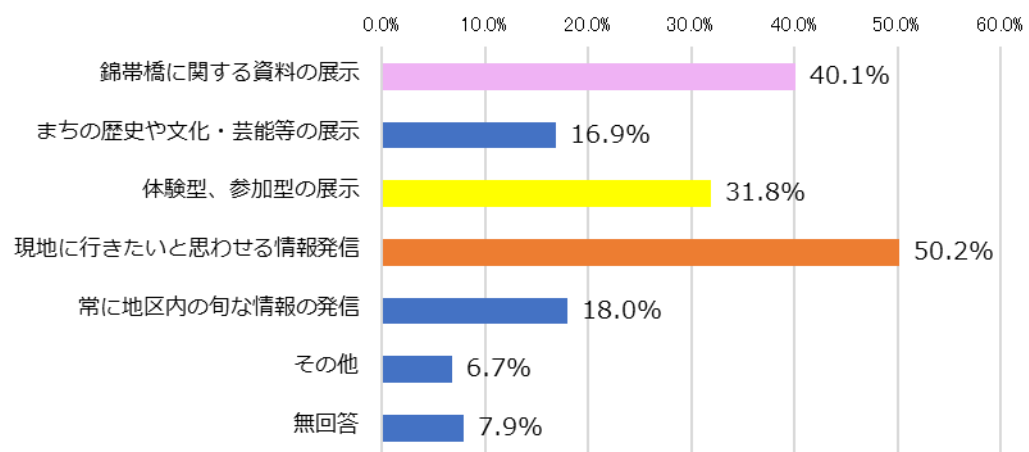
情報発信・展示（全体）	実数	比率(%)
錦帯橋に関する資料の展示	198	41.3%
まちの歴史や文化・芸能等の展示	83	17.3%
体験型、参加型の展示	136	28.4%
現地に行きたいと思わせる情報発信	269	56.2%
常に地区内の旬な情報の発信	85	17.7%
その他	19	4.0%
無回答	35	7.3%



・横山地区



・岩国地区



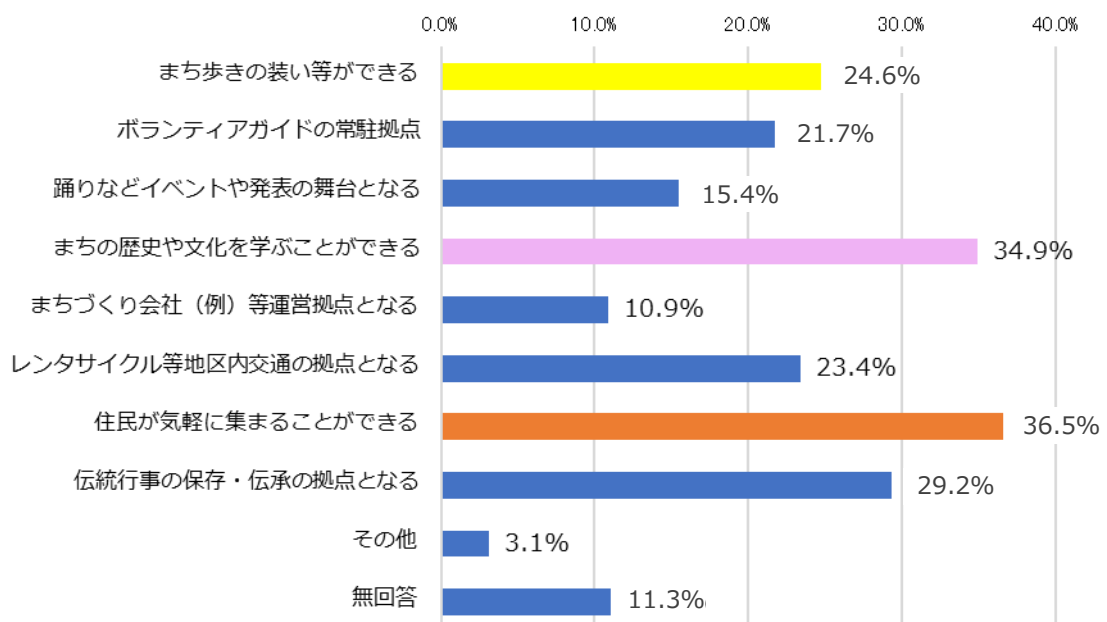
③活動拠点

「住民が気軽に集まることができる」が最も多く 36.5%で、次いで「まちの歴史や文化を学ぶことができる」が 34.9%となっています。

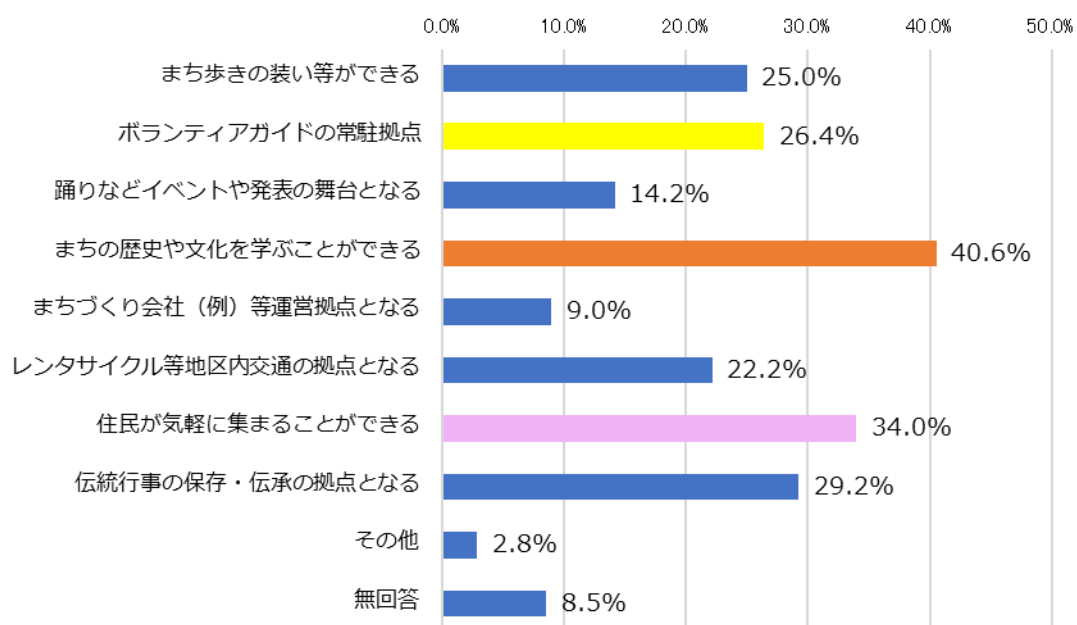
横山地区では、「まちの歴史や文化を学ぶことができる」が最も多く、40.6%となっています。岩国地区で「住民が気軽に集まることができる」と答えた人が 38.6%で横山地区の 34.0%と比べてやや多くなっています。

・全体

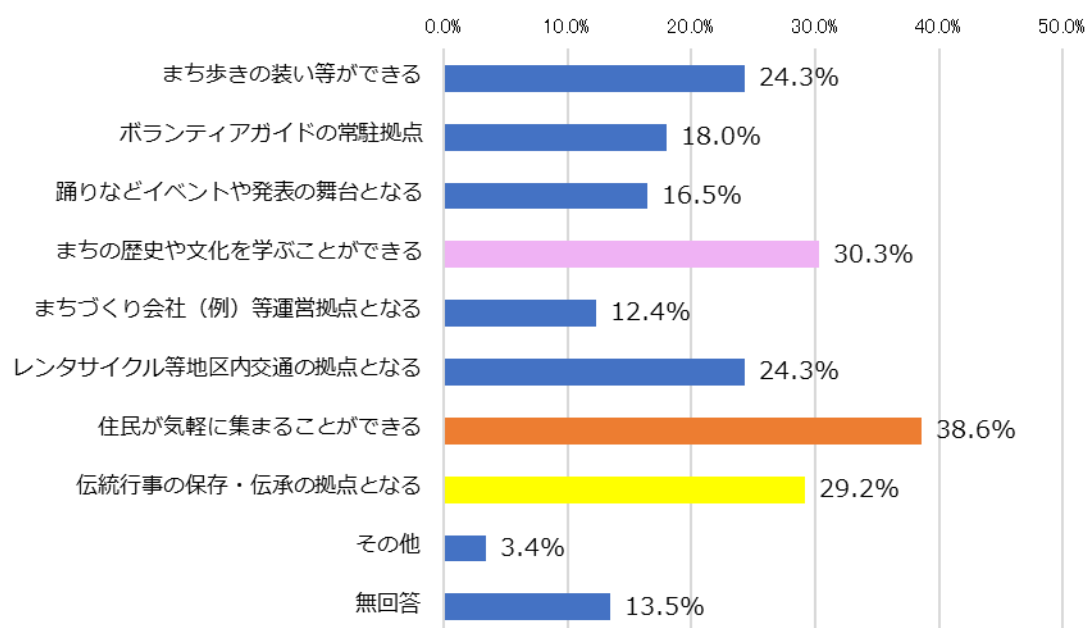
活動拠点（全体）	実数	比率(%)
まち歩き等の装い等ができる	118	24.6%
ボランティアガイドの常駐拠点	104	21.7%
踊りなどイベントや発表の舞台となる	74	15.4%
まちの歴史や文化を学ぶことができる	167	34.9%
まちづくり会社（例）等運営拠点となる	52	10.9%
レンタサイクル等地区内交通の拠点となる	112	23.4%
住民が気軽に集まることができる	175	36.5%
伝統行事の保存・伝承の拠点となる	140	29.2%
その他	15	3.1%
無回答	54	11.3%



・横山地区



・岩国地区



④住民の暮らしと観光客の共存

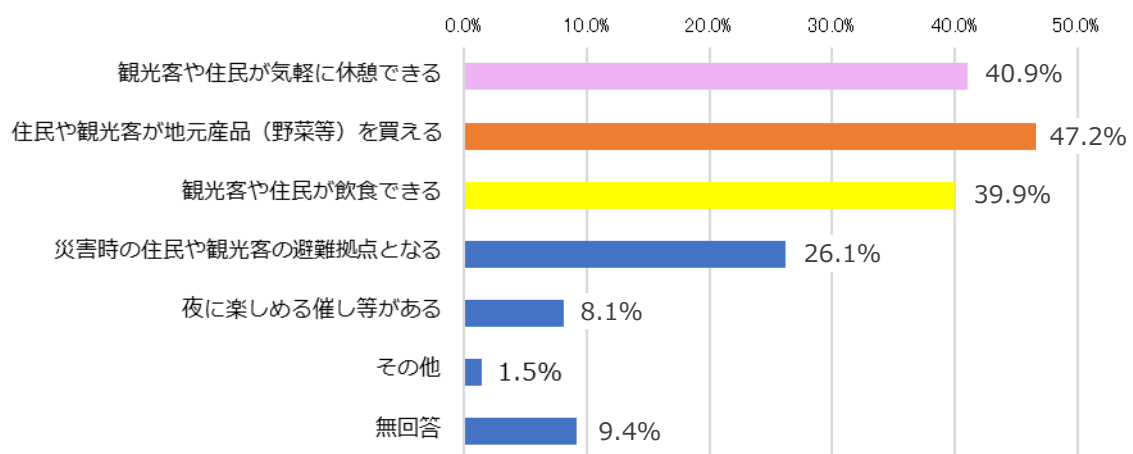
「住民や観光客が地元産品（野菜等）を買える」と答えた人が最も多く 47.2%となっています。

地区別でみると、横山地区では「観光客や住民が気軽に休憩できる」が最も多く 44.3%となっています。岩国地区では、「住民や観光客が地元産品（野菜等）を買える」が最も多く、49.8%となっています。

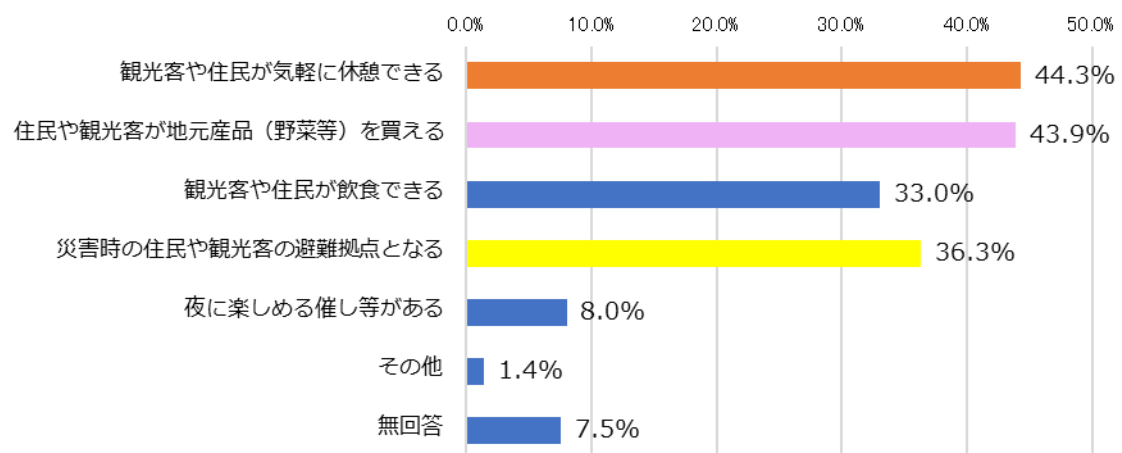
また、横山地区では、「災害時の住民や観光客の避難拠点となる」が 36.3%で、岩国地区の 18.0%の倍となっています。

・全体

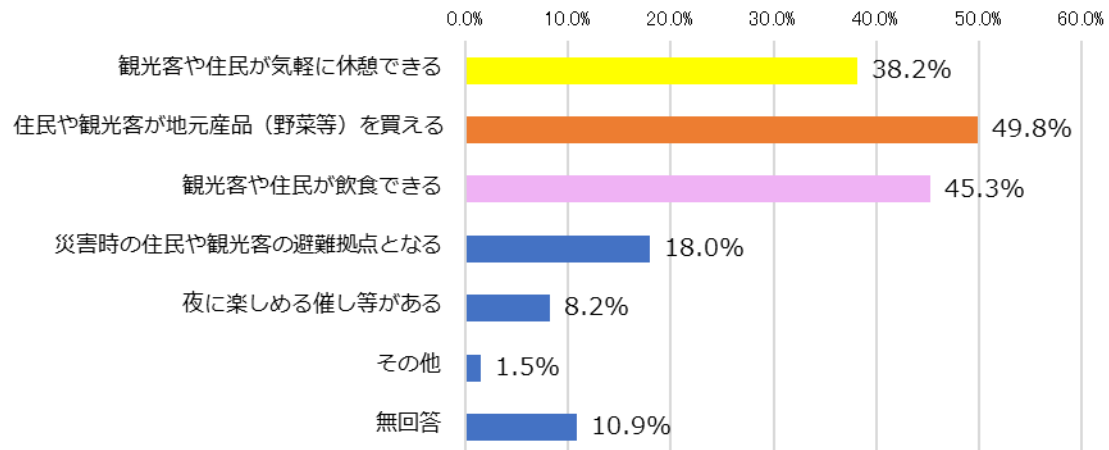
住民の暮らしと観光客の共存（全体）	実数	比率(%)
観光客や住民が気軽に休憩できる	196	40.9%
住民や観光客が地元産品（野菜等）を買える	226	47.2%
観光客や住民が飲食できる	191	39.9%
災害時の住民や観光客の避難拠点となる	125	26.1%
夜に楽しめる催し等がある	39	8.1%
その他	7	1.5%
無回答	45	9.4%



・横山地区



・岩国地区



5) 自由意見

アンケートでは、259件の自由意見を記入いただきました。

①（仮称）錦帯橋資料館等について・・・29件

意見の例 ・資料館に友人達と何回も行って見たいと魅力ある場所になればと思います。
・資料館は住民が気軽に立ち寄れ人が絶えない賑やかな場所となりますようお願いしています。

②賑わいや活動拠点・まちづくりについて・・・29件

意見の例 ・地域の活性化に役立つことを最重点とし観光客だけではなく地域住民に役立つような仕組みにして欲しい。

③住民の交流や情報発信について・・・14件

意見の例 ・地域で開催していたイベント(もちつき大会・そうめん流し等)を復興させて交流を深めることを行う、錦帯橋資料館はただ「見て歩く」だけでなく何かを体験して感動を得られるコーナーがあれば良いと思う。

④地域の活性化について・・・4件

意見の例 ・住民が住みやすく整備し魅力ある店などでできれば岩国地区も観光客を呼べ活性化すると思う。

⑤高齢者等の生活利便性と来訪者の共存について・・・7件

意見の例 ・高齢者が買い物したり食事が出きるところにしてもらえたらとても良い。

⑥動線・観光ルートについて・・・7件

意見の例 ・観光客の周遊ルートをいくつか作り(30分コース、～3時間コース等)、地図を見ながらまわったり、ボランティアに案内してもらったりできるようにしたらよいと思う。出発点(資料館)では、いつも何らかのイベントや体験ができるようにするとよい。

⑦店舗などの施設について・・・36件

意見の例 ・空き家・空き店舗の活用、また物産店などをつくと良い。
・周りの街並みへと連続的に繋がるオープンなイベントスペースや出店スペースなどを確保できれば、周辺地区を含めた賑わいに繋がるのではないかなと思う。

⑧観光PRやイベントについて・・・7件

意見の例 ・岩国地区は他地区に比べお寺が非常に多いと思います、それを紹介・アピールし観光等につなげる方策(方法)を考えてはどうでしょうか？

⑨清掃や整備について・・・42件

意見の例 ・下水道の整備を遅滞なく進めてほしい。
・錦帯橋バスセンターのトイレを早急に改善して欲しいです。

⑩景観・伝統的まちなみについて・・・24件

- 意見の例 ・昔のまちなみに戻さないと、1日中観光できる場所がない。
・岩国の自然歴史に相応しい歴史的な和風建築物とすること。

⑪まちなみ散策について・・・6件

- 意見の例 ・見てまわる順番か番号順とかいてほしい(ポイント)、時間もどのくらい(場所によって)かかるのか、例えば歩いてどのポイントを見てまわったら30分かかりますとか、買い物や土産のポイントも。

⑫アクセスについて・・・5件

- 意見の例 ・車で来る人をターゲットにすると、あまり変わらないので、岩国駅からバスで来る人(広島・島根・山口、または岡山もっと遠く)を増やす。

⑬駐車場について・・・8件

- 意見の例 ・河川敷の駐車場は景観の面、交通の面、非常に良くないと思う。一部の人が反対しているが、駐車場の整備も重要な改善点の一つだと思います。

⑭道路について・・・13件

- 意見の例 ・路上駐車は非常に危険である、車で車が見えず不便、事故につながる、車と人が通る場所を明確に分けてほしい。

⑮マナーについて・・・2件

- 意見の例 ・横山地区を訪れる観光客や市民の皆さんに、マナー、モラルを守るように注意喚起してほしい。(例)・ごみ捨て(持ち帰りの徹底)、・歩きながらの飲食、大声での会話、・ペットの糞処理、・マスクの着用(コロナ収束まで必須)、・動物への餌やり(特に野良猫)、・ペットを捨てに来る。

⑯補助金等・・・3件

- 意見の例 ・資料館の整備と合わせて観光客向けのお店や魅力的な施設がなければ資料館だけ地区の中で浮いた存在になってしまうのでは？と思います、そのためには空き店舗の活用や若い世代を呼びこむための補助金創設などが必要ではないでしょうか？

⑰その他・・・23件

(3) アンケートのまとめ

1) まちづくりに活用すべき良いところはどんなところか

まちづくりに活用すべき良いところについては、横山地区、岩国地区ともに「世界に誇れる錦帯橋がある」と答えた人が6割を超えています。2位と3位には、「自然が豊か」「落ち着いて静かな暮らしができる」となっています。地区別でみると、岩国地区では「教育環境が良い」が23.2%で5位になっているのに対して、横山地区では「教育環境が良い」が6.6%で10位となっています。

2) まちづくりの目標である「住んでよし、訪れてよしのまち」の具体的イメージ

「歴史と伝統あるまちで落ち着いた暮らしができる」が両地区ともに1位となっています。横山地区では、「錦帯橋や横山・岩国の歴史や伝統について学ぶことができ、愛着がもてる」が2位となっており、岩国地区では「空き家、空き店舗を活用し、若者の居住や雇用が生まれる」が2位となっています。

3) まちづくりの目標実現のために、大切なことは何か？ ①まちの賑わい

「魅力的なお店を増やす」が最も多く59.3%となっています。

地区別でも同じような傾向ですが、横山地区で「一年を通じた観光客の誘致」が30.2%とやや高くなっています。

4) まちづくりの目標実現のために、大切なことは何か？ ②まちの魅力と情報発信

「城下町の風情を残す」が最も高く、53.4%となっています。

地区別にみると、横山地区では「錦帯橋の歴史・技術的価値の発信」が2番目に多くなっており、45.8%で、岩国地区では、「観光客への情報発信の強化」が2番目に多く、42.3%となっています。

5) まちづくりの目標実現のために、大切なことは何か？ ③まちの暮らし

全体では「空き家、空き地、空き店舗の解消」が最も多く50.5%となっています。

地区別では、岩国地区の方がこの選択肢を選んだ方が61.4%で、横山地区の36.8%より多くなっています。

横山地区では「食糧品等の買い物の場所」が最も多く、48.1%となっています。

6) 地区のまちづくりのために（仮称）錦帯橋資料館等に期待することは何か？

①資料館の考え方

「住民と観光客が共に利用できる施設」が最も多く、42.0%となっています。

地区別でも同じ傾向にありますが、横山地区では「まち全体の魅力の紹介」を選んだ人がやや多く、27.8%となっています。

7) 地区のまちづくりのために（仮称）錦帯橋資料館等に期待することは何か？

②情報発信・展示

「現地に行きたいと思わせる情報発信」と答えた人が最も多く、56.2%で、次いで「錦帯橋に関する資料の展示」が41.3%となっています。

地区別でも概ね傾向は同じですが、岩国地区で「体験型、参加型の展示」がやや多くなっています。

8) 地区のまちづくりのために（仮称）錦帯橋資料館等に期待することは何か？

③活動拠点

「住民が気軽に集まることができる」が最も多く、36.5%で、次いで「まちの歴史や文化を学ぶことができる」が34.9%となっています。

横山地区では、「まちの歴史や文化を学ぶことができる」が最も多く、40.6%となっています。岩国地区で「住民が気軽に集まることができる」と答えた人が38.6%で横山地区の34.0%と比べてやや多くなっています。

9) 地区のまちづくりのために（仮称）錦帯橋資料館等に期待することは何か？

④住民の暮らしと観光客の共存

「住民や観光客が地元産品（野菜等）を買える」と答えた人が最も多く47.2%となっています。

地区別にみると、横山地区では「観光客や住民が気軽に休憩できる」が最も多く44.3%となっています。岩国地区では、「住民や観光客が地元産品（野菜等）を買える」が最も多く、49.8%となっています。

また、横山地区では、「災害時の住民や観光客の避難拠点となる」が36.3%で、岩国地区の18.0%の倍となっています。

第5章 ヒアリング

1. 自治会長ヒアリング

(1) 自治会長ヒアリングの実施概要

横山地区および岩国地区の自治会の現状と課題を探るため、下記の自治会長にヒアリングシートを記入いただく方法でヒアリングを行いました。

○ヒアリング対象自治会：

横山1丁目、横山2丁目、横山3丁目、横山3丁目上
本町1丁目、本町2丁目、本町3丁目、本町4丁目
新町、山手大通り、下山手通り、錦帯橋通り上区、錦帯橋通り下区
橋本町、東橋本町、むつみ会、上臥龍橋通り、臥龍橋通り、材木町
魚町、登富町、東登富屋町、鉄砲小路、鉄砲小路沖、扇町、岩国東

○実施時期：令和3年4月下旬～6月上旬

○ヒアリング項目：

- 1) 地区全体の現状（生活環境やまちの賑わいなど）について感じる事
- 2) 岩国城下町地区が今後めざしていくべきまちの姿（よい環境で暮らすまち、観光客を生かして賑わいのあるまち等）について
- 3) めざすべきまちの姿を実現化していくために、岩国城下町地区で課題となること
- 4) めざすべきまちの姿を実現化していくために、「資料館等」に期待すること（「資料館等が果たすべき役割、整備してほしい機能等」）
- 5) めざすべきまちの姿を実現するために地域住民が取り組むべきと考えられること
- 6) めざすまちの姿を実現するために地域住民と行政が協働して取り組むべきこと
- 7) 自治会の概要（世帯数 取り組み 自治会の課題等）

(2) 自治会長ヒアリングの結果

1) 地区全体の現状について感じる事

- ・横山 1 丁目は錦帯橋から多少離れている為、桜、紅葉の時期など車の交通量が多くなり、横山から外に出る時や入る時など不便を感じていることがおおいにある。平素は、自然が豊かで、静かで住みやすいと感じている。
- ・自治会役員の引き受け手が少ない。定年後の引退世代の方の積極的な協力が欲しい。
- ・誰が役員を引き受けても自治会運営ができるよう、記録の保存・マニュアル化に努めている。
- ・後継ぎ役員の育成に努めている。
- ・だんだん寂れてきています。西の町には有料の駐車場がありません。
- ・自分を含め、高齢化がどんどんすすんでいる。昔は本町通りといえば、すべての商店が揃っていたが、今は各町、1～2ヶ所の商店のみとなっている。
- ・居住者の減少、高齢化等により、町の賑わいが無くなっている。静寂な住宅街となっている。食料品店が少なくなっている。
- ・観光客は一時的に通過するのみであるので、そこに住んでいる住人を大切にするべきである。
- ・昭和 30 年代の賑わいを知るものとしては、現状は観る影もなく寂れてしまっている。高齢化も進み、厳しい状況で、空き地、空き家も数多く沈滞している状況にある。しかし、その一方で近年、岩国小学校区に住みたいという若い人もいて、新築家屋も見られるようになっており、変化の兆しもみられる。これを再生のチャンスととらえ、この地域の良さと伝統をふまえて生まれ変わることができるのではないかと、わずかな希望を持っている。
- ・空き家、空き地を放置しているところが多いように思われる。
- ・当地区は、昔ながらの商店街（住居兼）ですが、閉鎖した店舗が多く、まちの賑わいについては、活気があるといえる状況ではありません。特に土曜日曜は歩行者も少ない状況です。まちの賑わいが失われた分、静かな生活環境だと思いますが、とても寂しい感じがします。
- ・西岩国だけでなく、岩国市全体にまちとして元気がない。
- ・若者の活気がない。各種行事に対する協力性がとぼしい。
- ・最近では、若い家族の転入が多く、高齢者住宅との二重世帯が目立ちます。そのため、少しは活気が戻りつつある感じがあります。しかし、日中は中心地でも人通りがなく寂しい限りです。
- ・昭和 30 年代までは岩国市の中心的な街で、生活に必要な物も全て地域で調達することができました。しかし、今では薄利多売の商売で地域の商売が成り立たなくなりました。地区住民は高齢化し、賑わいもありません。ただ、最近若い人が転入され、小学生の子どもを多く見るようになり、少し活気が出そうな雰囲気です。我々の地区は元来住居地域ですから、「住んで良し」の分野に重点を置いたスタンスで進みたいと思っています。

2) 岩国城下町が今後めざしていくべきまちの姿について

- ・歴史的にみて価値のある希少な建物・物件等の調査・発掘。そうした物件の案内看板・説明看板等の設置
- ・残っている昔の建物、道等、なくならないうちに生かして欲しい。
- ・小倉城は楽しかった。古い建物を利用して何か良いアイデアがあればいいのだけ。
- ・錦帯橋を生かした町の魅力造り。（観光客に素敵なおところと思われるようにする。）
- ・ライフライン（特に道路）の整備をする。車の大型化に対して道路が狭い。

- ・旧家を観光資源とする。
- ・美しい錦川を生かす。(たとえば柳川のように)
- ・「訪れてよし」残すべきものは大事に残すとともに。新しくなるものは新たな景観を形成することで明るくきれいな街並み、歩きたくなる街路。
- ・「住んでよし・暮らしのあるまち」非常に困難なことではあるが、少子高齢化が進む現状では、観光だけに偏ることなく、地域内経済が一定程度成り立つ＝地域の持つ購買力の一定割合が地域内で循環するまち、地場商店や事業者が成り立つまち、小規模であっても車を使うことなく日常の買い物ができる商店街があり、若い人も子供連れで歩くことができるまち。
- ・「賑わいのあるまち」通過車両の規制（大型車両の通行を許可車両のみに限定する、時間帯通行制限など）とともに観光客を引き込むことができるスポットのあるまち。
- ・静かで環境の良い暮らしと観光の両立は困難と思う。ある地域で線引きしてはどうか。その地区内は数々の保障がバックアップして生活に支障がないようにしたい。
- ・地域には、都市を整備する方向性として、商業を振興する地域、工業を振興する地域、また、反対に住宅化を進めていくべき地域があると思います。岩国城下町地区は、歴史的に城下町として商工業が発展してきた地域で、現在は観光地であるので、外部からより多くの観光客や買い物客に訪れてもらう地域だと思います。
- ・街づくりの会議（集まり）等で、よく「この地域があまりにぎやかになってもらうと静かな平穏な日常生活が送れなくなるのは困る」と仰る方がおられますが、そもそもこの地域は「賑やかな街づくり」と「日常生活」を共存させていく地域だと思いますので「賑やかさ」に不満がある方も、この地域に生活する以上、日常生活を送り得る一定程度の「賑やかさ」は受忍しなければならないのではないかと思います。当地区は、通りに面してお店が並ぶ賑やかな街を目指していくべきだと思います。
- ・資料館建設とともに、観光客が歩いて錦帯橋まで行く商店を作ってもらいたい。
- ・西岩国地区は観光地であるとともに、一般住民の居住地でもあり、共存、共栄できる状況を考えて欲しい。
- ・錦帯橋という財産を生かして観光客が「訪れてよし」と感じる地域と高齢者や子供たちが安心して過ごせる地区とを両立できる町づくりが必要と思う。
- ・若い人が住みよい町に。

3) めざすべきまちの姿を実現化していくために、岩国城下町地区で課題となること

- ・資料館が計画通りできたとして、資料館から錦帯橋までの通りを魅力ある通りにしなければ、人々は錦帯橋に直接行き、資料館に車を停めて錦帯橋に行く人がどれだけいるか疑問があります。要は資料館から錦帯橋までの通りをどれだけ魅力あるものとするかにかかっていると思います。
- ・ライフライン（特に道路）の整備をする。車の大型化に対して道路が狭い。
- ・資料館や岩国学校などの魅力ある文化財を横山地区に集約化することで人々はそこに行けばすべて集中して見れることで多くの集客が見込めると思う。(名古屋にある明治村みたいに)文化財を分散して配置するのは、集客のことを思えば疑問があります。
- ・古民家を保存するため資金的援助制度の制定、助成金額の増額。古民家を所有する方への啓蒙活動。歴史的建物の修繕・保存の必要性を説明。保存する価値のある建物・物件等の調査・発掘。
- ・更なる道路の整備・・・安全にスムーズに人と車が往来できるようにする。

- ・空き家の整理、活用・・・撤去または住居者の斡旋。
- ・情報発信に努め、若者が故郷に誇りを持ち、定住したい気持ちを幼少期から育む。
- ・景観形成のための助成を充実させるとともに街路の景観形成などを促進する。
- ・商店の開業、改装、事業転換などへの大胆な支援策を設けることで、出店や事業継続への意欲を醸成する。
- ・観光客が歩くコースを（仮称）錦帯橋資料館～錦帯橋～横山～錦帯橋～観光駐車場と想定した場合、臥龍橋通りと大明小路（1丁目、2丁目）及び新町の電線地中化など景観の整備と何らかの観光スポットを設ける。
- ・下水道の確保、歩道の確保、駐車場の早期の確保が必要だと思います。また、空き店舗に新しいお店を出店したいと思える動機付けが必要だと思います。
- ・若い人がこの町に住みつく明るい町づくりに希望が持てるように、平成27年10月景観ガイドラインの見直し、住宅の新築、改築が住む人の自由に出来るように。
- ・大明小路を歩行者天国にしては？
- ・風致地区指定を筆頭に地域に係る規制が多すぎる。野放しにすることは良くないが、一度立ち止まって見直しをかけないと規制することで逆に町が衰退していくと思う。特に若い（子ども、孫）人が育った場所に住居を構えようとしないうちに、商売をしている家も昔の財産を食いつぶして新たな投資に挑戦が出来ない状況と思う。岩国地区の理想的な街の在り方を募集してみたいかでしょうか。各道路の駐車禁止、一方通行化等、地区住民や観光客がゆっくり安心して回遊できるよう、歩行者優先の交通体系を考えないといけない時期がきている。地域住民の我儘を通しては街が消えていく。

4) めざすべきまちの姿を実現化していくために、「資料館」に期待すること

- ・資料館を計画通りの場所に建設した場合、周辺の通りや町並みを魅力あるものにしなければ、資料館単独では浮いた状態は免れないと思います。
- ・横山に計画中の博物館との役割分担・棲み分けを明確にする。
- ・城下町の町割りについて、旧町名（曲尺町、鉄砲小路、岩国七町）の由来等の説明・PR。
- ・建物の外観は城下町の町並みに合ったもので、木造和瓦葺き。特に屋根瓦は岩国独自の瓦（両袖瓦）を復元し、使用して欲しい。岩国町は両袖瓦の建物が多かったが、今は僅かしか残っていない。
- ・歴史的に価値のある物件の紹介（パネル展示でも可）それらを見に行ってみたくするような案内・説明。
- ・体験とかできたらいいと思う。
- ・錦帯橋だけにこだわらず、宇野千代資料館、藤岡市助資料館、そして道の駅として地区のショッピング店としていただきたい。
- ・AIを取り入れて錦帯橋について（成り立ちなど）説明する。
- ・錦帯橋資料館の仮称を錦帯橋案内所とすることは如何でしょうか。
- ・錦帯橋のみではなく岩国全体の魅力を全力でPRできる資料館であってほしい。
- ・大きな施設であっても単に観光案内所のような施設であれば、団体客以外に継続的な集客は見込めない。バス下車後、ガイドに案内されて（仮称）錦帯橋資料館～錦帯橋～横山～錦帯橋～観光駐車場を歩くだけで終わってしまう。子供連れの家族や少人数グループの旅行客が錦帯橋を題材にしたゲーム、木工などが体験できる施設、これを通して博物館へ誘うことができるような工夫が必要である。また、岩国というまちに興味を惹かれ、散策に足を向け

るための工夫も必要である。これらが口コミやインスタグラムなどネットで広がることの効果は大きいと考える。

- ・展示物に期待している。また、資料館の周辺環境整備をしてほしい。
- ・資料館そのものだけだと継続的な来客は困難だと思います。たとえば、下関市の「唐戸市場」や高知市の「ひろめ市場」のような食事（岩国のソウルフード）、「すえひろのラーメン」「山賊」「たつみやのお好み焼き」や飲酒（岩国の地酒 地ビールなど）できるところを併設（日常的な利用もできるようなお店も出店してもらう）
- ・観光事業者の協力が必要。
- ・大明小路の車乗り入れの制限等、歩きやすくなること。歩道等の設置（カラー歩道等）
- ・単なる資料館では厳しいのでは？特徴ある、また、話題となるような資料館を目指して欲しい。
- ・錦帯橋、岩国市観光の玄関の役割を期待します。高校生、大学生に物作りの楽しさ、達成感を体験していただくためにも、1/5を造る体験学習のスペースを確保して欲しい。説明文を読むよりも目で見て学習させる施設であって欲しいと思います。また、観光客ばかりでなく、地域住民も集い和める場所となるよう求めます。岩国地区が賑わいを取り戻す起爆剤になることを期待します。
- ・資料館の完成図の看板を立て、地区の人に目指しているところを示して、活性化の拠点となる姿を見せてください。

5) めざすべきまちの姿を実現するために地域住民が取り組むべきと考えられること

- ・地域の住民ができることは限られ、日々の生活の中で清掃や祭りに積極的に参加することなどが考えられます。
- ・城下町の古い町並み、建物、物件の資料・写真等の情報提供に協力する。
- ・古民家の改修・復元に積極的に協力する。
- ・岩国市（行政）とよく活発に話し合いを行い、plan・doを早める。
- ・高齢化と独居家庭がほとんどなので、行政主体でしっかり進めて欲しい。観光客に親切に道を教えたりはしているが、地域住民主体では難しい。
- ・まず自分たちの住むまちを自分たちできれいにすること。自宅前の清掃に心がけること。
- ・自宅の道路に面した部分の景観への配慮と不要物の撤去など。自分たちのまちを良くしてこういう気運の醸成、残念ながらこれが第1歩ではないかと思う。現状では、地域の中で「めざすまちの姿」が十分に認識されておらず、コンセンサスも形成されていない。こうした中で取り組むべき課題も把握できていないのではないかと。運営は難しいが、「街づくり協議会」のようなものが必要ではないかと思う。
- ・実現の方針にはできる限り協力するが、全体として、あまり関心がないようだ。
- ・当地区全体は、まず、外部から多くのお客さんに来ていただき、「穏やかな街」と「日常生活」を共存させていく地域だということを地域の住民が共通認識をすることだと思います。
- ・西岩国地区は、観光地としての顔を持っているので、ある程度の各種規制は仕方ないと思う。
- ・まず第一に行政が取り組んでくれる事業に賛成し、協力することが大事だと思います。戦後70年、現在の住民は年を取りすぎて、起業するには無理があると思います。しかし、土地や家屋を貸すなど、地域住民でしかできない協力のやり方があると思いますので官民が一体となって努力したい。

6) めざすべきまちの姿を実現するために地域住民と行政が協働して取り組むべきこと

- ・ 基本的プランを行政が示して、そのプランを基に住民が話し合いの場を持ち、修正を加えて相互が納得することが重要だと思います。
- ・ 古民家を所有する方の市の調査への協力、情報提供。
- ・ 案内看板の設置
- ・ 行政のいう「住んで良し」とは何だろう。新築に家に対するいろいろな制限規制がある限り厳しく住むのが難しい。
- ・ 中央公民館の建て替えが計画されているが数年間公民館が使用出来ない。岩国登富町の市場の跡地を駐車場とする案があるが、臨時の公民館をそこに仮設し、公民館活動の場として欲しい。
- ・ 上述のとおり、行政主体でやっていただきたい。できることは、みんな地域を愛しているので行っている。
- ・ 今後の意見交換会、説明会など様々な機会を通して明らかになるものと思う。
- ・ 夏の花火大会の当日は雨戸を閉めて、騒音を我慢して眠っていると聞いた事がある。住民が安心して生活できるようにお願いしたい。
- ・ 共通認識の下で、新たな目標を定める。定める上でも、また、定めた後は特に地域住民と行政が一体となって取り組む気持ちを持つことが重要だと思います。
- ・ ここ数十年、当地区全体が少しずつ寂れていき、現在全く活気がなくなっております。それに伴い、地区の方々も何をやってもうまくいかないという「負」の意識が強くなっているように感じます。ただ、錦帯橋とその界限は、年間ある一定以上の集客能力はあるのですから、何かのきっかけで地区全体の活気は取り戻せると思います。成功体験が一つでもできれば、それがきっかけとなって地域の住民の意識も変わると思います。まずは、この地域に訪れてもらい、1時間でも多く滞在してもらうことを考えると、やはり飲食（地域の住民も利用できるもの）ができるところを多く作ってほしいと思います。
- ・ スピード感をもって、対応してもらいたい。
- ・ 昔から西岩国地区は「総論、賛成。各論、反対」の風潮があり、区画整理も進んでいない地区です。そこで行政も新しい企画等の実施に当たっては、根気強く説得する努力をして欲しい。
- ・ 行政と住民がもっとコミュニケーションを図って、今までの慣習にとらわれなくて、日々見直して町のために良い知恵を出して、公民館も新築になりますので、地域の街づくりのためのコーナーを設置して、地域を盛り上げるための部署を設置したらどうでしょう。

(4) 自治会長ヒアリングのまとめ

1) 地区全体の現状について感じる事

- ・高齢化が進展し、若者が少なく自治会役員や各種行事への参加など地域の担い手が不足している。
- ・空き家、空き地が多く、放置されている状態のものも見受けられる。
- ・昭和30年代までの賑わいが失われつつあり、地域住民の生活必需品を売る店が少なくなっている。
- ・一方で、岩国小学校校区に住みたいという若い層もいて、新築家屋も見受けられるようになり、この地域の良さと伝統をふまえて再生できるチャンスではないか。

2) 岩国城下町地区が今後めざしていくべきまちの姿について

- ・錦帯橋や錦川という財産を活かして「観光客が訪れて良し、と感じるまち」であると同時に「高齢者や子どもたちなどすべての人が安心して暮らすことができるまち」とを両立させたまち
- ・地域内経済が一定程度成り立ち、地場商店や事業者が成り立つまち

3) めざすべきまちの姿を実現化していくために、岩国城下町地区で課題となること

- ・安全にスムーズに人と車が行き来できるような更なる道路の整備
- ・空き家の整備・活用
- ・観光客の歩くルートを設定し、景観の整備や観光スポットを設けるなど、魅力ある通りにして、町の賑わいを創出
- ・若い人が空き店舗などを活用できるような助成

4) めざすべきまちの姿を実現化していくために、「資料館」に期待すること

- ・建物の外観を城下町のまちなみに合ったものにする。
- ・錦帯橋のみではなく、岩国全体の魅力をPRできるような資料館であってほしい。
- ・錦帯橋などを題材としたゲームや木工などの体験ができ、文章だけでなく目で見て学習できる施設
- ・観光客だけではなく、地域住民も集い和める場所であること。

5) めざすべきまちの姿を実現するために地域住民が取り組むべきと考えられること

- ・城下町の古いまちなみや建物等の資料や写真などの情報提供への協力
- ・日々の清掃や祭りなどへの積極的な参加

6) めざすべきまちの姿を実現するために地域住民と行政が協働して取り組むべきこと

- ・行政と活発な話し合いの場を設け、官民一体となって努力すること。
- ・基本的プランを行政が示して、そのプランを基に住民に話し合いの場を持ち、修正を加えて相互が納得することが重要

2. 岩国城下町団体ヒアリング

(1) 岩国城下町団体ヒアリングの実施概要

地区内の事業者に対し、現状のまちや観光実態の評価、課題、今後取組むべき方向、その中で「資料館等」に期待することを伺い、錦帯橋資料館基本計画の基礎資料とするために、ヒアリングを行いました。

○ヒアリングを行った岩国城下町団体（五十音順）：

岩国学校教育資料館、(一社)岩国市観光協会、岩国城、岩国シロヘビの館、岩国水西書院、岩国西商工連盟、(株)岩国城下町サロン、岩国徴古館、岩国南条踊保存会、岩国ホテル旅館組合、宇野千代生家、柏原美術館、吉川史料館、kuruiku 西岩国、錦帯橋バスセンター、錦帯橋を世界文化遺産に推す会、五橋文庫、小糠踊保存会、城下町寺子屋、本家松がね、錦川鉄道(株)

○実施時期：令和3年4月中旬

○ヒアリング項目：

- 1) 地区全体の現状（生活環境やまちの賑わいなど）について感じる事
- 2) 岩国城下町地区が今後めざしていくべきまちの姿（よい環境で暮らすまち、観光客を生かして賑わいのあるまち等）について
- 3) めざすべきまちの姿を実現化していくために、岩国城下町地区で課題となること
- 4) めざすべきまちの姿を実現化していくために、「資料館」に期待すること（「資料館が果たすべき役割、団体との関わりや連携、整備してほしい機能等」）
- 5) めざすべきまちの姿を実現するために団体が取り組むべきと考えられること
- 6) めざすまちの姿を実現するために団体と行政が協働して取り組むべきこと
- 7) 団体の概要（組織形態、構成等）

(2) 岩国城下町団体ヒアリングの結果

1) 地区の現状

- ・住民同士のコミュニティを維持するための動きはあるが、それを観光に結び付けるのは難しい。
- ・前に進まないことに住民の不信感は募っている。
- ・岩国に興味を持っていない人がいるが、「こんなものがある」と紹介すると、その後行って見てきて、良かったと言ってくれる人がいる。

2) まちの姿

- ・住民と観光の共生はとても重要
- ・資料館を作る目的について明確なビジョンを打ち出すべき。
- ・観光と住民の生活を分けて考えるべきではない。
- ・錦帯橋を中心とする徒歩や自転車による回遊性をつくることが重要

3) 課題

- ・観光客を入れないとこの町は過疎化する。
- ・観光だけではこのまちのコンセンサスを得ることはできない。
- ・岩国地区はある程度住民と観光が共存する将来像を描くことができると思うが、どこまでの範囲を想定するのか？
- ・住民は、誰が、いつ、なぜ、錦帯橋を作ったのか説明することができない。子供の教育に力を入れるべき。
- ・住民同士が集まって将来のことを話す場が必要である。
- ・ルートを限定する必要がある。
- ・西商工連盟に属していない新しい店もある。
- ・錦帯橋から何が見える、と教える人もいないので、2 回渡る必要がないと思っている。その人が何に興味をもっているのか。錦帯橋を渡る、次は下から見ると、とステップアップしていくと、リピーターとなり、ここが面白いとなる。

4) 「資料館」への期待

- ・観光客相手だと季節により入込客数が変わってしまうので、住民が発表できる場や体験プログラムなどを作る。
- ・観光客の入込は季節によって変動するので、地元が求める施設になるべき。
- ・萩や石見銀山のビジターセンターのような、複合的な機能
- ・朝市、商工・農林などを巻き込みながらできたらよい。
- ・観光客が歩くルートを大明小路とバスセンターに限定するべき。
- ・錦帯橋を中心とした岩国の文化を知れる場所
- ・語り部が自由に話をする場
- ・「錦帯橋を学ぶ会」を毎週開くなど、地元の人に知ってもらえる資料館が良い（観光客参加）。
- ・修学旅行生が来て学べる場所
- ・物販の機能を持たせ、道の駅に地元の人たちが作った野菜や名産などを買える場所
- ・オフシーズンは住民相手に商売をする施設
- ・かっこいいトイレを併設
- ・避難施設になる。
- ・体験型で錦帯橋を見てもらい、その後に錦帯橋に行ってもらう。
- ・構造のすごさと目に見えない魅力を掘り起こし、もう少し岩国を見たいと思ってもらえるもの
- ・地域の人も来て、来訪者も立ち寄れる雰囲気があるもの
- ・他の施設も含めて魅力を向上させ、発信していく必要がある。
- ・博物館と資料館の役割分担が必要、資料館に教育の要素をどれだけ持たせるのか。
- ・博物館は、錦帯橋に特化した展示はしないと思われる。
- ・資料館は観光寄りの施設で、賑わいを作ることが求められている。
- ・大工技術の練習や体験は資料館の中でやるべきではない。
- ・錦帯橋は現地で体験できるので、1/1 を作る必要はない。
- ・本物が近くにあるので、模型を作っても仕方がない。本物を見ることに意味があるので、そこに仕向けるようにするべき。

- ・なぜ橋が流されないのか、橋だけでなく足元もすごい、そういった見どころを発信することが必要
- ・エンターテイメントに重きを置き、AR を使いこなして江戸時代の町並みを表現したり、普段見られない角度からの映像を流したりするなど、現地で体験できないようなものが期待される。
- ・資料館に生活の機能を持たせるのも良い。
- ・道の駅のような万能な機能を持たせるのもよい。
- ・資料館という名称が相応しいのかどうかは検討すべき。
- ・まちづくりを主にしてしまうとブレるのではないかな。
- ・橋の駅ができたが、松がねでは物販はやらないが、錦帯橋資料館で物販でやるのであれば自社製品を作っていくべき。
- ・錦帯橋周辺で修学旅行生が来ても買う物が無い。その辺を錦帯橋資料館でやると、その効果を地元のお店に波及させる。
- ・岩国学校のことも紹介して、回遊するような動線をつくってほしい。
- ・各施設のネットワーク化や地域の回遊性を高める機能が備わること。
- ・子供連れ、学生さんが楽しめるものがない。
- ・高齢者のコミュニケーションの場づくりとして「本家松がね」は期待されたが、地域の施設になっていない。
- ・町内の人々が活躍できる場所になり、地元が支える施設
- ・各店もアピールできると良いと思うが、その機能を資料館に持たせるとよい。
- ・伝統芸能などの文化を保存・継承し、市民や観光客に発信できる拠点
- ・常設展示、企画展示、集会室（踊ったりワークショップをしたり）、地元の人も理解できる場
- ・小糠や南条、民謡、神楽などの民俗芸能もいろいろあるので、祭りのときには披露できるような、年1回発表できるステージなどがあるとよい。
- ・それらの事務を総合的に受ける総合事務所があるとよい。
- ・子どもの発表の場
- ・計画地には錦座「錦帯劇場」があった。
- ・錦帯橋をつくった吉川家の歴史について紹介、吉川史料館へ誘うガイダンス
- ・整備すべき機能
 - まちづくりのあゆみコーナー
 - 寺子屋コーナー
 - 紹介コーナー
 - ・岩国七町原風景：桜、ヤブツバキ、竹林、武家屋敷
 - ・食べ物：アユ釣り、岩国寿司、レンコン、酢蓮、ワサビ、大平鍋
 - 発表の場
 - 体験の場
 - ・大正ロマン体験の楽屋機能（着物着付け、手作り行灯など）

3. 観光事業者ヒアリング

(1) 観光事業者ヒアリングの実施概要

錦帯橋周辺観光の特徴や可能性について把握するため、観光事業者に対してヒアリングを行いました。

ヒアリングは、発地と着地を対象とし以下の観光事業者を対象としました。

○ヒアリング対象：

＜発地＞

(株)JTB 大阪本部

(株)近畿日本ツーリスト関西

(株)日本旅行西日本事業部

＜着地＞

(株)JTB 広島支店

(株)日本旅行広島支店

○主なヒアリング項目：

1) 近年の岩国観光の特徴や変化について

①観光客の客層

②観光行動

③観光客のニーズ など

2) 横山地区（錦川右岸）、岩国地区（錦川左岸）に関する誘客の可能性について

①商品造成の視点からみた魅力

②商品造成の視点からみた課題

③滞在時間の延長や消費金額の増加の可能性 など

3) 個人旅行商品の造成に係るポイントについて

4) その他

(2) 観光事業者ヒアリングの結果

	(株) J T B 大阪本部 (発地)	(株) J T B 広島支店 (着地)
岩国を含む 旅行商品 の特徴	・県別に掲載されており、「宮島～宮浜～岩国」が広島エリアとして掲載 ・山口県だけを取り上げたページには岩国は入らない ・岩国旅行客の4割が首都圏 ・年齢層はやや高め ・山口とセットの方がイメージ的に販売しやすい	・中国方面は圧倒的に欧米が多い。台湾も有名ブロガーの紹介から増えている。中国、韓国などからは少なくプロモーションも必要ないと考えている ・インバウンドは首都圏周辺の宿泊から地方へ宿泊が流れていく傾向にある
契約提携 ホテル	・岩国国際観光ホテルのみ	・岩国国際観光ホテルのみ
滞在時間 の現状	—	—
中国地方 への 旅行泊数	・関西から1泊2日が主だが2泊も ・首都圏からは飛行機を使って2～3泊が多い（8割以上が2泊）	・関西から1泊2日が主だが2泊も ・首都圏からは飛行機を使って2～3泊が多い
商品造成 の ポイント	・岩国観光の見通しは厳しい ・まずは知ってもらうための発信力が必要 ・ショッピング、見どころ、体験など地域ならではの魅力づくり ・岩国城まで行かせることができれば必然的に滞在時間は延びる ・まち歩きと荷物配送サービスを合わせたような魅力あるコンテンツのクーポンを付加することが必要	・ターゲットを絞る必要がある 宿泊増をめざすのか、日帰り客増と消費単価のアップを図るのか ・空港があるメリットを活かし、首都圏からの誘客を図る ・空港のゲート性は大きい ・錦帯橋以外の魅力あるコンテンツを見つけ出す ・岩国らしい食 ガストロノミーツーリズム ・いろり山賊、由宇球場との連携
弱点	・錦帯橋のみでその他の知名度が低い ・滞在時間を延ばすための理由づくりが必要 ・城は現存12天守と比べて弱い	・発信の仕方の工夫が必要
歴史の魅力	・歴史よりも「絶景」を求めて旅行する人が多い ・行ってみたくなるストーリーが必要	・毛利～吉川の物語をつくってそこに需要があるかという難しいかもしれない
城下町の 可能性	・県内では萩と競合し、弱い ・重伝建地区の柳井と比べて何が魅力かを発信することが必要 ・岩国はアクセス面で空港に近く、錦帯橋というフックになる資源もあるので売り込む工夫はできるかも	・体験型コンテンツの提供が必要 ・地元で売りたいもの（こと）を創る ・まち歩きをさせるのであれば錦帯橋と周辺のストーリー性を明確に打ち出す。日常生活や伝承の継承などをみせる工夫が必要
二次交通 の考え方	・錦帯橋の両側に発着地点が必要 ・観光案内と駐車場、二次交通のワンストップが理想	—

	(株)日本旅行西日本事業部（発地）	(株)日本旅行広島支店（着地）
岩国を含む 旅行商品 の特徴	・岩国は広島とセットで、広島泊 ・山口や下関との組合せは難しい ・「西の旅 瀬戸内へ」の中に「広島・岩国 おすすめコース（モデルコース）」を紹介	・旅行の形態は個人旅行が主 ・基本は宿＋交通でおすすめオプションコースを載せているが、岩国コースは現状設定していない（オプションコース掲載は「赤い風船 PLUS+」）
契約提携 ホテル	・岩国国際観光ホテルのみ	－
滞在時間 の現状	・2～3時間	・30分～1時間
中国地方 への 旅行泊数	・関西から1泊2日	－
商品造成 の ポイント	・体験型観光は男性にも人気 ・「おひとりさまプラン」では特に男性客が増加 ・JRセットプランではワンコインでの二次交通をオプションで付けている（岩国の設定は無し） ・食べ歩きチケット（岩国へ導入するためのクーポン（3枚千円等）発行）	・体験 ・まちなみめぐり ・和テイストの食べ歩き ・修学旅行の場合も、岩国で何を学ばせるかという目的意識を持たせるような観光地化が必要 ・宿泊施設を新たに作るのは難しいので「昼の観光」をするしかない ・魅力ある商店、飲食店が不足 ・バスを駐車させずに停車だけにして歩かせてはどうか
弱点	・宿泊施設を呼び込めれば観光客誘致にはベストであるが、難しいだろう ・本当は宿泊してもらって、朝行動するのが一番良い	・空港利用は70%以上がビジネス ・観光客を誘致する仕掛けができていない ・旅行会社と提携する宿が少ない
歴史の魅力	・好きな人であれば可能性あり ・男性おひとりさまのカギかも	・まずは横山地区で見せ方や動線の工夫が必要、その後、城下町に人が流れるようにする
城下町の 可能性	・メディアで取り上げてもらえるような魅力アイテムがあればよい - 例えば、武将隊、城攻め、着付けと城下町散策	・空き家、空き地が増え、まちが変容してきている中で、今のうちに手を打つことが必要 ・出石など今後の観光まちづくりで参考になりそうな場所に視察に行き、関係者が勉強することが必要
二次交通 の考え方	・バスは制約が多いので、片道だけのタクシークーポンなどの工夫が必要 ・ワンコインオプションの設定	・もう少しできれば

	(株)近畿日本ツーリスト関西（発地）
岩国を含む 旅行商品 の特徴	・「宮島～岩国（錦帯橋）プラン」を「旅のおすすめ」として紹介しており4年目となり定番に ・宮島で昼食あなご飯を食べてから岩国へ移動 ・岩国駅から「駅から観タクン」を利用
契約提携 ホテル	・岩国国際観光ホテルのみ
滞在時間 の現状	・2～3時間
中国地方 への 旅行泊数	・関西から1泊2日 ・首都圏から2泊3日
商品造成 の ポイント	・参加型 ・インスタ映え ・食による魅力付加は重要 ・飲食店の充実が重要
弱点	・契約可能な宿泊施設が少ない。 ・宿泊施設に「夜の観光」をプラスすることが大事
歴史の魅 力	・歴史的な魅力付加はマニアックになるので難しい
城下町の 可能性	・食や体験を間に入れながらまち歩きコースを設定してはどうか
二次交通 の考え方	・レンタサイクルの利用

第6章 住民ワークショップ

1. 住民ワークショップ

(1) ワークショップの目的

地区住民をはじめ、地元関係団体、地元事業者等によるワークショップを実施し、岩国城下町のまちづくりの視点から、まちの将来像の構築（共有）、そのための（仮称）錦帯橋資料館等の位置付けや他の施設とのネットワークのあり方、整備すべき機能・規模、そして、（仮称）錦帯橋資料館等の管理運営のあり方について、意見を集約しました。

(2) ワークショップの実施概要

自治会長の意見を集約すると、「住んでよし、訪れてよし」のまちについては一定の合意があると考えられますが、地区によって若干の考え方の違いも見受けられます。

自治会長アンケート、団体ヒアリング、住民アンケートからある程度のまちづくりイメージと資料館のあり方は想定できます。

したがって、ワークショップでは一歩踏み込んだ具体的なまちのあり方や資料館のイメージを検討することに留意して実施しました。

○対象地区：

- ・横山 1 丁目から横山 3 丁目
- ・岩国 1 丁目、岩国 2 丁目、岩国 3 丁目の一部、岩国 4 丁目

○参加対象：

- ・対象地区の各自治会連合会長及び地区住民
- ・地元関係団体等：（一社）岩国市観光協会、岩国ホテル旅館組合、岩国西商工連盟、
（株）岩国城下町サロン、吉川史料館、五橋文庫、
錦帯橋を世界文化遺産に推す会、山口銀行、西中国信用金庫

○募集方法及び人数：

- ・地区住民：公募
- ・地元関係団体等：各団体からの推薦者で 1 団体 2 名以内

(3) ワークショップのプログラム

ワークショップは新型コロナの状況を勘案して実質的な回数を限定して行う必要がありました。そのため、基礎的な資料を提供して実質的な検討に重点を置いて実施しました。

また、城下町での歴史的建造物を活用したまちづくりの事例として、「兵庫県たつの市」の龍野地区で空き家を活かした事業展開やまちづくり活動を行っている(株)緑葉社の代表取締役畑本康介氏を招き、賑わい創生のための取り組みの実践をテーマに講演いただき、その後地区の方々と意見交換を実施しました。

■第1回：令和3年9月30日

○テーマ：「岩国城下町将来像と資料館の役割」

—「住んでよし、訪れてよし」のまちを実現するために資料館の役割や機能を考えよう—

- ・住民アンケート結果報告（速報版）
- ・資料館の位置づけについて説明
- ・岩国城下町将来像・資料館への期待や機能・課題について意見交換

■第2回：令和3年11月5日

○テーマ：「(仮称) 錦帯橋資料館の具体的なイメージ」

—資料館の機能や機能のつながり、土地利用について考えよう—

- ・機能連関イメージ案 土地利用イメージ案
- ・資料館の機能について、回遊性について、動線について、建物イメージについて、意見交換

■第3回：令和3年12月3日

○テーマ：「(仮称) 錦帯橋資料館の計画案についての検討」

—これまでの検討をふまえて資料館の平面構成について検討しよう—

- ・資料館に必要な機能やイメージについて意見交換

■第4回：令和3年12月20日

○テーマ：まちづくりの先進事例の学習

- ・講演「歴史的町並みを活用したまちづくり講演会」
兵庫県たつの市 (株)緑葉社代表取締役 畑本康介氏

■第5回：令和4年3月28日

○テーマ：第3回WSにおける参加者からのご意見や質問に対する市の考え方説明、意見交換

(4) ワークショップの方法

- ・ 5 グループに分かれて同じテーマで検討しました。
- ・ 原則として資料提供を行いつつ KJ 法を用いて意見交換を行いました。
- ・ 1 回のワークショップの時間は 2 時間程度とし、事業者も多く参加してもらうために夜の開催（18:30～20:30）としました。
- ・ ワークショップの結果は、かわら版にまとめ、次回ワークショップの前に配布しました。

(5) ワークショップのまとめ

■第1回ワークショップ

○開催日時：令和3年9月30日（木）18:30～20:30

○開催場所：中央公民館

○参加者：対象地区 横山1丁目から3丁目、岩国1丁目、2丁目、3丁目の一部、4丁目
地区住民23名、地元関係団体等14名（5つの班を構成しました。）

○検討テーマ：

「岩国城下町将来像と資料館の役割」

—「住んでよし、訪れてよしのまち」を実現するために資料館の役割や機能を考えよう—

○説明事項：

1) 資料館の位置づけ

要旨：資料館は、整備する観光駐車場と連動した観光案内施設として、錦帯橋や城下町の魅力等を紹介する施設であり、地域の賑わい創出にも資するものであること、また、錦帯橋に係る資料等の収集・保管や調査・研究の機能は、横山地区で整備が進められている岩国市博物館に集約することについて説明がありました。

○報告事項：

1) アンケート結果（速報版）

<ワークショップでの主な意見>

1) 岩国城下町の将来像（どんなまちにしたいか）

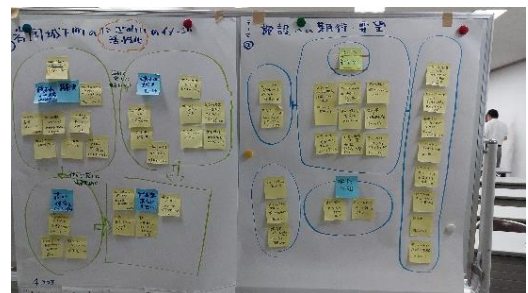
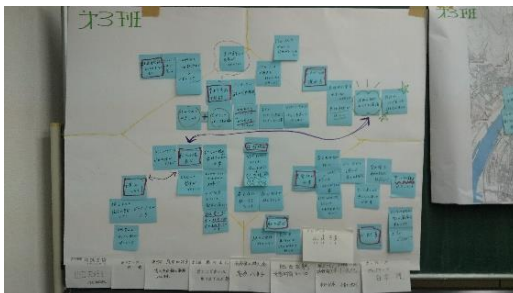
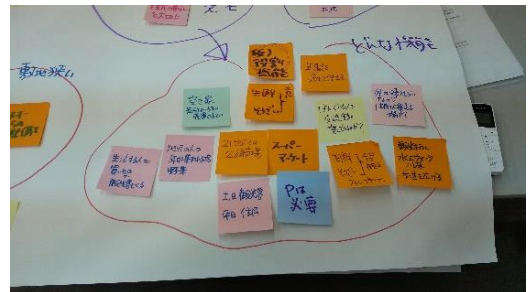
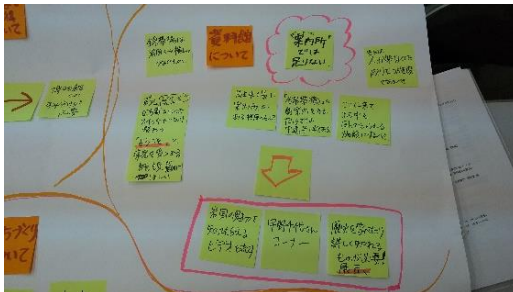
- ・ 昔のような賑わいではなく、観光客がまちを歩くことで賑わいになる。
- ・ そのための「ルートづくり」が必要
- ・ 出店しやすい支援も含めてまちに魅力施設を増やしていく。
- ・ 観光客と住民の共生は理想だけれど難しいので、住み分けが必要
- ・ 貴重な民家を残し、空き家の活用が必要
- ・ 資料館周辺で「食べる」「観る」「買う」を充実させる。
- ・ 夜のまちも重要なので、18時から20時ごろまでお店をあける。
- ・ 地域住民のつながりをつくる必要がある
- ・ 小さな子供連れが気軽に寄れるようなお店がほしい。
- ・ 地域住民の買い物等がしやすいまち

2) 資料館への期待や機能（まちの将来像実現のための役割）

- ・「資料館」という名前はやめよう。
- ・岩国城下町のエントランスとして「ようこそ」の気持ちが現れる場
- ・岩国の魅力の紹介や歴史を学べる展示（宇野千代さんの紹介コーナー等）
- ・外からの人に来てもらいながら住民が集える場所
- ・「21世紀の公設市場」のイメージ
- ・観光案内機能をもった「ビジターセンター」、ここから観光スタート。
- ・昼は観光客向け、夜は地元住民に開放
- ・体験機能の導入（例えば、錦帯橋模型づくり、伝統の踊り体験等々）
- ・地元の人ができる「道の駅」のような機能
- ・若い人たちが何かしようとしたときにできる場所（フリーマーケット等）
- ・歩いている人が入りやすい施設
- ・若い人たちが頑張っている店舗を応援できる機能
- ・城下町全体で役割分担を考え、その中で核となる施設とする。
- ・限られたスペースで、限度まで使った施設とする。
- ・世界遺産をめざすなら、そのための機能も必要ではないか。

3) 課題

- ・駐車場の不足が予想されるので、駐車場対策が必要
- ・道路や交通手段の検討、周辺の整備や賑わいについての検討が必要



■第2回ワークショップ

○開催日時：令和3年11月5日（金）18:30～20:30

○開催場所：中央公民館

○参加者：対象地区 横山1丁目から3丁目、岩国1丁目、2丁目、3丁目の一部、4丁目
地区住民22名、地元関係団体等11名（5つの班を構成しました）

○検討テーマ：

「（仮称）錦帯橋資料館の具体的なイメージ」

—資料館の機能や機能のつながり、土地利用について考えよう—

＜ワークショップでの主な意見＞

1）（仮称）錦帯橋資料館等の機能

【基本イメージ】

—来訪者も地域住民も共に利用できる施設、城下町にお迎えするゲートウェイ—

【機能イメージ】

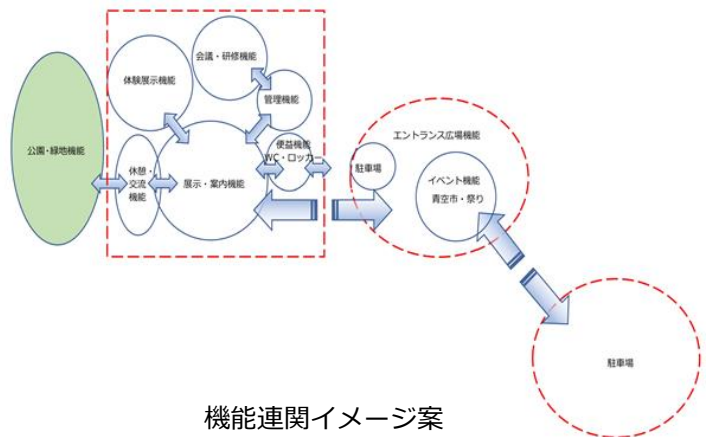
○来訪者向け機能

①展示・案内機能

- ・来訪者と城下町を結ぶ橋渡し
- ・錦帯橋・城下町の見所案内
- ・散策ツールの活用
- ・体験機能

②交通機能や便利機能

- ・トイレ、ロッカー等



機能連関イメージ案

○地域・来訪者共用機能

①休憩・交流機能

- ・地域住民の気軽な交流スペース
- ・テイクアウト専用ショップや自販機、土産

②エントランス広場機能

- ・朝市等が開けるスペース
- ・伝統文化等の発表スペース



土地利用イメージ案

○地域住民向け機能

①会議・研修機能

- ・地域住民が活用するスペース

②防災機能

2) 資料館の機能について

○来訪者向け機能

- ・城下町を回遊できる案内機能をもたせる。
- ・旬な情報を集約し提供する。
- ・ゲーム感覚でまちなかを巡るスマホアプリの開発をする。
- ・錦帯橋模型づくり体験等、体験機能を取り入れる。
- ・休憩機能としてはトイレが重要（最新のトイレで観光客をもてなす。）
- ・朝市・青空市、盆踊りや奉納相撲等ができるイベント広場機能が必要。

○地域・来訪者共用機能

- ・観光機能を優先して、地元機能を加える。
- ・飲食ができる休む場所。
- ・若い人とタイアップして何かできる場所。

○地域住民向け機能

- ・踊りなどの練習場所。
- ・地域住民が気軽に集まれる場所。
- ・買い物できる機能があればよい。

3) 回遊性について

- ・点ではなく、周辺を含めた地区全体の面的整備が必要。
- ・資料館で完結しないでまちなかの店を巡ってもらう（店同士の連携）。
- ・お寺が多いのでお寺を見て回る仕掛けも必要。

4) 動線について

- ・駐車場からのアプローチの交差点はスクランブルにしたらどうか。
- ・イベント広場と資料館は屋根で結べないか。
- ・回遊性の中でも大明小路は重要（演出が必要）。
- ・バスセンター機能の見直しを行い、資料館を動線の中心にできないか。

5) 土地利用について

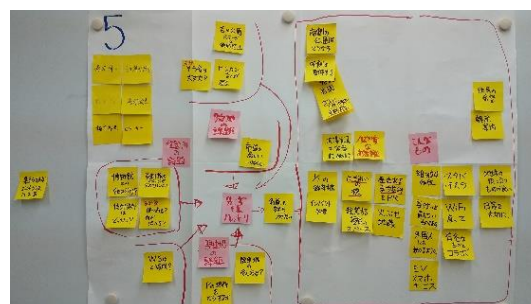
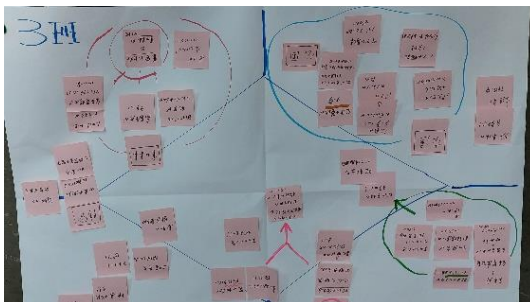
- ・土地利用は市の提案でよい。
- ・イベントの騒音等への配慮が必要。

6) 建物について

- ・できれば構造は木造にして木の感触や香りを楽しめる建物がよい。
- ・話題性のある建物
- ・可変性があり、時代のニーズに合わせて変えていける建物
- ・錦座という劇場が臥龍橋通りの象徴だった。
- ・臥龍橋通りの昭和レトロのイメージ

7) その他

- ・「資料館」の名称を変えよう。



■第3回ワークショップ

○開催日時：令和3年12月3日（金）18:30～20:30

○開催場所：中央公民館

○参加者：対象地区 横山1丁目～3丁目、岩国1丁目、2丁目、3丁目の一部、4丁目
地区住民18名、地元関係団体等12名（5つの班を構成しました。）

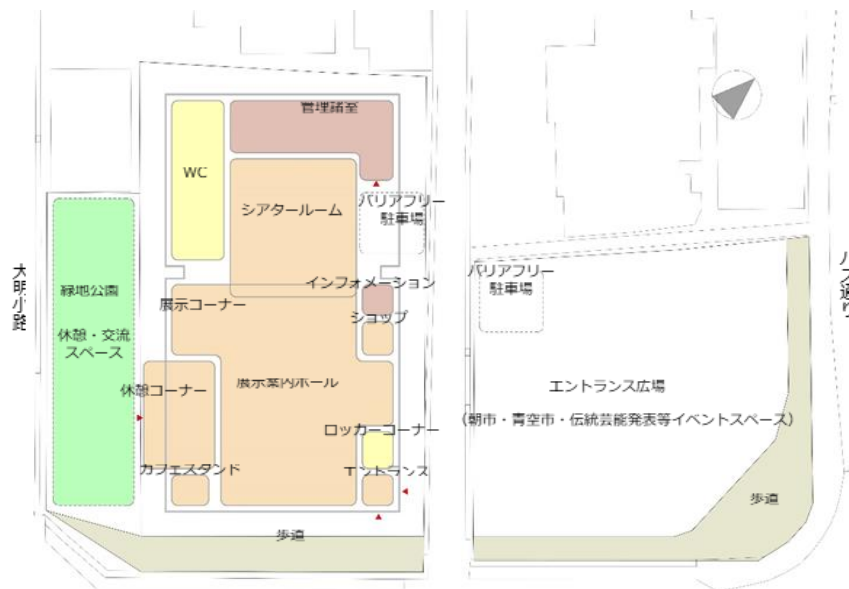
○検討テーマ：

「（仮称）錦帯橋資料館の計画案についての検討」

—これまでの検討をふまえて資料館の平面構成について検討しよう—

○資料：

1) 施設イメージ案

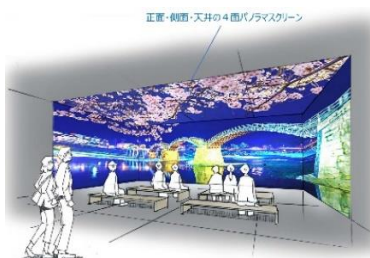


2) 展示イメージ案

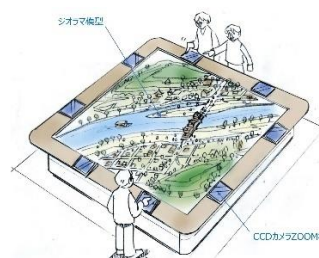
施設の考え方

岩国城下町のゲートウェイ（入口）として、城下町の魅力や見所、個々のお店の紹介、錦帯橋の歴史や技術の見所をわかりやすく紹介し、城下町回遊の拠点施設として位置づけます。

広場では、朝市や移動販売を行って、地域住民や観光客が利用できる施設とする提案です。



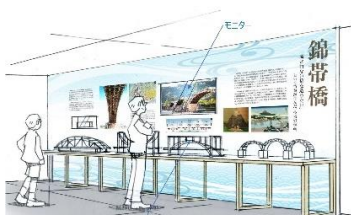
大画面映像で現地にいたくなる
錦帯橋の魅力や城下町の魅力を紹介



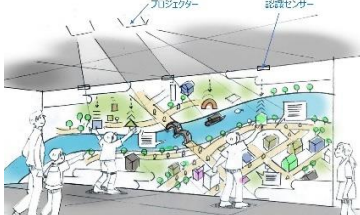
城下町昔の姿をジオラマで体感



城下町のまちな見所やお店の紹介



錦帯橋をゲーム感覚で体験



錦帯橋模型の製作や錦帯橋の秘密体験

＜ワークショップでの主な意見＞

1) 資料館の位置づけ

- ・ 錦帯橋世界遺産登録を後押しし、まちの入り口となる施設にしたい。
- ・ 施設を建てるのは時期尚早。建てなくてもよい。
- ・ この施設は観光客向けの集客施設と考える。
- ・ 既存施設等他施設との使い分けがまだよくわからない（松がね、博物館）
- ・ 松がねと機能がダブっていないか。
- ・ このような機能は博物館横でよいのではないか。

2) 機能や空間イメージ

- ・ エントランス広場では、朝市・青空市等地元全体の農産物を集める仕組みや、神楽等伝統的踊りができるようにしたい。
- ・ 地域住民の活動スペースは中央公民館とし、工作体験など来訪者が使えるスペースを増やす。（できれば3階建てとして面積を増やしたい）。
- ・ シアタールームは映画も見られるのはよいが、シアタールーム+広いスペースでよい（たくさん人が入れる）。
- ・ 夜間も使えるトイレが必要（使いやすい位置に配置+防犯に注意）。
- ・ 都市計画公園としての緑地の位置は変えられないのか。
- ・ 物販はほしい。
- ・ 災害時に人が溜まる場所が少ない（展示がこれほど必要か？吹抜も多い）。
- ・ 外からのトイレへのアプローチをよくするべき。
- ・ 飲食機能をもっと充実させるべき。
- ・ 修学旅行生が錦帯橋模型組立体験をできるような広さの専用室がほしい。（体験コーナーをもっと広くする）
- ・ エントランス広場は雨天対応型にして、朝市や飲食、お土産があるべき。
- ・ 緑地にも屋根とか雨天対応考えるべき。
- ・ 道の駅機能がない（地元の要望は物産、朝市等年中買い物や飲食ができるところ）。
- ・ 地元が使う施設になっていない。
- ・ 広場に建物（簡易なもの）は建てられないか、また屋根が必要ではないか。
- ・ 座れる場所（ソファ）は多くあるとよい。
- ・ 事務所は入り口近くの方がオペレーションしやすい。
- ・ エントランス広場は全天候型の屋根付きがよい。
- ・ 観光バスの降車場機能や休憩場所として利用できるようにする（バス運転手やガイドの休憩場所も必要）。
- ・ 団体客相手の施設としては狭くないか。

3) 景観・建物イメージ

- ・ 文化的景観の手本となる建物にしたい（大明小路側緑地景観は武家屋敷の塀、臥龍橋通り側は昭和レトロ）。
- ・ 木造を取り入れたい。
- ・ 木材を使った建物にする。

4) 回遊について

- ・ 城下町を回遊してもらうために地元のお店を圧迫する機能は簡易なものにする（カフェスタンド）。
- ・ 大明小路に観光客向けの特徴ある施設を考えないと、錦帯橋まで遠い。
- ・ 地元への回遊を生み出す仕掛けが入っていない。
- ・ 回遊させるなら街なかに展示を分散させる必要がある。

5) 案内について

- ・ スマホアプリに加え、コンシェルジュを配置して人による案内も必要。
- ・ 施設での案内より地元の人に聞いて店を探したい。
- ・ 館内を案内する人を配置すべき（無料施設は厳しい？）。

6) 展示について

- ・ 岩国市全体の案内や、石や鉄など異なる橋の比較などの展示もしたい。
- ・ 地域の祭りで使う獅子等を見せながら保管できるようにしたい。
- ・ 岩国出身の作家の作品を展示するコーナーを設けてほしい。
- ・ ジオラマは住民や子どもたちで 10 年かけて作る。
- ・ メンテナンスがかからず、可変性ある展示にしてほしい。
- ・ 錦帯橋、岩国、横山、お城も含めて歴史展示を充実してほしい。
- ・ 世界遺産を目指すのであれば展示はきちんとする。
- ・ 展示のメンテナンスができるのか。
- ・ 岩国の偉人についての紹介もよい。

7) トイレ・駐車場

- ・ トイレが大きいように思える（想定人数はバス 1 台か）。
- ・ トイレとバリアフリー駐車場は近づけた方がよい。
- ・ 地元の人利用やレンタサイクルには駐輪場が必要。
- ・ 夜間用に椎尾神社緑地にトイレを整備してはどうか。
- ・ 駐車場整備に併せ一丁目を車両進入禁止してはどうか。

8) 交通・アクセス

- ・車両交通の整理が必要（歩行者の安全）。
- ・臥龍橋通りの道路線形の改善が先。
- ・議論をするベースができていない（道路・下水・駐車場）。

9) 取り組み体制・費用・運営について

- ・最初から市で案ができていて、体裁でヒアリングやワークショップをやっているのであろう。
- ・市役所内部で横の連携をとって横断的に取り組んでほしい。
- ・計画案の内容はわかった。
- ・建てるのが目的になっているように思う。
- ・通りに賑わいができてから建設してもよいのではないか。
- ・無料施設と聞くと、収入無しで維持管理費をどう賄うのか（市民の税金で賄うのは問題ではないか）。
- ・導入コストと利用者数で費用対効果が得られるのか。
- ・地元にお金が落ちるよう効果を考えること。
- ・税金の無駄使いにならないように、かつ中途半端にならないように。
- ・4 班の意見がまったく反映されていない。
- ・WS の意見で何が採用され、何が採用されなかったのか、採用されない理由は何を示してほしい。
- ・何のために忙しいのに 3 回も集まっているのか、採用されないなら意見は言いたくない。
- ・物販ができない理由は何か、何故事前に説明がなかったのか。
- ・夜の観光への対応が弱いので夜までオープンする。
- ・予算を理由に施設規模などが小さくならないように。
- ・今回のグループ討議でもこれだけの意見が出るということは、まだ議論が足りないのではないか。

■第4回ワークショップ

○テーマ

歴史的町並みを活用したまちづくり講演会 「自分たちの町を未来へつなぐまちづくり」

○目的：岩国城下町地区と成り立ちや環境が類似する他地区のまちづくりの先進事例を学び、今後のまちづくりや錦帯橋資料館コンセプトに繋げるために、兵庫県たつの市でさまざまなまちづくり活動を展開する畑本康介氏を招き、講演会形式で実施しました。

ワークショップをまちづくり講演会とし、広報にて広く市民に参加を募りました。

○開催日時：令和3年12月20日（月）18：30～20：00

○開催場所：岩国市中央公民館

○講師：畑本 康介 氏

NPO 法人 ひとまちあーと 代表理事

株式会社緑葉社 代表取締役

株式会社 MMD 代表取締役

一般社団法人はりまのこ 代表理事

一般社団法人リバーサイドラボラトリー代表理事

ほか

○参加者：41名



<講演要約>

1) はじめに

私は龍野という町で気がついたら色々なことをしている39歳の一介のプレイヤーです。今日は31歳まで普通のサラリーマンだった私が、なぜまちづくりに関わり、今に至るのかをお話します。

龍野は40年ほど前に重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）選定の動きがあったものの、一部反対があったため選定されませんでした。その後、2019年に重伝建地区に改めて選定されました。

今の町の様子を見ると、様々な年代が混じったバラバラな建物が並んでいるのですが、何となく雰囲気揃っています。これは龍野を象徴する経緯で、この町には一定の暗黙のルールがあり、出過ぎたことが起きないということを表しています。



龍野での取り組みを紹介

2) 和太鼓奏者の龍野との出会い

私は中学1年生から和太鼓を始め、10代のころはアマチュアの和太鼓チームで若手のリーダーとして40名程度の団体を束ねていました。各地のイベントにも呼んでいただき、演目の打合せをしていると、よく「若いのに偉いなあ」「どうしたら若者がうちの町でも活動してくれるのか」と言われます。私は遠慮なく「こんなイベントでは、若者は来ませんよ。面白くないですもん」と答えると、町の人々は少し怒って「では、どうやったら面白くなるんだ」と言います。私は「本当に若者に来てほしいと思うのなら、若者も楽しめるのは何か、考え

たことはありますか？」「昔からこうだ、という話だけになっていませんか？」「若者も面白いと思うことを仕掛けたらどうですか？」と言うと、翌年のイベントで2時間のステージを任せていただくことになりました。これがイベント企画やまちづくりに関わるようになった最初のきっかけです。

初めは2時間の枠で高校生バンドや中学生に軽音楽を演奏してもらいましたが、次は4時間、5時間と任せていただくようになり、音だけでなく空間演出や芸術作家との繋がりを意識するようになりました。そのような時に出会ったのが龍野で芸術家村をしていたお兄さんです。

それから2002年、その芸術家村に仲間が集い始め、イベント企画が本格化してNPO法人となり、数年後に私がサラリーマンを辞めて代表を交代することになりました。

3) 龍野の立地、資源

龍野城下町には山があり、一級河川が流れ、川の内側に古い町並みがあり、岩国ととてもよく似ています。違うのは、龍野には錦帯橋のような大きな観光資源がなく、全く観光には意識がありません。その背景は、立地と産業に由来します。

立地としては、お隣の姫路城まで車で30分、電車で18分、空港にも小一時間で着くという、大変立地が恵まれたエリアにあります。

そしてこの立地の良さから、龍野は出荷産業で発達しました。まず、ヒガシマルの本社があり、うすくち醤油発祥の地として日本一の出荷量を誇ります。また、手延べそうめん揖保乃糸を代表するそうめん組合の本部もあります。さらに龍野のレザーは出荷量日本一で、ランドセルのセイバン（西播）もあります。このように龍野には日本一の産業が3つあることから、龍野の町は観光地化せず、天然のままで残りました。



龍野城下町の風景

4) 龍野でのまちづくりのはじまり

私たちは、「100年前の人に喜んでもらえるか、100年後の人に感謝してもらえるか」という視点を大切にしています。活動を始めてからまだ8年目ですが、会社をたくさんつくり、従業員も総勢100名以上という、奇跡的な過程をたどっています。それは、龍野が元々持っていた資源や、こうしたいという思い、そして周りにいるたくさんの協力者が実際に活動をしてきているからです。私はそのバトンを受け取り、まとめ役をしているにすぎません。



Copyright © 2014 NPO HitoMachiArt. All Rights Reserved.

生きた城下町博物館都市龍野（龍野市教育委員会）

平成元年発行の「生きた城下町博物館都市龍野」という 30 頁ほどの薄い冊子には、龍野にまつわる様々なお話が図録的にまとめられています。これは総務省が町並みやランドスケープを考え始めた頃のもので、当時、神奈川県真鶴町では「美の条例」という条例を定め、真鶴の原始的な暮らしや建物を継承しました。一方で、龍野の場合は重伝建の反対運動もあり、冊子を発行するに留まりました。しかし、40 年前の当時の尾西市長は、冒頭の挨拶文で「過去を否定し、破壊に繋がるようなスクラップアンドビルド型の開発、まちづくりではなく、過去を包括し尊重し、未来へ繋げ生かしていく、そんなまちづくりがこれからは必要」と言っています。平成元年にこのような事を言えるのは本当にすごいことだと思います。

この冊子は、私たちが行っているムカシミライ学校というコミュニティカレッジの勉強会で、これを作った部署の初代室長を務めていた盛田さんという方に講師を依頼した際にいただいたものです。盛田さんは、私たちの「町の歴史を尊重し、繋げていく活動をしなければいけない」という思いを受け、これを託してくださいました。そして、龍野に昔から住まわれている皆さんにも聞きやすい言葉で色々なお話をさせていただきました。

5) 転機① 龍野の先輩からの教え

昔、重伝建に反対されてからたった 10 年でも町の建物は次々解体され、歯抜けになっていきました。町並みとしての魅力も低下していきましたが、一部の熱心な方々が精力的に活動され、ついに重伝建地区になりました。

龍野には錦帯橋ほどの資源はありませんが、たった 30 分のところに世界遺産姫路があります。しかし、姫路は空襲で大焼けしたため、古い町並みはありません。また、外国人観光客は新幹線で広島や姫路、京都、大阪などに立ち寄りますが、姫路の滞在時間が極めて短いことが課題となっています。そんな中で龍野が重伝建地区になり、姫路市とたつの市で広域連携していく仕掛けができつつあります。すると観光業者の方も入ってくるのですが、どこかで見たことがあるお土産が並び、観光客がどんどん来て荒して帰るのは、龍野の町としては望ましくありません。そこで、私はこれをどうハンドリングできるのか、ワントライしたいと思うようになりました。

そんな時、町並み保存をしている方に「町並み保存の本質は何か分かるか」と問いかけられました。私は分からないなりに「建物や外観だけ残したら良いのではないですよ」と答えると、「そうやええ線いっとる、町並み保存というのは建物 1 戸 1 戸の連続性なんだ。本当に生きた町並みを残していくためには、その 1 戸 1 戸の建物が生きた形で引き継がれることが大事なんだ」と教えていただきました。つまり、観光客目当ての浅い商売ではなく、建物だけを直して全く使われないのでもなく、その町の風土風習を捉え、それを生かした形で営業する、もしくは住まうといった、生きた建物を連続させていくことが一番大事で、これにより町並みが生きた形で将来にわたって引き継がれていくのだというお話です。そこで、建物 1 戸 1 戸を直すのではなく、複数の物件を同時進行で、仲間もたくさん募ってみんなで守っていくということを第一に、活動をスタートさせました。

6) 転機② 龍野城での結婚式企画

私たちは基本的に城下町のキーになる位置の物件はうちの直営系の物件を配置しています。また、城下町全体の中で店舗や移住者の誘致を進めています。

私が 2014 年にひとまちあーとの代表になり、2015 年に不動産会社を継承して以降では、管理物件は 70 軒を超えています。また、転貸契約という、うちから店舗や借家として貸している契約の数は 30 軒を超えています。その他にもうちが絡まない新規出店も一部あり、これらを合わせるとこの 6 年で 30 店舗ほどです。このペースは加速的に増

えており、大体年間 5~10 店舗ずつになっています。これはなかなか田舎の地方都市では考えにくいペースです。

このように活動を展開するようになった転機は 2012 年。当時はイベントの企画をする流れがあり、ひとまちあーとの初代代表が結婚式を龍野城で挙げることになりました。たつの市に使用許可申請を出し、機材を全て自分たちで持ち込

み、他のイベントと合わせて結婚式的なことをしたところ、新聞やテレビで取り上げられ、「私もお城で結婚式を挙げたい」と市役所に問合せが殺到する事態になりました。あまりに問合せが続くため、NPO 法人という立場で何組か受入れ枠を作り、地元の方々にも参画していただく形で結婚式をするプロジェクトを立ちあげました。結果、2 組の希望者を受け入れ、当時の年間予算決算額が 200 万円程度だったところ、1 組で 200 何十万円を売り上げました。収支を合わせると赤字ではありましたが、地域のまちづくりの活動で売り上げを作ることができるという成功体験でした。

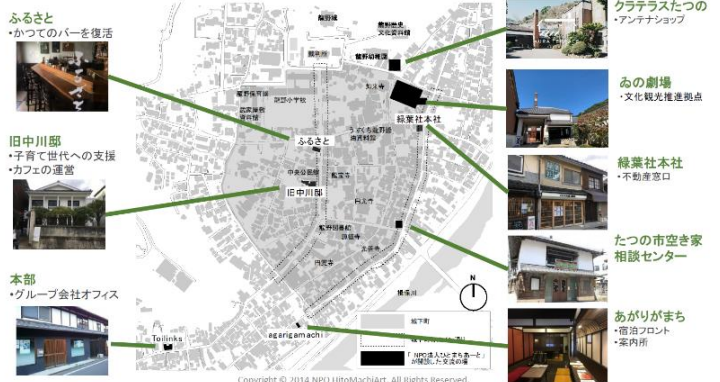
また、それまでも私は龍野に出入りしていましたが、龍野は難しい町というイメージもあり、町の方々と深く関わる機会はありませんでした。しかし、この企画で町の方々とコミュニケーションを取らせていただいた際には皆さん大変協力的で、私は疑心暗鬼になりすぎていたことに気が付き、町に対する誤解が少し溶けていきました。

7) 龍野の町再生 —みんなが出資の不動産会社の継承—

2012 年を機に、町の方と深く関わりながら町の物件を再生する動きに入ります。最初に整備したのが芸術村のアトリエで、様々な方の協力を得ながら再生しました。

すると、様々な声が聴こえてきました。「こんなに綺麗になるのなら、私もお店を出したい」「町家を借りたいんだけど、借りれない」という声。一方で町からは「こんな風に若者たちがやってくれるのであれば、うちの物件貸すわ、売るわ」という声。そこには、需要と供給が一致するはずなのに、一致していない状況がありました。そこで私たちはマッチングの調整役が必要なのだと感じ、チャレンジショップやコワーキングスペースの調整役を買って出ることになりました。

活動拠点



ひとまちあーとの活動拠点

転機



転機となった龍野城での結婚式の企画

お金を貰わなくとも調整役をやるには責任が伴います。しかし、私は数日ばかりで慎重に調整を進めても、一銭も貰うことができません。また、町にとって重要な元銭湯の建物が売りに出た際には時間をかけて計画を立てていたのですが、気が付いた時には売れて、壊されてしまいました。この失敗から、本当に町の物件を守ろうとすれば、生半可な気持ちではなく不動産知識をしっかりと持ち、プロとしてやらないといけないと感じました。そこで、2015年に不動産会社をやろうと動き始めました。町のための不動産会社であれば、よそ者の私が私的に物件を整備しては反発があると思い、創業資金を町の方から集めることにしました。2015年4月から資金集めを始めましたが、お願いに上がった方から、その昔、同じようにみんなで出資して作った緑葉社という小さな不動産会社を譲ってくれることになり、2015年7月には代表になっていました。

みんなが出資の会社。私は代表取締役ですが、現在の持ち株率は3.6%です。同じ3.6%が他に5~6人います。株主は全部で40名ぐらいで、全員小口です。出資者に配当はありません。町並みが引き継がれていくことが配当という善意の会社です。これは、空き家の適正管理と活用のための、利益のための会社ではない株式会社。町を守るための会社です。

8) 空き家再生・整備の手法

なぜ私たちが多くの物件を一気に再生できたのかをお話しします。手法としては、最初の相談からお店にするまでを一気通貫でやっています。

物件は基本的に私たちが買い取り、エリアマネジメント上想定される用途に合わせた給排水の整備や基本的な修繕を先に行っています。

なぜならば、安心して入れる物件でなければ借り手が見つからないからです。そして、ある程度綺麗にした状態のものを事業家さんや善意の投資家さんに買っていただき、マスターリース契約を結びます。オーナー側には固定資産税と火災保険の加入をお願いしていますが、古民家であれば負担は少ないのでそれなりに参加していただきやすいです。これまでで30件程度、額面では3億円分くらい投資い

緑葉社が目指していること



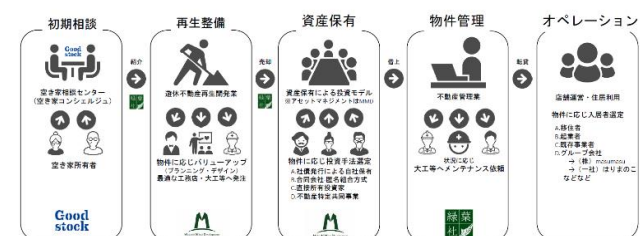
緑葉社が目指していること



“市民出資”による「まちづくり不動産会社」

整備手法の整理

資産保有・オペレーション・マネジメントの分離を基本とし、恒産リスクヘッジと物件所有の公共性を担保し、整備スピードも確保。



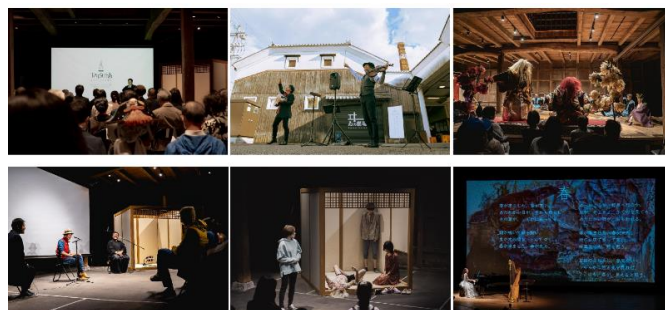
緑葉社の整備手法

ただいており、複数棟買っていただきながら、みんなで分散して投資していこうという仕組みでやっています。

こういった「不動産」「投資」「ファンド」という話は、なかなか大きな声では言いにくいのですが、これからは自分たちでやっていくしかありません。なぜなら、行政も民間の不動産もデベロッパーもみんなやらない、もしくは、やれないからです。まちづくりに関わる方やその町にずっと住んでいる方にとって、町の物件が生きた形で引き継がれていくことは将来の宝であり、自分の物件の価値を維持することでもあります。しかし、このまま放置される物件が増えれば自分の物件の価値も下がっていきます。自分が亡くなられて次の世代に任せた時に困る状況を改善していくためには、今みんなで立ち上がるしかありません。私はこのことをひしひしと感じ、不動産免許を持ち、町の方と連携しながらコツコツと町の物件に踏み込んできました。岩国の皆さんにも何かエッセンスを感じていただき、トライしていただければと思います。

9) 多岐にわたる活動展開 —空き家相談・まちホテル・地域商社・教育分野等—

その他の活動として、行政とタイアップして空き家相談センターを整備したり、宅建協会を巻き込んで NPO 法人を作ったり、町の暮らしを体感する 1 棟貸しの分散型ホテルを運営したり、観光協会に準ずる組織を作り市が整備した施設でアンテナショップを運営したり、100 年先も町を引き継ぐという意思を示すためにも教育事業として保育園経営もしたりしています。



Copyright © 2021 NPO Mito-Machi Art. All Rights Reserved.
カネヅ醤油跡の再生

また、数年前に、脇坂藩の猪倉を継承して醤油醸造を始めたカネヅ醤油という会社が当代限りで廃業するというお話がありました。これは重伝建地区の中心にあり、龍野のランドマークの煙突がある、町にとっても重要な建物でした。そこで、町として残そうという動きがあり、最終的に私たちで土地建物を取得することになりました。そして、町で長年行われてきたアートプロジェクトやオータムフェスティバル等の取り組みをひとまちあーとでほぼ全て継承させていただき、新たなプロジェクトを発足。新聞にも「継承へ」と取り上げられましたが、その後すぐにコロナが流行してしまいました。結局、2 年半延期する事態となりましたが、今年ようやく名義を変更し、プロジェクトのスタートとしてカネヅ醤油跡でアートイベントを開催しました。

10) まとめ —自分たちの町を、自分たちで守る—

私たちがどのようなことをやってきたかをまとめます。まず、移住者や出店希望者に対して、アートイベントや宿などを通じて町のイメージを発信しています。そして新しく入ってくる方が丁寧な暮らしにステップアップしていけるよう、コミュニティカレッジなどの学びの場を用意しています。他方では、建物を借りるハードルを下げて供給する仕組みを作り、これらをトータルして町の担い手に育っていただく仕掛けをしています。これらの事業では、なるべく行政からの補助金は受け取らず、自力でやることを前提としています。なぜならば、行政からお金を貰うと、町に良いことをしていこうという気持ちは同じでも、どうしても町の声が少し大きくなりすぎることがあるからです。そしてこのグループ会社は最終的に、ひ

とまちあーとと緑葉社がソフトとハードを担う中心的な組織体としてあり、その周りにホテル運営会社、地域商社、アンテナショップ運営会社、保育園の会社、空き家相談センターのNPO 法人、そしてもう少し大きな資金調達ができるようにするための緑葉社の子会社で構成されています。規模が大きくなり、これでも資金が足りないことがあるので、今も一生懸命勉強しつつ、色々な方とコミュニケーションを取りながらもう一段階大きなスケールにステップアップしていけるよう考えています。

ここまで、私たちが目指す 100 年先に町を継承していくための取り組みを、大真面目に、自分たちもリスクを取ってやっているプレイヤーとしてお話をさせていただきました。これまでは行政が町を守ってきた時代が長く続いていたと思いますが、そもそも以前はお武家さん、町民地であれば町人、自分の前の道なら自分たちで作っていたのではないかと思います。世の中がどんどん規模感も人口も減少し、行政予算も限られている中、これからは自分たちで町を作っていく時代に入っているのだと思います。そこで 100 年先にどう良い形でバトンを残していけるかを意識すると、おのずから今この瞬間の判断も変わってくるかと思います。皆さんもその担い手として、自分たちの町を自分たちで守っていただけたらと思います。ありがとうございました。

<質疑>

Q1：岩国は高齢化が進んで若い方が流出していますが、たつの市には元々若い方がいたのですか。それとも、若い方を集めたのですか。

A1：.若者はまちづくりに深く関わっていないだけで、少しは近所に住んでいると思います。それは岩国も龍野も同じだと思います。龍野にもともと住んでいた息子さんや娘さんは、ことごとく龍野を出ています。しかし、この町を面白いという人はちょこちょこいて、その方たちの背中を押すきっかけを作れば、意外とはまるものではないかと思います。

Q2：先日龍野に立ち寄らせていただきました。とてもスタイリッシュで粒ぞろいの飲食店がたくさんあり、11 時頃には何軒か列ができていました。この方たちは龍野でなくとも成功されたと思いますが、どのように集められたのでしょうか。

A2：まずは自分たちでやろうということで、最初に 2、3 店舗飲食店経営をしました。設えをおしゃれにしたり、飲食店をしている人に相談しつつ、その方たちを積極勧誘したりしました。

龍野の飲食店さんはどこもセンスが良く、龍野以外でも成功されたと思います。しかし、彼らは龍野が好きで、是非龍野でお店をしたいという方が集まっています。それは、皆さん背景は様々ですが、良い流れがあると、みんなすり寄って集まってくるのです。でするので、是非他の飲食店さんにも空気変えていこうとお声掛けしていただければ、変わっていくのではないかと思います。

Q3：もし畑本さんが龍野に来られなかったらどうなっていたと思われますか。

A3：わからないです。化石になり続けたのかもしれません。しかし、私が活動を始めた時は方創生や古民家再生のブームがあり、立地もよく、関西では様々なイベントが予定されているなど、かなり追い風のタイミングだったので、もしかしたら他の誰かが現れていたのかもしれません。

Q4：畑本さんの組織をまとめる力にはカリスマ性のようなものを感じます。新しく起業される方は地元の方なのか、よそから入ってこられる方なのか、またその割合を教えてください。

さい。また、今後どのような地域ビジョンを考えていらっしゃるのか、目標をお聞かせください。

A4：私は基本的に他力本願で、未っ子気質です。カリスマ性はないと思いますが、自分ではできないので一緒にやってもらえませんか、とことん飛び込んで甘える天性の素地はあるかと思っています。しかし、これはこれからの時代のリーダー像で、誰か一強を作るのではなく、皆で皆が儲かる仕組みを持続的に回していく時代に突入しているのだと思います。ただ、私がリーダーとして目立ちすぎると面白く思わない方もいるので、スターにならないように多少意識はしています。

城下町の中から出店されるかたはほぼおらず、起業される方の8割は外の方です。たつの市内からの出店はそれなりにあります。初期の頃は姫路など、周辺から集まってくるという流れはありましたが、最近では神戸、大阪、京都、東京などからの移住出店もあり、成果が出ていると感じています。

今後のビジョンについては、まずは龍野と言う町にしっかりと足をつけて、粛々とこの仕組みを回していくことが大事だと思っています。中長期的には、私たちのノウハウを広めて、近隣や他の地域でも自分たちで町を守るという動きを作っていけたらと思います。あくまでも地元とお付き合いをするのは現地に住んでいる人です。なので、ノウハウをシェアするという形で各地とコミュニケーションや連携を取り、どこかで最初の一歩をお手伝いさせていただくようなことは考えても良いのではないかと思います。

Q5：畑本さんはよそ者という形で龍野に関わっていると思いますが、その際の注意点はありますか。

A5：基本的に先輩方をリスペクトし、先輩方のお話をしっかり聞くことを大切にしています。他方で、古い町では間違った情報をもとに様々な噂をされることもあるので、聞き流したり、気にしないことも大切にしています。

Q6：ムカシミライ学校で龍野に入る方を選定されるのは、外部から不審な方が来ないようにするためですか。

A6：はい。田舎と言っても、地区ごとに風土風習が違ってきます。例えば龍野では洗濯物を通り場に干さない、家の前のゴミや草はきれいにするという暗黙のルールがあります。これを知らずにいると、地元の方には陰でひそひそ言われ、新しく入った方も良い気持ちがしません。ムカシミライ学校では、その町の常識を事前に知っていただき、面倒くさがらずに受け入れられる方を選定しています。

Q7：畑本さんは岩国城下町にどのような印象を持たれましたか。また、可能性についても教えてください。

A7：可能性しかないと思いました。町が動き出す準備はできていて、あとは誰かが背中を押すだけだと思います。岩国は立地条件も良く、広島市内からの距離感、地形、地価、どれも絶妙です。恐らくレトロな本通りや北側の一角の所にお店ができれば、2、3時間楽しめるエリアになると思います。また、博物館の近くの市所有のお屋敷に泊まることができれば、更に楽しくなると思います。あとは誰がやるかですが、誰かがやったらいいのではなく、自分にはこれしかできないからせめてこれはやるなど踏み込んだ発言をして流れを作っていければ、それを見てトライしようとする方が登場するのではないかと思います。今日歩いて空き家探しもしましたが、もし龍野であれば購入交渉している物件ばかりです。もったいないですし、本当に良い町だと思いましたので、ぜひ頑張ってください。

■第5回ワークショップ

○開催日時：令和4年3月28日（金）18:30～20:00

○開催場所：中央公民館

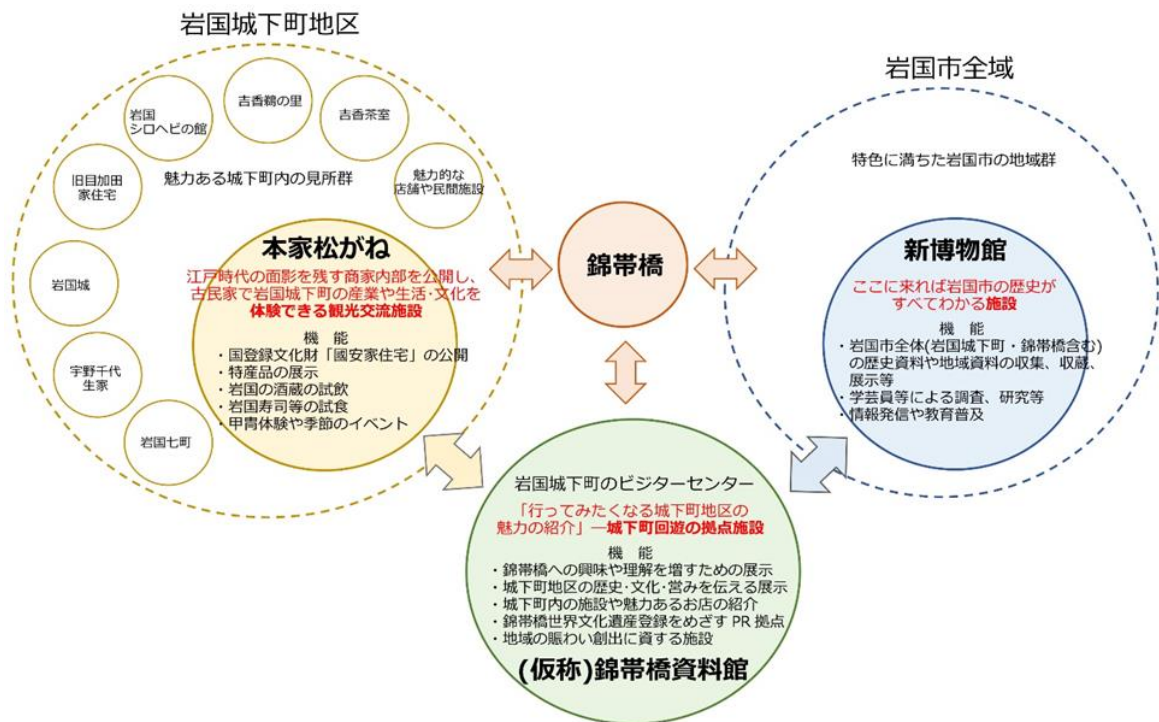
○参加者：対象地区 横山1丁目～3丁目、岩国1丁目、2丁目、3丁目の一部、4丁目
出席者 地区住民12名、地元関係団体等4名

○検討テーマ：

第3回WSにおける参加者からのご意見や質問に対する市の考え方の説明、意見交換

○資料：

- 1) 第3回住民WSでのご意見に対する市の考え方
- 2) 施設配置概念図
- 3) (仮称) 錦帯橋資料館・新博物館・松がね機能分担の考え方



＜第5回住民WSにおける参加者からのご意見に対する市の考え方の説明＞

1) (仮称) 錦帯橋資料館の基本的考え方について

- ・(仮称) 錦帯橋資料館は、錦帯橋についての紹介と城下町の魅力の発信、地域の賑わいを創出する場を目指すという基本的考え方は最初から一貫して変わっていません。
- ・(仮称) 錦帯橋資料館・本家松がね・新博物館の機能分担については以下のとおりです。

新博物館：

「ここに来れば岩国市全体の歴史がすべてわかる施設」で、歴史資料や地域資料の収集、収蔵、展示のほか学芸員や地域のボランティアなどによる調査、研究を行い情報発信や教育普及を担う施設

本家松がね：

江戸時代の面影を残す商家内部を公開し、古民家で岩国城下町の産業や生活・文化を体験できる観光交流施設

(仮称) 錦帯橋資料館：

隣接地に下河原の駐車場を一部移設することで、城下町への来訪者のためのビジターセンターとして、城下町の魅力を紹介し、回遊の拠点となる施設

＜WS ご意見に対する市の考え方（順不同）＞

1) 外観について

- ・文化的景観の価値を踏まえ、景観に配慮した外観とします。

2) (仮称) 錦帯橋資料館内の店舗について

- ・商業行為は民間事業者により行うことで地域の活性化に繋がることから、資料館では必要最低限の範囲で検討します。

3) 展示内容や体験について

- ・錦帯橋や城下町の歴史や魅力、観光スポット等を展示・発信する予定であり、内容等の詳細は、引き続き検討します。
- ・錦帯橋に関する歴史や特徴等は展示の主要部分と考えており、新博物館との役割分担を明確にしながら検討します。

4) エントランス広場について

- ・エントランス広場には多目的な利活用が求められていることから、可変的な活用を念頭に広場内の付帯施設等の詳細を検討します。
- ・キッチンカー等移動販売は選択肢の一つと考えます。

5) 臥龍橋通りの線形について

- ・資料館整備に合わせて臥龍橋通りの直線化を行う予定です。

6) (仮称) 錦帯橋資料館建設について

- ・地元からの活性化への要望を受け土地の取得を進めた経緯も踏まえ、地域の賑わいの創出につながるよう、観光駐車場と連動し地区の回遊性向上や滞在時間の延長を狙いとした観光案内所（ビジターセンター）として、早期の完成を目指し事業を進めています。

7) 道の駅について

- ・立地等の状況から国土交通省の「道の駅」としての登録要件には合致し難いと考えていますが、エントランス広場には多目的な利活用が求められていることから、可変的な活用を念頭に広場内の付帯施設等の詳細を検討します。

8) 施設規模について

- ・限られた規模を有効に活用し、団体客も含め多くの方が利用できる施設となるよう機能やレイアウトを検討します。

9) トイレについて（位置・夜間使用等）

- ・施設に整備するトイレは施設内からの利用を想定しており、夜間使用は防犯上の観点も踏まえ検討します。
- ・隣接の観光駐車場にもトイレを設置する予定です。（利用時間は今後検討します。）

10) 駐輪場やレンタサイクル

- ・隣接する観光駐車場内に利用者の利便性に配慮し駐輪場を整備する予定です。

<意見交換> 凡例 ○：参加者 →：市

- 基本計画・基本設計・実施設計の変化点で地元説明を行う予定は？
→広く意見を聞く場を設けたい。
- 宇野千代コーナーはなくなったのか？
→博物館・資料館での展示について今後検討する。
- 計画、設計にどのくらい時間がかかるか？
→計画でしっかり議論したいので R4 年度も引続き計画を継続するため、もうしばらくかかる。
→博物館は R4 年度中に基本設計を予定している。
→ランドデザインでは R7 年度開館を目指している。
- 基本計画は 1 年かけて作り直すのか？ WS をやるのか？
→進捗により意見交換し、それを踏まえてパブコメ・計画策定の予定
- 博物館が先行すると資料館との調整が難しい。また世界遺産にも関わるので考慮してほしい。
→博物館との協議を行い、展示内容も考えていく。

- 駐車場の問題を早く解決できないか？
 - R4 年度法面工事、R5 年度舗装等整備、R6 年度くらいに供用開始を目指している。トイレは R6～7 年度くらいの公共下水道整備に合わせて整備する。
- 駐車場には大型バスも入れるか？
 - 大型バス 10 台+障がい者駐車場+駐輪場の予定
- 普通乗用車は何台くらい？
 - 乗用車対応分は引続き検討したい。
- 駐車場は有料、無料？
 - バスは有料、乗用車は観光協会とも協議したい。
- 駐車場敷地の広さは？
 - 約 3,000 m²程度。左折 IN、左折 OUT で計画している。
- 錦川右岸の竹やぶを駐車場に使うことはどうか？
 - 横山側は限界に近く駐車台数増は考えにくい。
- 大明小路側は何もしないのか？
 - 車両通行禁止までは考えていない。
 - 臥龍橋通りに大型バス右折レーン拡張は難しい。
- 公園をバスセンターにという意見が出たが検討は？
 - 臥龍橋通りの椎尾神社近くには難しいと考えている
- 資料館の設計者は決まっているのか？選定方式は？
 - 計画段階で設計者は決まっていない。発注方式も未定。
- エントランス広場には屋根があった方がいいのでは？
 - 多目的広場として使い勝手も考えて検討したい。
- 運転手、ガイドがゆっくり休める場所にバスは長く停まるので、休憩場所として居心地よい場所にする。
 - 観光協会の統計でも大型バスが常時 15 台停まればよい（30 台はピーク時）。
- 意見交換会の資料はできるだけ早くほしい。1 週間前の案内では意見も出しにくい。
- 市の案を示すべき。建物に付き合うのは地元だから
 - 市も地域に愛して使ってもらいたいと思っているので今後も話し合っていきたいと思っている。

第7章 （仮称）錦帯橋資料館等のコンセプト

1. （仮称）錦帯橋資料館等のコンセプト

錦帯橋と岩国城下町回遊の拠点（ビジターセンター）

—行ってみたくなる岩国城下町の魅力の紹介—

本基本計画では、（仮称）錦帯橋資料館等のコンセプトをこのように表現します。

錦帯橋を訪れる人々の流れは、その多くが錦帯橋や岩国城周辺にとどまっており、歴史や文化のある岩国城下町全体に広がっていません。そうした中、岩国城下町地区は、岩国小学校をはじめ教育施設に恵まれ、落ち着いた居住地として認識されており、若い人が徐々に住み始めています。一方、少子高齢化と商業などの生業の衰退から、錦帯橋とともに岩国城下町の景観を構成する歴史的建造物も徐々に失われつつあります。

このような状況を踏まえ、本市では（仮称）錦帯橋資料館等整備事業が、岩国城下町の再生、活性化の契機となることをめざしています。そのためには、岩国城下町の地域住民の方々や、関連する施設を運営する方々が、めざす岩国城下町の将来像を描き、それを実現するために（仮称）錦帯橋資料館等が果たすべき役割を明確にすることが必要です。本基本計画では、これまでの岩国城下町のまちづくりの経緯を再度確認し、アンケートや関係団体へのヒアリングにより、地域の方々や関係団体の意向を調査し、計5回にわたる地域の方々によるワークショップを経て、施設の基本的なあり方を整理しました。

日本のエジソンといわれた岩国出身の藤岡市助氏は、岩国電気鉄道を錦見（現岩国二丁目付近）で止めて錦帯橋まで延伸しませんでした。それは、訪れた人々が錦見から錦帯橋までのかつての「岩国七町」を歩いてほしい、そうすることで、岩国七町が賑わうと考えたからだといわれています。こうした先人の考えを活かし、錦帯橋を訪れる年間60万人近くの人々の多くが（仮称）錦帯橋資料館等を出発点として、岩国城下町を回遊することをコンセプトとします。

（仮称）錦帯橋資料館の施設内では、錦帯橋の魅力を訪れた人々にわかりやすく紹介します。普通では気がつきにくい錦帯橋の匠の技や、錦川をはじめとした自然や文化との関わり、岩国城下町の成り立ちなどの歴史、岩国城下町の魅力や見どころを紹介し、訪れた人々が実物をみて体験したい、城下町を歩いてみたい、と思うような岩国城下町回遊の拠点施設とします。隣接するエントランス広場は、岩国城下町地区の賑わいの創出につながる催しの開催や、地域の伝統芸能を発表する場として活用します。

（仮称）錦帯橋資料館等を拠点として、岩国城下町全体に、来訪者も地元の人々も利用できる施設が展開され、地区の賑わいの創出とともに、歴史的建造物の保存と利活用につながることを期待されます。

また、（仮称）錦帯橋資料館等は、錦帯橋の世界文化遺産登録活動のPR拠点として、その価値を広く発信し、後世に伝えていく機能を併せもちます。

2. 岩国市博物館との役割分担

令和6年度以降、岩国徴古館と一体となった岩国市博物館の開館をめざして、基本設計が策定されています。岩国市博物館は、岩国市全体を対象とした博物館であり、岩国城下町や錦帯橋に特化した博物館ではありませんが、一部は岩国城下町や錦帯橋に関する展示や調査研究が行われる施設となります。

岩国市博物館の使命は、学術的に岩国市の歴史や文化に関する資料を収集し、保存、修復、調査研究を行い、その一部を展示公開することにあります。併せて、学術的な教育普及や情報発信を行います。したがって、現在錦帯橋課が保有する錦帯橋の歴史的、文化的な文献資料等は博物館に移管し、今後も収集・保存・修復・調査研究を行い、その成果を展示することになります。

一方、(仮称)錦帯橋資料館は、橋の架替え等に関連する実物資料(型板、旧橋の実物部材等)を中心に保管・保存し、それらを実際に活用した体験や1/5模型の組立体験等、動的な展示を中心とし、四季折々の錦帯橋の魅力や圧倒的な実物の橋を見る際の視点等をわかりやすく解説することを目的とします。

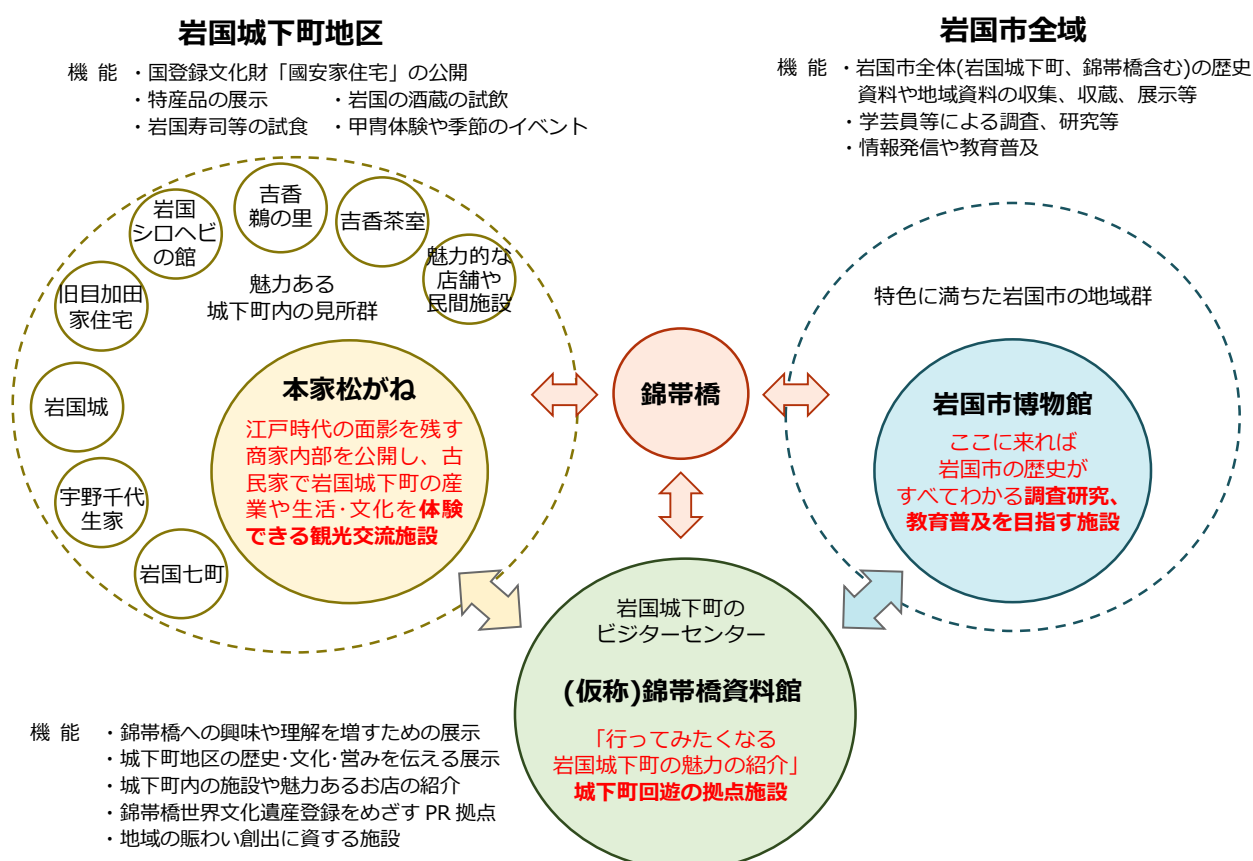
学術的というより、訪れた人々に錦帯橋の魅力や城下町との関りを実際のフィールドに出る前に、凄さや美しさ、それが何によってもたらされているか等を知ってもらうことが主な役割です。したがって、観光的な側面を強く持った機能であるといえます。

3. 周辺施設とのネットワークの形成

(仮称)錦帯橋資料館は、錦帯橋と岩国城下町回遊の拠点(ビジットセンター)であることから、岩国市博物館の他にも数多くの施設とのネットワークを形成します。

これらの諸施設を含む回遊拠点として、それぞれの魅力を紹介し、訪れた人々を現地に誘います。

【施設ネットワーク図】



1. 敷地条件の検討

敷地は、大明小路、バス通り、臥龍橋通りに囲まれた場所に位置します。バス通りと大明小路の間には市道が通り、敷地を2分割しています。

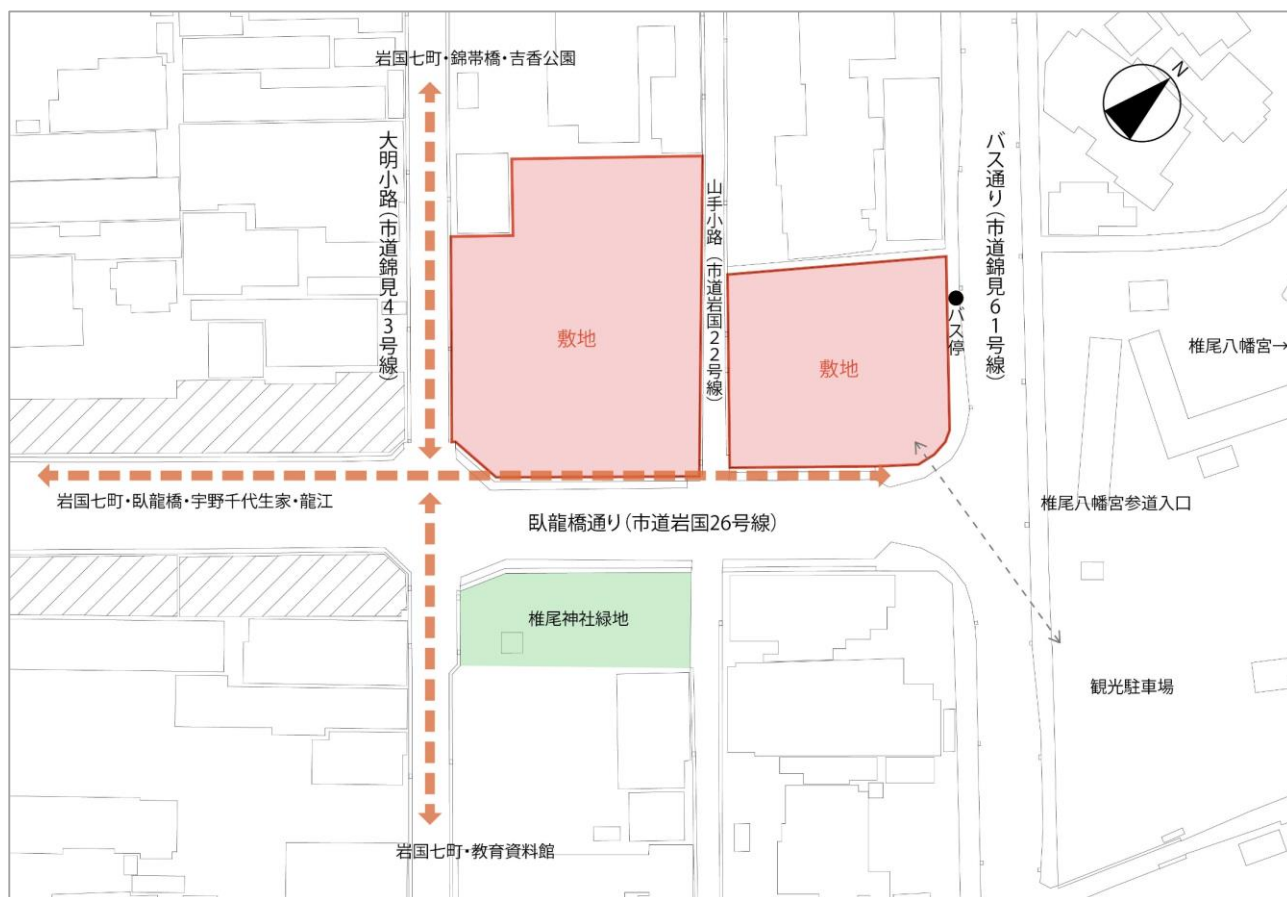
さらに、大明小路と市道に挟まれた敷地は、市道側の中央の敷地と大明小路側の敷地で構成されます。

バス通り側の敷地には、いわくにバスのバス停が隣接しています。また、敷地東側には新たな駐車場が整備されています。これらより、来訪者が最初に岩国城下町に降り立つ場所となります。

中央の敷地は、来訪者と岩国城下町を結ぶメインの敷地となります。

大明小路側の敷地は大明小路と臥龍橋通りの結節点となっており、錦帯橋をはじめとした岩国七町を巡るルートの出発点となります。

【敷地周辺図】



2. 法的条件の整理

敷地周辺に関わる法的条件を以下のように整理します。

項目	内容
都市計画区域	岩国都市計画区域
区域区分	市街化区域
用途地域	商業地域
建ぺい率	80%
容積率	400%
防火・準防火地域	防火地域（臥龍橋通り防火地域 路線式 奥行 11m） 準防火地域
岩国市景観計画 岩国重点地区 （沿道にぎわい地区・こまちなみ地区）	高さ 10～12m程度（地区の歴史的な建物と調 和した傾斜屋根の場合 15m） 屋根 周辺のまちなみと調和したもの 色彩 通りの連続性を意識し、まちなみと調和 した落ち着いたもの
文化的景観	重要文化的景観選定区域内
駐車場付置義務対象地区	指定あり
下水道	都市計画下水道排水区域

3. 機能の検討と機能連関

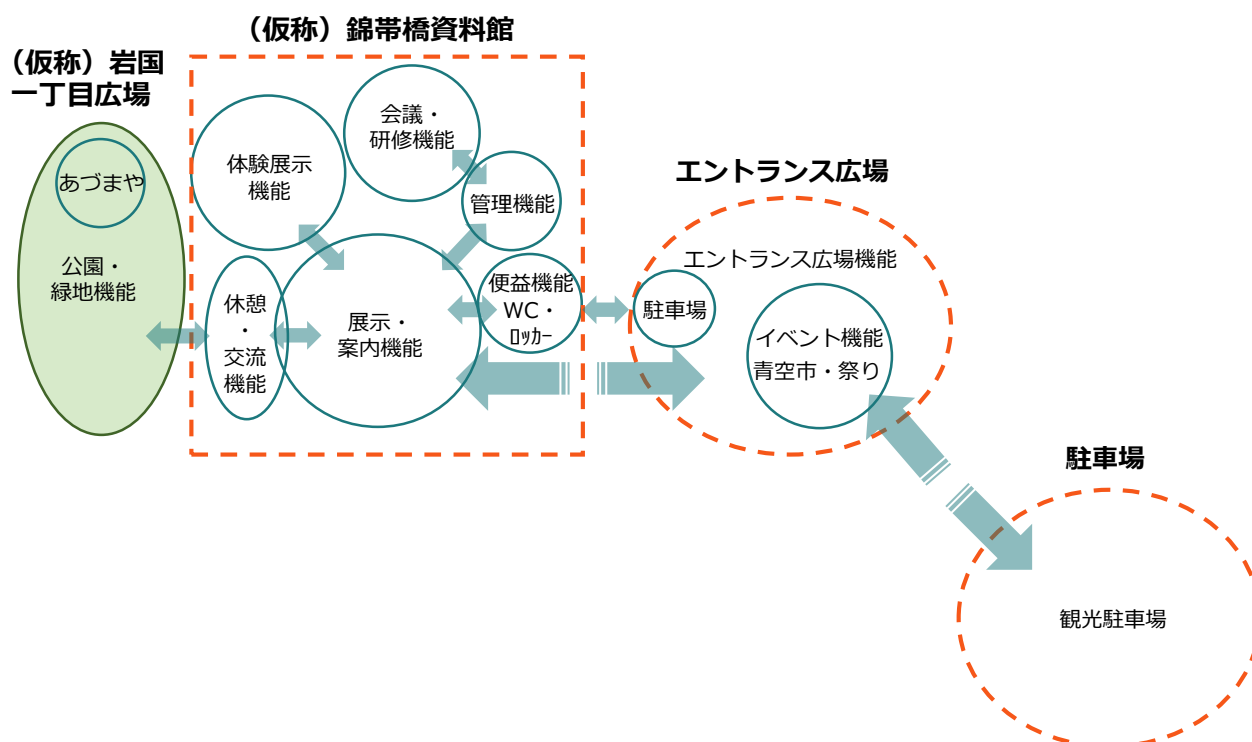
(仮称) 錦帯橋資料館等のコンセプトを実現するために必要な機能を以下のように設定します。

施設機能		役割
来訪者向け機能	展示・案内機能	・来訪者と城下町を結ぶ橋渡し ・来訪者への見どころ案内
	体験展示機能	・錦帯橋、城下町を楽しく学ぶ
	便益機能	・城下町観光のサポート ・城下町のお土産紹介
地域・来訪者 共用機能	休憩・交流機能	・地域住民の気軽な交流を生む
	エントランス広場機能	・朝市などの開催 ・伝統文化の発表
	公園・緑地機能	・緑地の確保 ・屋外での休憩
その他	管理機能	・施設の管理 ・錦帯橋の資料の収蔵・保管

岩国城下町の回遊拠点として周辺の施設との機能連関を検討すると、以下のようになります。

椎尾神社南側の駐車場に降りた来訪者は、エントランス広場と機能連関を持たせることで、来訪者を岩国城下町に迎え入れます。また、広場から(仮称) 錦帯橋資料館への流れを作ること、錦帯橋や城下町についての学びを促し、来訪者を引き込みます。さらに、資料館と(仮称) 岩国一丁目広場に機能連関を持たせることで、城下町への人の流れを作ります。

【周辺施設との機能連関】



4. 必要諸室の検討

(仮称) 錦帯橋資料館等の機能に対応する必要諸室を以下のように抽出します。

(1) 土地利用

- ・敷地は、バス通り側敷地、中央敷地、大明小路側敷地の3つの敷地で構成される。
- ・バス通り側敷地をエントランス広場として、椎尾神社南側駐車場からの入り口とする。
- ・中央敷地に(仮称) 錦帯橋資料館を配置する。
- ・大明小路側敷地を(仮称) 岩国一丁目広場として、資料館と一体的利用を行う。

(2) 各施設の概要

エントランス広場

- ・新たに整備される椎尾神社南側の駐車場と連携した岩国城下町のエントランス機能をもつ。
- ・エントランス広場では、市民の活動も想定し、青空市や伝統芸能発表等イベントスペースとして活用する。
- ・バリアフリー駐車場を整備する。

(仮称) 錦帯橋資料館

● 出入口

- ・南東角に風除室を設置し、エントランス広場からの動線を誘導すると同時に、臥龍橋通りからの動線も確保する。

● ロッカーコーナー

- ・資料館を起点に城下町を回遊するためのロッカーコーナーを設置する。

● インフォメーション

- ・対面の案内やショップのレジとしてインフォメーションカウンターを設置する。

● ショップ

- ・資料館オリジナルグッズや錦帯橋に関する資料等を販売できるショップコーナーを設置する。

● 展示ホール

- ・岩国城下町の紹介や施設や店舗の紹介、岩国ゆかりの人物の紹介を、体験なども含めて展示し、来訪者を岩国城下町回遊に誘導する。

● 休憩コーナー

- ・ 緑地公園に面して緑地公園からも利用できる休憩コーナーを設置する。
- ・ 休憩コーナーと緑地公園の間に休憩テラス（半屋外空間）を設け、緑地公園との一体化を図る。

● 展示室

- ・ 錦帯橋と錦帯橋を中心とした岩国城下町の展示を行う。
- ・ 来訪者に錦帯橋の見所を知ってもらうために、錦帯橋の構造や様々な匠、美しさやすばらしさを紹介する。
- ・ VR を活用したゲーム感覚の体験、錦帯橋関連の展示を行う。
- ・ 岩国城下町と文化的景観についての展示を行う。
- ・ 錦帯橋架け替えのための型板の現物や、架け替えによって発生した部材の保管を行う資料室を設置する。

● シアタールーム

- ・ 展示ホールに連続して錦帯劇場をイメージしたシアタールームを設置する。
- ・ 臨場感ある映像による錦帯橋の魅力や城下町の魅力を紹介する。

● 多目的室

- ・ 錦帯橋の 1/5 模型の組立体験ができる。
- ・ 伝統芸能（南条踊り、小糠踊り）等の練習ができる。
- ・ 伝統芸能の練習を観ることができる。
- ・ 錦帯橋や岩国城下町の研修やセミナー等に活用する。
- ・ 各種の講座や会議等に利用できる。

● 倉庫

- ・ 錦帯橋 1/5 模型部材を保管する。
- ・ 会議研修・練習室のための倉庫を設置する。

● 事務室等

- ・ 資料館を管理運営する事務室を設置する。

● 管理諸室等

- ・ 資料館運営の企画会議や作業室を設置する。
- ・ 職員の更衣休憩室を設置する。

● トイレ等

- ・ 館内のトイレとして男女トイレ、バリアフリートイレ（男女兼用・1 階）を設置する。
- ・ 乳児の授乳等に利用できる授乳室を設置する。

● バリアフリー駐車場

- ・ 市道に面して、バリアフリー駐車場を設置する。

（仮称）岩国一丁目広場

- ・岩国城下町の街角広場として、大明小路とつながった城下町回遊の起終点となる広場
- ・地域住民の休憩交流広場
- ・資料館と一体となって来訪者や地域住民の憩いの広場

5. 施設規模の検討

施設機能、必要諸室の抽出から施設規模を設定すると、（仮称）錦帯橋資料館の規模は約 1,200 m²と想定します。

なお、諸室面積については基本計画段階での想定値であり、今後詳細検討の中で変更が発生することを前提とします。

【規模設定】

	室名	面積（㎡）	備考
1 階	展示ホール	260	風除室・ロッカー・インフォメーション・ショップ・休憩コーナー等含む
	シアタールーム	100	40人、スクリーン部分含む
	事務室・管理諸室等	100	更衣室等含む
	トイレ（男女）	40	男小6 大3 女6 授乳室 多目的トイレ（オストメイト対応）
	1階各室計	500	
2 階	展示室	250	
	多目的室	110	
	倉庫・資料室	100	
	トイレ（男女）	20	男小3 大2 女2
	管理諸室等	20	
	2階各室計	500	
	1階～2階各室合計	1000	
	共用スペース （廊下・階段・エレベーター他）	200	エレベーター13人乗り車いす対応
	合計	1200	

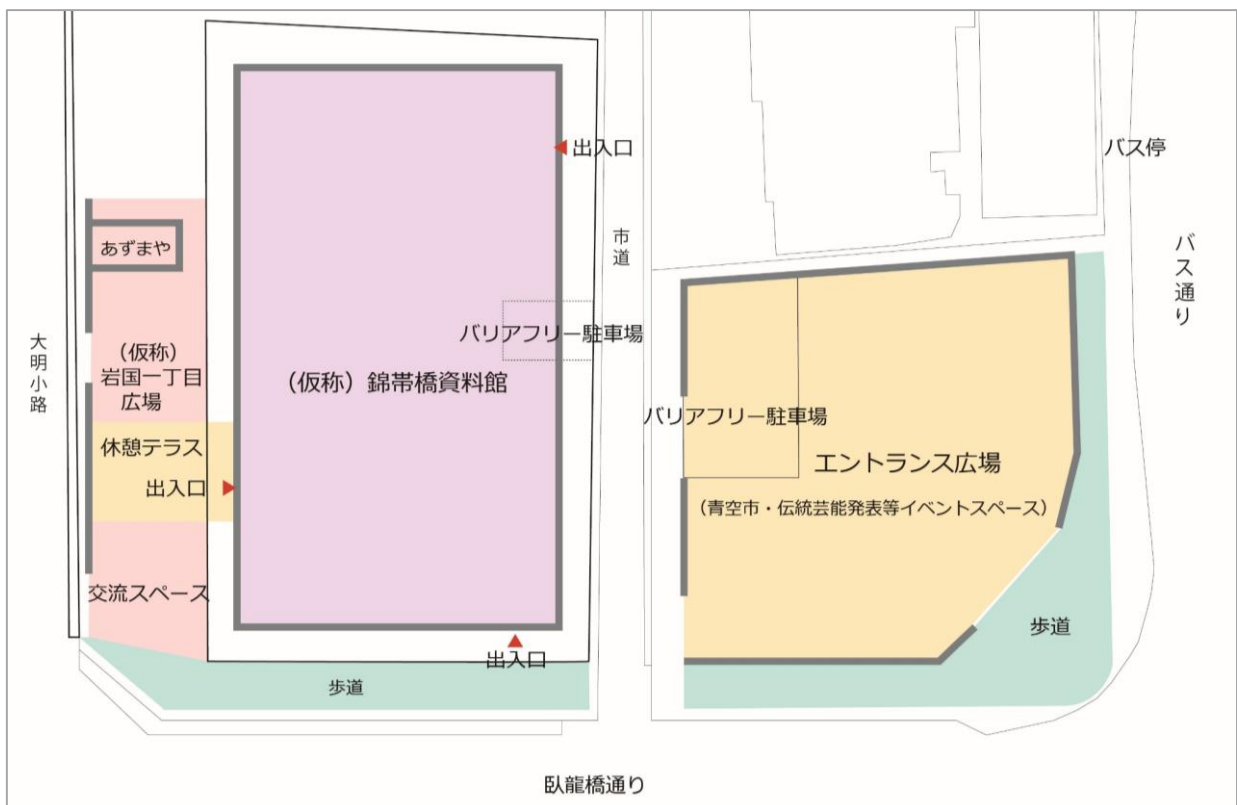
6. 施設計画

前節までの検討を踏まえ、土地利用、施設配置、平面構成は以下のように計画します。

(1) 土地利用計画



(2) 施設配置計画

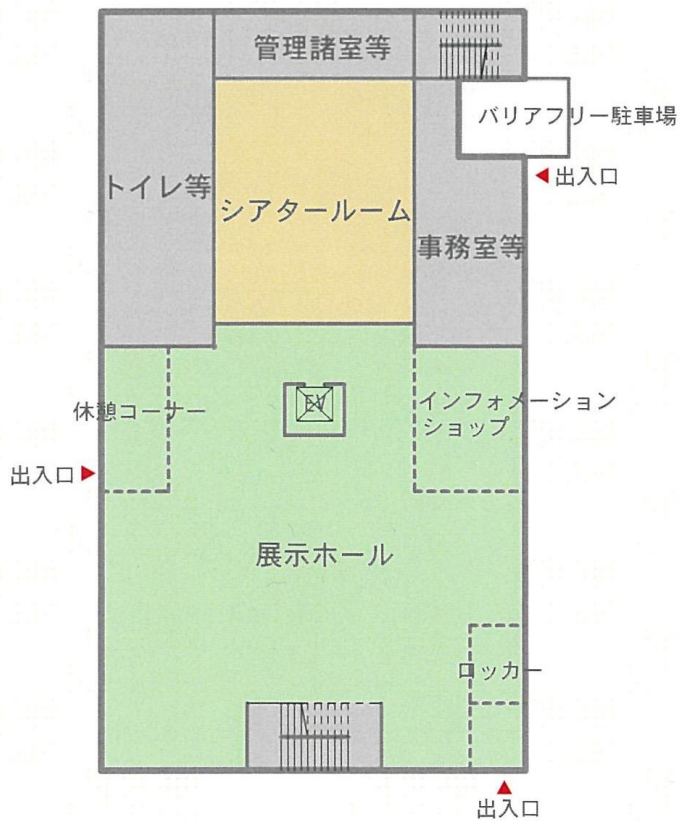


(3) 平面構成計画

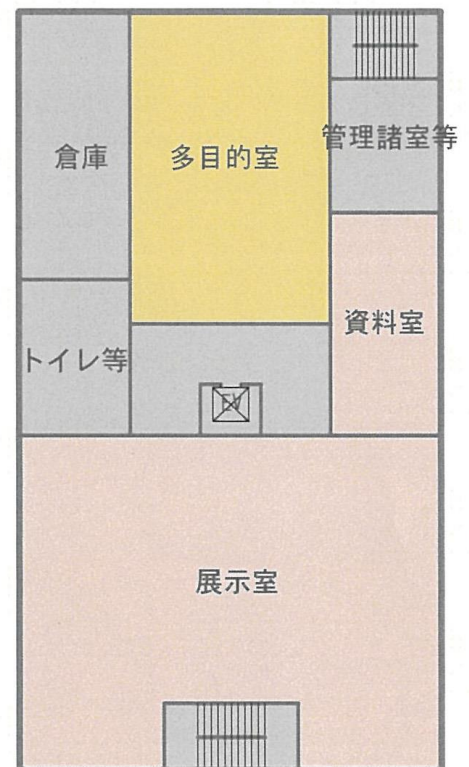
平面計画については、必要諸室の抽出に基づいた基本計画時の想定であり、設計において詳細に検討します。

【平面構成イメージ】

1 階



2 階



1. 展示の基本的考え方

岩国城下町にはさまざまな歴史・文化を紹介する施設が点在していることから、（仮称）錦帯橋資料館では、錦帯橋について詳しく知っていただくとともに、岩国城下町を中心とした観光の拠点として計画します。

入り口である1階では、今に残る歴史と文化を紹介するとともに、街歩きの際に立ち寄りたいスポットなど、楽しく岩国城下町について知っていただけるコーナーとします。

2階では、錦帯橋の美しさや価値、岩国城下町と文化的景観などについて詳しくしることができ、現地を訪れた際に、より楽しめる知識を学べるコーナーとして計画します。また、多目的室は錦帯橋1/5 模型の組み立て体験や、地域の伝統芸能の練習など、市民も利用できる空間として設けます。

2. 各階展示イメージ

○1階展示イメージ

<シアタールーム>

多面の臨場感ある映像で見せるコーナーです。イベントやセミナーなど、多目的に使用できる機能も備えます。

〈映像内容〉 錦帯橋や町の四季の美しさ / 錦帯橋のしくみについて / 城下町の成り立ち 等



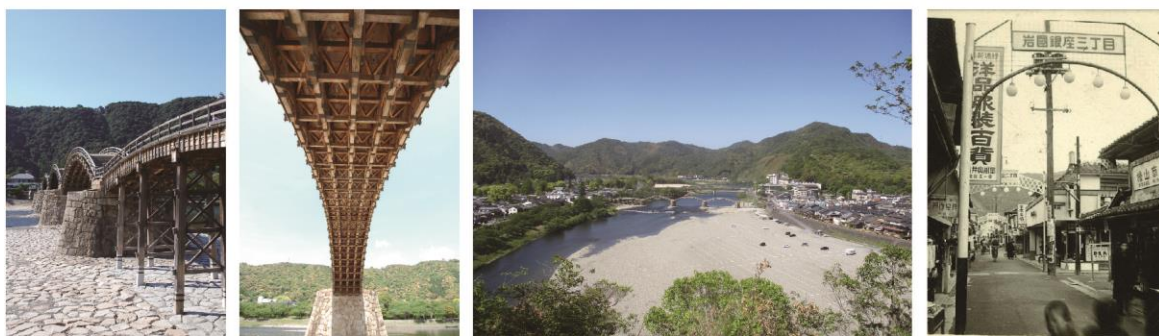
映像イメージ

＜展示ホール＞

デジタルを使用した体験展示案

VR（バーチャルリアリティ）による展示

VRにより錦帯橋の構造や岩国城下町の移り変わりの歴史を紹介します。



参考イメージ

バーチャル縁日

鉄砲体験、デジタル金魚すくい、スマートボール等で遊べるコーナーです。遊んでいただいた方に景品としてロゴとQRコードを記載した紙を発行し、ARで楽しんでいただく仕掛けにより、街の周遊に繋がられる仕組みを組み込みます。



参考イメージ

岩国クイズであそぶ

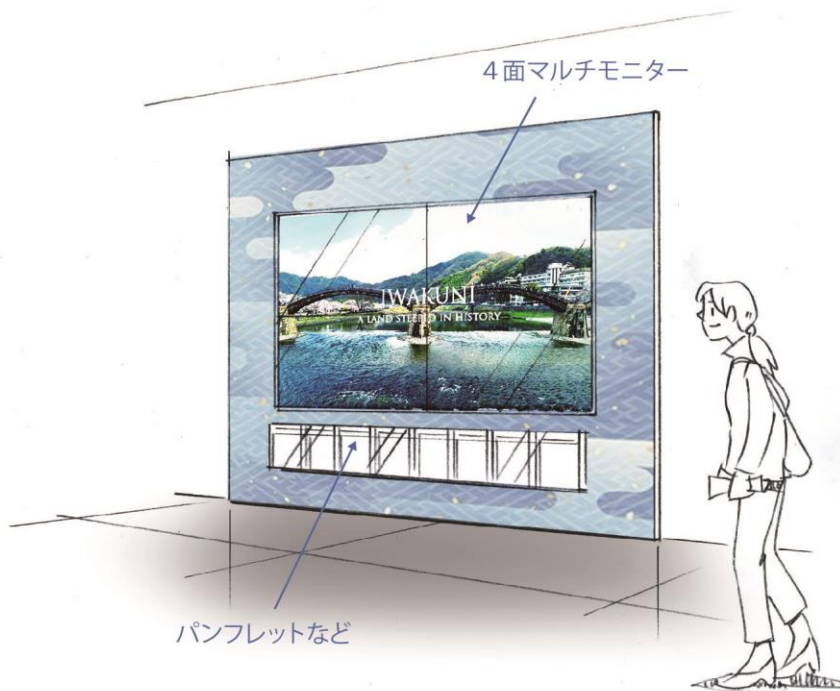


デジタルの手法で、岩国城下町にちなんだクイズを出題し街の理解を深めていただきます。

◀ 参考出題イメージ

岩国観光ウェルカム・マルチモニター

岩国観光ウェルカム・マルチモニターは、4面マルチを使った大型映像で、岩国市の歴史・沿革の変遷、地理、城下町の誕生と発展、錦帯橋をはじめとする観光スポット、グルメ・うまいもの自慢などの基本情報をガイダンス。岩国ぶらり城下町散歩の参考にさせていただきます。



モニターイメージ

周辺お散歩マップ

資料館周辺を中心に、岩国城下町のマップをグラフィックで示します。主な観光地等の見どころを表記するとともに、実際に足を運ぶことで初めて分かる、ディープな情報を、後から付加できる仕掛けを取り入れ、周遊につなげます。

(グルメ、お土産、体験 等に色分けした付箋で情報を追加していきます)

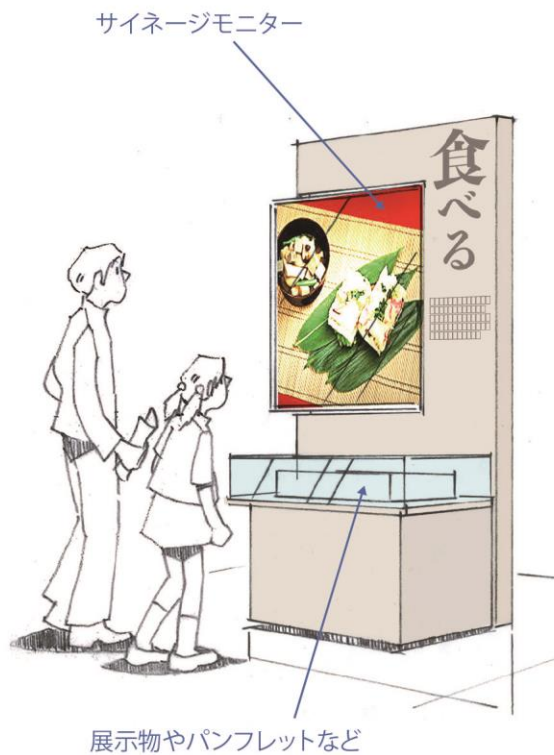


参考写真

岩国城下町の紹介

観光スポット紹介

観光スポット紹介では、カテゴリーでわかりやすく分類し、サイネージモニターで情報を映像提供します。内容は更新しやすいようにサイネージモニターとし、新しい情報が常に更新できるようなシステムとします。



カテゴリー例:食べる



高森牛



岩国れんこん



岸根(がんね)ぐり

カテゴリー例:体験する



篆刻体験
(てんこくたいけん)



甲冑体験

カテゴリー例:知る・学ぶ



錦帯橋のう飼



木炭自動車



岩国市立マイクロ生物館

カテゴリー例:遊ぶ



岩国城ロープウェイ



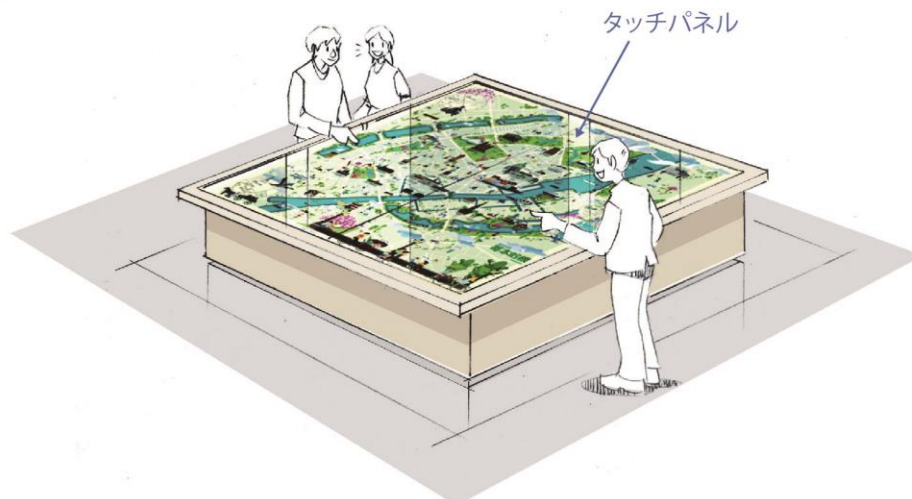
とことこトレイン



愛宕山ふくろう公園

岩国「まち歩きテーブルMAP」

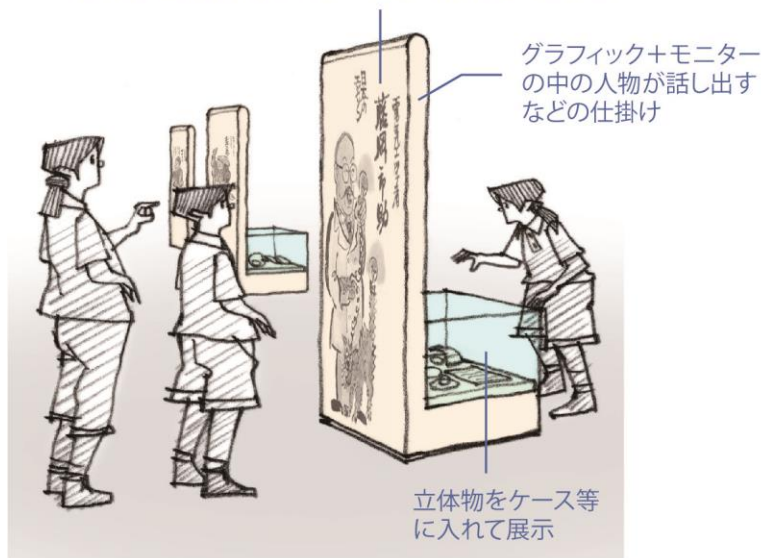
まち歩きMAPでは、テーブル型のタッチパネルモニターを使って、まちの地図のポイントにタッチすると、現在地である資料館から、目的地までのルートと、目的地の紹介がポップアップウィンドウで画面に現れます。ポップアップウィンドウでは、お店からのメッセージ動画や見所やメニューなど 観光客にとって、ガイドブックでは知り得ない、まち中を歩きたくなる情報を盛り込みます。



岩国ゆかりの人物紹介

岩国出身の偉人や、岩国で活躍する人を紹介する展示です。移動がしやすく、資料館内のさまざまな場所に設置可能です。片面に人物のイラストとその人を紹介する短いフレーズを載せます。裏面にはケースやモニター、展示棚などが組み込まれており、紹介している人物が話し出す映像や、その人ゆかりの物がケース展示されているなど、人物の紹介内容に合ったパーツで構成し、街中への誘導に繋がっていきます。

昔の偉人も、今生きて活躍している人も、「〇〇な人」という統一の文言で紹介します。
(例:「おはんを書いた人」「漬物を作っている人」等)



〈紹介人物例〉

- 今の岩国七町を盛り上げる方たち
- 岩国ゆかりの偉人たち



宇野千代さん



藤岡市助さん



田島直人さん

錦帯橋構造紹介

天井から錦帯橋の木組をイメージさせる天蓋を吊ります。現地では分かりにくい錦帯橋の構造を、より間近でみる事が可能です。

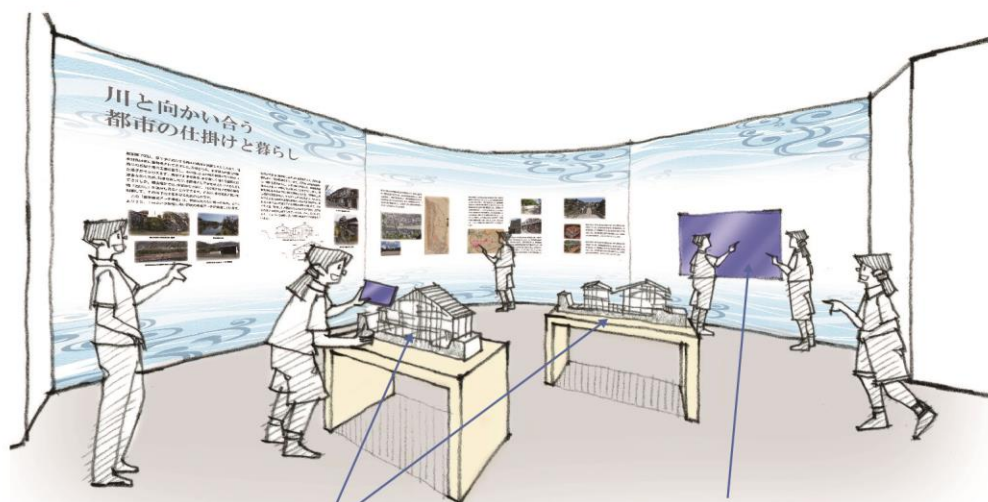
○2階展示イメージ

<展示室> <資料室>

岩国城下町と文化的景観

錦川と共に生きようとした岩国の人たちの町づくりの仕掛けや、暮らしの工夫、岩国城下町と文化的景観について、解説します。

グラフィックによる解説だけではなく、デジタルによる体験展示を取り入れ、理解を深めていただきます。



懸作りの町屋ジオラマ

岩国特有の家の作りや、土手の様子など、街中を歩いているだけでは気づきにくい構造などについて解説します。ARの仕掛けも取り入れ、暮らしの様子を伝えます。

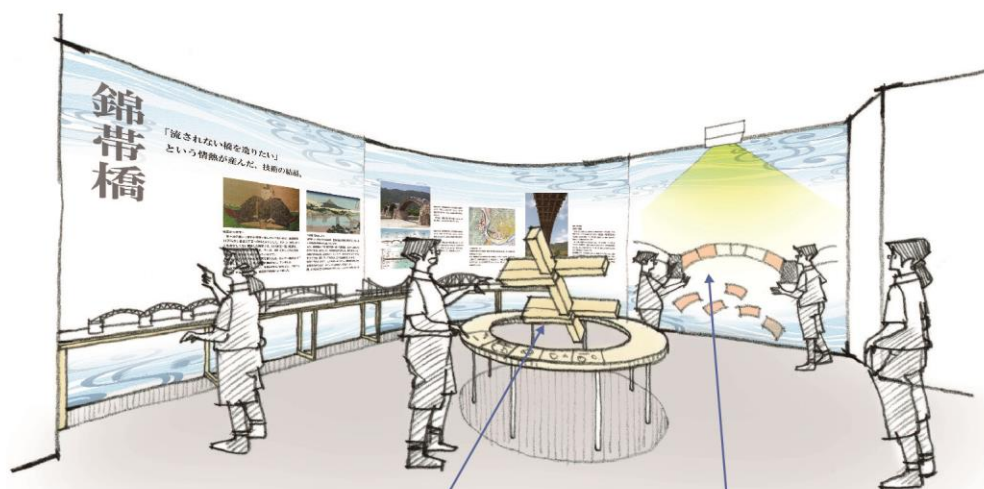
岩国クイズ

クイズ形式で錦帯橋と岩国城下町の仕掛けについて出題し、タッチパネル形式で回答していただきます。

錦帯橋について

試行錯誤が繰り返されてきた錦帯橋の歴史や、木組の構造の美しさ、素晴らしさについて紹介するコーナーです。

グラフィックによる解説だけではなく、デジタルによる体験展示を取り入れ、理解を深めていただきます。



錦帯橋接合部分模型

接合部分を拡大で見せることで構造にも興味を持ていただける展示とします。ARで組み方や錦帯橋全体の様子などが見られるコンテンツも付加します。

錦帯橋組み方体験

キネクトを使用し、錦帯橋を組み立てる体験ができる仕掛けです。組み立てる際の順番などを理解できる、体験装置です。

型板等の展示

型板は、5連のうち中央3つのアーチの部材を製作するため用いられる原寸の木製の型で、錦帯橋の形状等を伝承している物証といえます。ここでは、昭和の再建以前の架け替えで使用されたものを中心に展示・保管します。

木組体験

木組は接着剤や金物を使わないため、見た目を美しく仕上げることができます。木材に長さを出すための接合方法「継手（つぎて）」や、二つ以上の材を角度を付けて接合する「仕口（しくち）」などの技を集結して錦帯橋が作られている、その一番基礎の部分に体験展示で触れていただきます。

錦帯橋コレクションギャラリー

多くの人に愛されてきた歴史を、錦帯橋にちなんだ品々を展示します。今後新たに登場するコレクションに関しても追加できる仕様で、コレクションが増えていく楽しさも感じられる展示とします。

<多目的室>

錦帯橋の1/5模型組み立て体験や、岩国城下町に伝わる地域の伝統芸能の練習など、多目的に使用できるスペースです。外からも見える仕様にすれば、活動の様子を外から市外の方が見ることも可能になり、岩国の魅力を伝える仕掛けとすることもできます。



▲ 錦帯橋1/5模型 組み立て体験イメージ



◀ 小糠踊りイメージ

1. 管理運営の基本的考え方

- **（仮称）錦帯橋資料館等のコンセプトを実現する運営を行う**
 - ・ 錦帯橋の魅力や技術をわかりやすく伝えることに努めます。
 - ・ 岩国城下町来訪者に対してまちの魅力を紹介し、来訪者が岩国城下町を回遊することができるよう、きめ細やかな対応やサービスを提供します。
 - ・ だれもが利用できるユニバーサルデザインに配慮した運営を行います。
 - ・ 地域住民にも岩国城下町の歴史や文化を理解してもらえるよう、気軽に来館できるサービスを提供します。
- **地域との連携により、効果的な運営を行う**
 - ・ 城下町のお店の紹介や、旬な情報を地域住民と連携して、来訪者や地域に提供します。
 - ・ 南条踊りや小糠踊りなどの伝統芸能の継承のための稽古や発表の機会等アピールする取組みを、地域と連携して行います。
- **岩国城下町活性化のためのネットワークを形成する**
 - ・ 岩国市博物館、岩国シロヘビの館、岩国城、宇野千代生家等、岩国城下町を理解してもらえる施設とのネットワークを形成し、岩国城下町回遊の拠点となる運営を行います。
- **エントランス広場の活用を促進する**
 - ・ エントランス広場では、青空市場やキッチンカーによる飲食の提供、伝統芸能の発表等、市民や来訪者が楽しめるイベントを企画します。

2. 開館形態

（1）開館日時

- ・ 岩国城下町を回遊する拠点として、多くの人が利用できるよう、開館時間や休館日を検討します。
- ・ 岩国城下町の滞在時間を増やすために、季節やイベント等と連携した開館時間の設定を検討します。

（2）利用料金

- ・ 今後、展示施設の内容や運営方針を決定していく過程で検討します。

3. 管理運営方式

公的施設の管理運営手法については、一般的に以下の方式が考えられ、今後検討していきます。

【管理運営方式】

運営方式	方式の概要	施設理念からみた評価	メリット	デメリット
市直営方式	・市が直接職員を配置して運営する方式	・市の拠点として市の運営方針に沿った管理運営ができる。	・市民のための施設として有効に活用できる。 ・市の情報発信拠点としての運営が可能 ・自らの施設として愛着をもった運営が可能 ・事業の継続性が確保される。 ・福祉や市民サービスの視点での運営が可能	・運営ノリに対する不安がある。 ・行政主導で市民参加の意識が弱い ・単年度予算執行が運営の自由度を損なう恐れがある。
管理委託方式	・施設の運営や用途を公共団体やそれに準じる団体あるいは出資法人に委託する方式	・施設の運営理念に沿った委託内容として実現可能	・委託仕様により地域振興や市民サービス施設として活用可能 ・柔軟な人材確保、会計処理、住民サービス向上、経済効果が図れる。	・収支は市の会計となり受託者側に創造的運営の意識が乏しくなる。 ・行政側の責任が不明確になる場合がある。
指定管理者方式	・法人その他の団体が施設管理を「指定」又は「協定」を結んで運営する方式 ・指定管理者は使用許可権限をもち、自ら料金徴収できる。	・募集の仕様や応募者の選定により、施設の運営理念に沿った運営として実現可能	・民間企業による経営合理化が図られ、公的資金の支出削減、地域住民の満足度向上による地域活性化が可能 ・地域振興や市民サービス施設として運営可能 ・公共施設管理として近年主流	・定期的に管理者が変わる可能性があり、安定した運営の継続性の保証がない。
第3セクター方式	・公的目的を有し、かつ、その運営には民間のノウハウを活用することが有効である事業において、国や地方公共団体と民間が出資して設立する法人（第三セクター）が実施する方式	・市の施設としての基本理念は遵守しつつ、民間のノウハウによる施設運営	・民間の経営ノウハウや人材の活用で柔軟・機動的・創造的運営が可能 ・行政の予算にとらわれない迅速な対応が可能	・採算重視で施設本来の理念を見失うことが多い。 ・赤字対策等過大な財政負担を生じる可能性がある。 ・近年は事例が少ない。
			・施設整備費の負担軽減 ・企業内ノウハウの活用 ・公共との一体性で信用や信頼性が高まる。 ・新規事業展開の機会とできる。	・公共側経営方針との対立の可能性はある（予算・決算に議会の同意必要） ・経営責任が曖昧となる可能性が大きい。

第 1 1 章 今後のスケジュール等

1. 今後のスケジュール

(仮称) 錦帯橋資料館等整備事業の今後の予定は以下の通りです。

年次	事業項目	内容
令和 2 年度～4 年度	基本計画策定	(仮称) 錦帯橋資料館等整備に向けた設計の前提となる基本的な考え方、機能、規模、土地利用、概略の配置計画、階構成、展示の考え方と展示案等を検討
令和 5 年度	基本設計	実施設計の前段となる施設及び展示に関する条件の検討及び平面計画、立面計画、断面計画、設備計画（電気・機械・昇降機等）の検討
令和 6 年度	実施設計	工事発注に向けた、建築・設備・展示・外構の設計及び工事費積算、諸官庁申請等
令和 7 年度以降	工事着工～竣工 開館準備	建築工事・設備工事・展示工事・外構工事・公園工事・備品購入等

2. 概算工事費

概算工事費は、エントランス広場整備工事約 1 億 2 千万円、(仮称) 錦帯橋資料館整備工事約 9 億 5 千万円、(仮称) 岩国一丁目広場整備工事約 4 千万円、全体で約 1 1 億 1 千万円と想定しています。

検討の経過（一覧）

日程	内容
令和３年４月	岩国城下町団体ヒアリング
令和３年４月～６月	自治会長ヒアリング
令和３年７月	地区住民アンケート
令和３年９月３０日	第１回住民ワークショップ
令和３年１１月５日	第２回住民ワークショップ
令和３年１２月３日	第３回住民ワークショップ
令和３年１２月２０日	第４回住民ワークショップ
令和４年３月２８日	第５回住民ワークショップ
令和４年８月２６日・２７日	地元意見交換会